

大阪狭山市
男女共同参画に関する市民意識調査
結果報告書

令和5年3月

大阪狭山市

目次

I	調査の概要	1
1	調査の目的	1
2	調査対象	1
3	調査期間	1
4	調査方法	1
5	回収状況	1
6	調査結果の表示方法	1
II	調査結果	2
(1)	男女の平等意識について	2
(2)	職業生活について	40
(3)	子どもの教育について	57
(4)	ドメスティック・バイオレンス（DV）について	63
(5)	セクシュアル・ハラスメントについて	113
(6)	セクシュアル・マイノリティ（性的少数者）について	123
(7)	生きづらさについて	131
(8)	男女共同参画の取組みについて	136
(9)	あなた自身について	145

I 調査の概要

1 調査の目的

社会情勢の変化や国、大阪府の新たな施策に対応するために、市民の皆さまのニーズやこれまでの取組みの成果を把握することを目的に調査を実施しました。

2 調査対象

市内に住んでいる満18歳以上の方1,500人、層化無作為抽出

3 調査期間

令和5年2月3日～令和5年2月22日

4 調査方法

郵送配付・郵送回収及びインターネット回答

5 回収状況

	配付数	有効回答数	有効回答率
市民意識調査	1500通	492通	32.8%

6 調査結果の表示方法

- ・回答は各質問の回答者数（N）を基数とした百分率（％）で示してあります。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。
- ・クロス集計の場合、無回答を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計（全体）の有効回答数が合致しないことがあります。なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。
- ・調査結果を図表にて表示していますが、グラフ以外の表は、最も高い割合のものを  で網かけをしています。（無回答を除く）
- ・回答者数が1桁の場合、回答件数による表記としています。

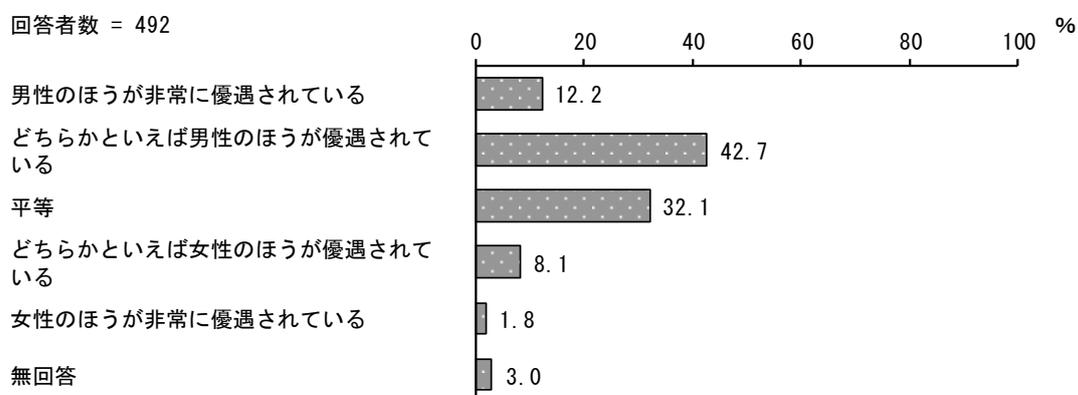
II 調査結果

(1) 男女の平等意識について

問1 あなたは、今からあげるような分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。

I. 家庭生活

「男性のほうがとても優遇されている」と「どちらかといえば男性のほうに優遇されている」をあわせた「男性の方が優遇されている」の割合が54.9%、「どちらかといえば女性のほうが優遇されている」と「女性のほうが非常に優遇されている」をあわせた「女性の方が優遇されている」の割合が9.9%、「平等」の割合が32.1%となっています。



【性別・経年比較】

平成30年度調査と比較すると、男性で「どちらかといえば女性のほうが優遇されている」と「女性のほうが非常に優遇されている」をあわせた「女性の方が優遇されている」の割合が増加しています。

単位：%

区分	回答者数(件)	男性のほうに非常に優遇されている	どちらかといえば男性のほうに優遇されている	平等	どちらかといえば女性のほうが優遇されている	女性のほうが非常に優遇されている	無回答
全体	492	12.2	42.7	32.1	8.1	1.8	3.0
男性 令和4年度調査	181	3.9	38.7	38.1	13.3	3.3	2.8
平成30年度調査	156	5.1	39.1	41.7	9.0	1.9	3.2
女性 令和4年度調査	297	17.2	45.1	29.3	4.7	1.0	2.7
平成30年度調査	256	18.4	47.7	23.0	5.9	0.8	4.3

【性別】

性別にみると、他に比べ、男性で「平等」の割合が、女性で「男性のほうが非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」をあわせた“男性の方が優遇されている”の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	男性のほう が非常に 優遇されて いる	どちらか といえ ば男性の ほう が優遇 されて いる	平等	どちら かとい え ば女性 のほう が優 遇 されて いる	女性 のほう が非 常に 優遇 されて いる	無 回 答
全 体	492	12.2	42.7	32.1	8.1	1.8	3.0
男性	181	3.9	38.7	38.1	13.3	3.3	2.8
女性	297	17.2	45.1	29.3	4.7	1.0	2.7
性別を答えることに抵抗を感じる	10	20.0	30.0	20.0	20.0	—	10.0

【性×共働き別】

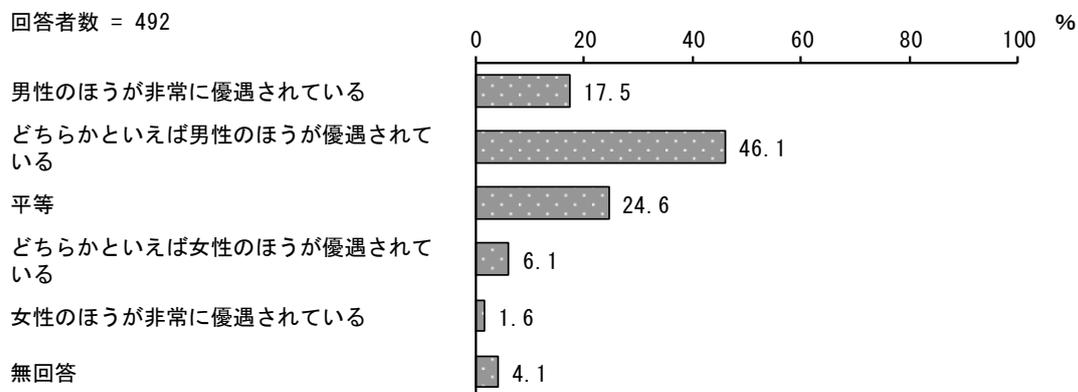
性×共働き別にみると、他に比べ、男性共働きをしているで「平等」の割合が、女性共働きをしていないで、「男性のほう非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性のほう優遇されている」をあわせた“男性のほう優遇されている”の割合が高くなっており、共働き世帯では、男女で傾向が異なります。

単位：％

区分	回答者数(件)	男性のほう が非常に 優遇されて いる	どちらか といえ ば男性の ほう が優遇 されて いる	平等	どちら かとい え ば女性 のほう が優 遇 されて いる	女性 のほう が非 常に 優遇 されて いる	無 回 答
全 体	492	12.2	42.7	32.1	8.1	1.8	3.0
男性 共働きをしている	58	1.7	32.8	46.6	15.5	1.7	1.7
共働きをしていない	56	5.4	41.1	37.5	8.9	5.4	1.8
女性 共働きをしている	96	17.7	43.8	28.1	6.3	1.0	3.1
共働きをしていない	64	18.8	53.1	25.0	3.1	—	—

2. 職場

「男性のほうが非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」をあわせた「男性のほうが優遇されている」の割合が63.6%、「どちらかといえば女性のほうが優遇されている」と「女性のほうが非常に優遇されている」をあわせた「女性の方が優遇されている」の割合が7.7%、「平等」の割合が24.6%となっています。



【性別・経年比較】

平成30年度調査と比較すると、大きな差はみられません。

単位：%

区分	回答者数(件)	男性のほう が非常に 優遇されて いる	どちらか といえ ば男性の ほうが 優遇 されて いる	平 等	ど ち ら か と い え ば 女 性 の ほ う が 優 遇 さ れ て い る	女 性 の ほ う が 非 常 に 優 遇 さ れ て い る	無 回 答
全 体	492	17.5	46.1	24.6	6.1	1.6	4.1
男性 令和4年度調査	181	12.7	40.3	27.6	12.7	2.8	3.9
平成30年度調査	156	12.8	41.7	29.5	9.0	1.9	5.1
女性 令和4年度調査	297	20.5	49.8	23.2	2.0	0.7	3.7
平成30年度調査	256	21.1	50.8	19.1	3.9	0.8	4.3

【性別】

性別にみると、『女性』で、「男性のほうが非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」をあわせた“男性のほうが優遇されている”の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	男性のほう が非常に 優遇されて いる	どちらか といえ ば男性の ほう が優遇 されて いる	平等	どちら かとい え ば女性 のほう が優 遇 されて いる	女性 のほう が非 常に 優遇 され てい る	無 回 答
全 体	492	17.5	46.1	24.6	6.1	1.6	4.1
男性	181	12.7	40.3	27.6	12.7	2.8	3.9
女性	297	20.5	49.8	23.2	2.0	0.7	3.7
性別を答えることに抵抗を感じる	10	20.0	30.0	20.0	10.0	10.0	10.0

【性×共働き別】

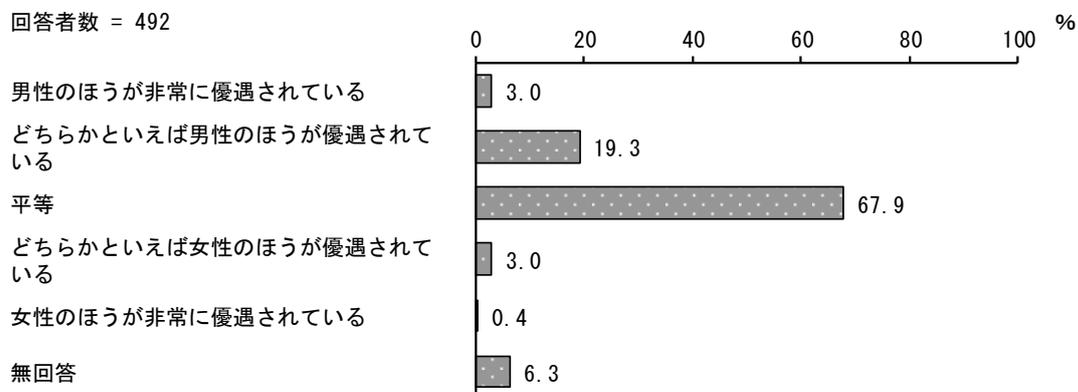
性×共働き別にみると、他に比べ、女性共働きをしていないで、「男性のほうが非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」をあわせた“男性のほうが優遇されている”の割合が、女性共働きをしているで「平等」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	男性のほう が非常に 優遇されて いる	どちらか といえ ば男性の ほう が優遇 されて いる	平等	どちら かとい え ば女性 のほう が優 遇 されて いる	女性 のほう が非 常に 優遇 され てい る	無 回 答
全 体	492	17.5	46.1	24.6	6.1	1.6	4.1
男性 共働きをしている	58	13.8	39.7	29.3	13.8	1.7	1.7
共働きをしていない	56	10.7	41.1	28.6	12.5	1.8	5.4
女性 共働きをしている	96	18.8	41.7	30.2	4.2	2.1	3.1
共働きをしていない	64	21.9	57.8	17.2	1.6	—	1.6

3. 学校教育の場

「平等」の割合が67.9%、「男性のほうが非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」をあわせた“男性のほうが優遇されている”の割合が22.3%、「どちらかといえば女性のほうが優遇されている」と「女性のほうが非常に優遇されている」をあわせた“女性の方が優遇されている”の割合が3.4%となっています。



【性別・経年比較】

平成30年度調査と比較すると、女性で「平等」の割合が増加しています。

単位：%

区分	回答者数(件)	男性のほうが非常に優遇されている	どちらかといえば男性のほうが優遇されている	平等	どちらかといえば女性のほうが優遇されている	女性のほうが非常に優遇されている	無回答
全体	492	3.0	19.3	67.9	3.0	0.4	6.3
男性 令和4年度調査	181	1.1	19.9	69.6	2.8	1.1	5.5
平成30年度調査	156	2.6	13.5	73.1	4.5	1.3	5.1
女性 令和4年度調査	297	3.4	19.9	67.3	3.0	—	6.4
平成30年度調査	256	4.7	24.6	59.8	3.1	—	7.8

【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。

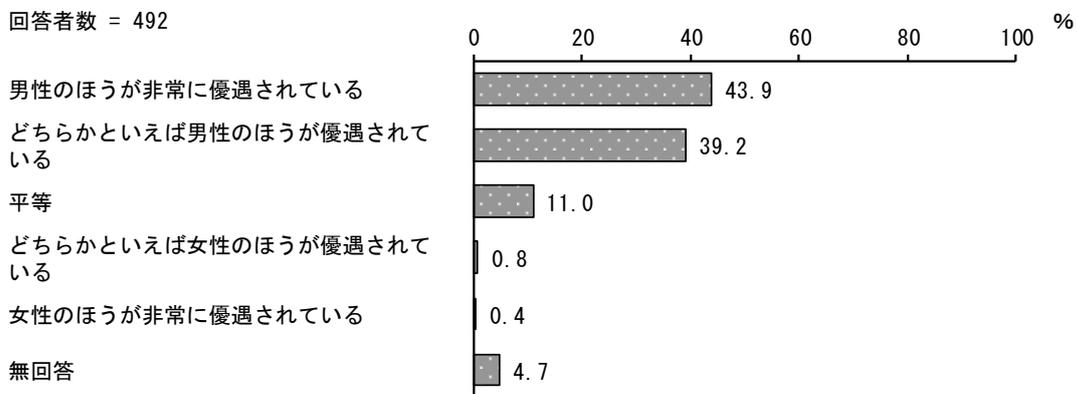
単位：％

区分	回答者数(件)	男性のほう が非常に優 遇されてい る	どちらか といえ ば男性の ほうが優 遇されて いる	平等	どちらか といえ ば女性 のほう が優遇 されて いる	女性 のほう が非常 に優遇 されて いる	無回答
全 体	492	3.0	19.3	67.9	3.0	0.4	6.3
男性	181	1.1	19.9	69.6	2.8	1.1	5.5
女性	297	3.4	19.9	67.3	3.0	—	6.4
性別を答えることに抵抗を感じる	10	30.0	—	50.0	10.0	—	10.0

4. 政治の場

「男性のほう非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性のほう優遇されている」をあわせた「男性のほう優遇されている」の割合が83.1%、「どちらかといえば女性のほう優遇されている」と「女性のほう非常に優遇されている」をあわせた「女性の方が優遇されている」の割合が1.2%、「平等」の割合が11.0%となっています。

回答者数 = 492



【性別・経年比較】

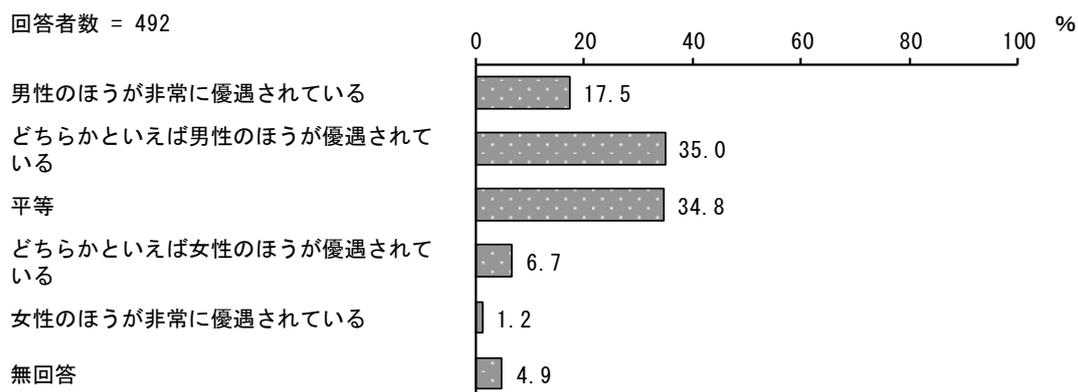
平成30年度調査と比較すると、男性で「男性のほうが非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」をあわせた“男性のほうが優遇されている”の割合が増加しています。

単位：％

区分	回答者数(件)	男性のほう が非常に 優遇されて いる	どちらか といえ ば男性の ほう が優遇 されて いる	平 等	ど ち ら か と い え ば 女 性 の ほう が 優 遇 さ れ て い る	女性 のほう が非常 に優遇 されて いる	無 回 答
全 体	492	43.9	39.2	11.0	0.8	0.4	4.7
男性 令和4年度調査	181	37.6	42.5	14.9	1.1	1.1	2.8
平成30年度調査	156	28.2	42.3	21.2	2.6	1.3	4.5
女性 令和4年度調査	297	47.1	38.0	9.1	0.3	—	5.4
平成30年度調査	256	49.6	42.3	5.5	—	—	3.5

5. 法律や制度の上

「男性のほうが非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」をあわせた“男性のほうが優遇されている”の割合が52.5%、「どちらかといえば女性のほうが優遇されている」と「女性のほうが非常に優遇されている」をあわせた“女性の方が優遇されている”の割合が7.9%、「平等」の割合が34.8%となっています。



【性別・経年比較】

平成 30 年度調査と比較すると、男性で「平等」の割合が増加しています。

単位：％

区分	回答者数(件)	男性のほう が非常に 優遇されて いる	どちらか といえ ば男性の ほうが 優遇 されて いる	平等	どちらか といえ ば女性 のほう が優 遇 されて いる	女性 のほう が非 常に 優遇 されて いる	無 回 答
全 体	492	17.5	35.0	34.8	6.7	1.2	4.9
男性 令和4年度調査	181	9.4	27.1	47.0	10.5	2.8	3.3
平成30年度調査	156	8.3	26.3	21.3	7.7	3.2	3.2
女性 令和4年度調査	297	21.9	40.4	27.6	4.4	0.3	5.4
平成30年度調査	256	21.1	44.1	24.2	3.1	1.6	5.9

【性別】

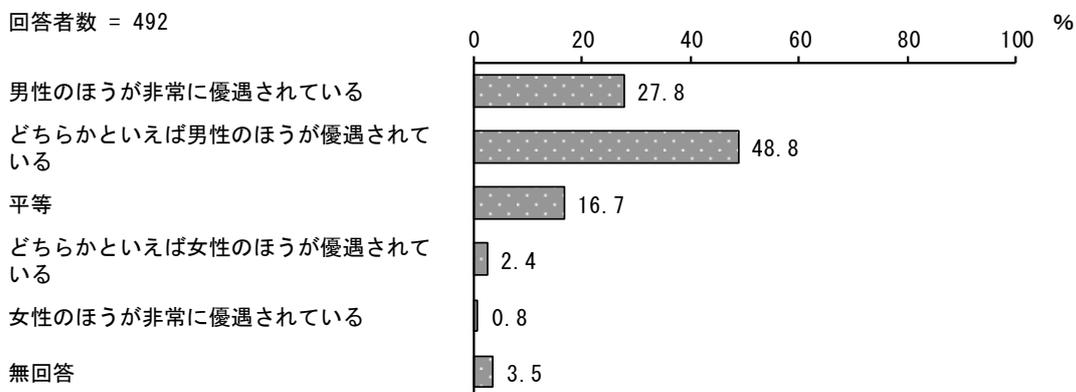
性別にみると、男性で「平等」の割合が、女性で「男性のほう
が非常に優遇されている」と「どちらかといえ
ば男性のほう
が優遇されて
いる」をあ
わせた“男性
のほう
が優遇
されて
いる”の割
合が高くな
っています。

単位：％

区分	回答者数(件)	男性のほう が非常に 優遇されて いる	どちらか といえ ば男性の ほうが 優遇 されて いる	平等	どちらか といえ ば女性 のほう が優 遇 されて いる	女性 のほう が非 常に 優遇 されて いる	無 回 答
全 体	492	17.5	35.0	34.8	6.7	1.2	4.9
男性	181	9.4	27.1	47.0	10.5	2.8	3.3
女性	297	21.9	40.4	27.6	4.4	0.3	5.4
性別を答えることに抵抗を感じる	10	40.0	20.0	30.0	—	—	10.0

6. 社会通念・慣習・しきたりなど

「男性のほうが非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」をあわせた“男性のほうが優遇されている”の割合が76.6%、「どちらかといえば女性のほうが優遇されている」と「女性のほうが非常に優遇されている」をあわせた“女性の方が優遇されている”の割合が3.2%、「平等」の割合が16.7%となっています。



【性別・経年比較】

平成30年度調査と比較すると、大きな差はありません。

単位：%

区分	回答者数(件)	男性のほう が非常に 優遇されて いる	どちらか といえ ば男性 のほう が優遇 されて いる	平等	どちら かとい え女性 のほう が優遇 されて いる	女性 のほう が非常 に優遇 されて いる	無回答
全体	492	27.8	48.8	16.7	2.4	0.8	3.5
男性 令和4年度調査	181	19.3	48.6	22.7	4.4	1.7	3.3
平成30年度調査	156	16.0	53.2	22.4	3.2	1.3	3.8
女性 令和4年度調査	297	32.7	49.2	13.8	1.0	0.3	3.0
平成30年度調査	256	32.0	52.7	9.0	2.7	—	3.5

【性別】

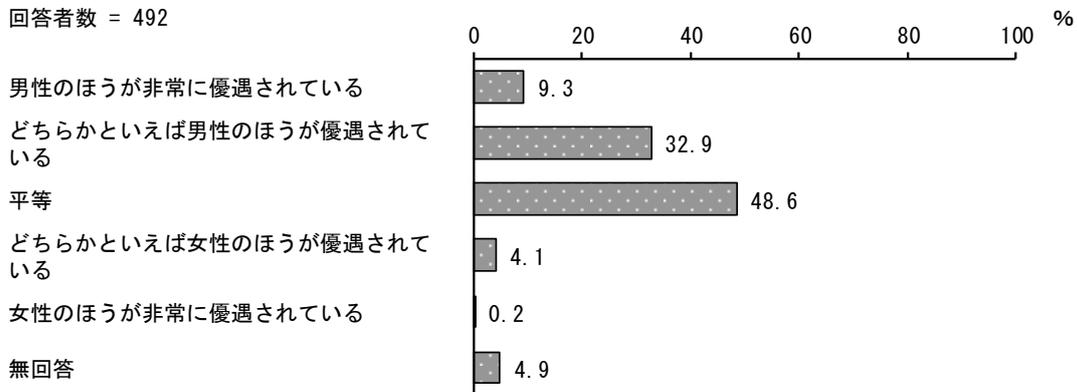
性別にみると、男性で「平等」の割合が、女性で「男性のほうが非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」をあわせた“男性のほうが優遇されている”の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	男性のほう が非常に 優遇されて いる	どちらか といえ ば男性の ほうが 優遇 されて いる	平 等	ど ち ら か と い え ば 女 性 の ほ う が 優 遇 さ れ て い る	女 性 の ほ う が 非 常 に 優 遇 さ れ て い る	無 回 答
全 体	492	27.8	48.8	16.7	2.4	0.8	3.5
男性	181	19.3	48.6	22.7	4.4	1.7	3.3
女性	297	32.7	49.2	13.8	1.0	0.3	3.0
性別を答えることに抵抗を感じる	10	50.0	30.0	—	10.0	—	10.0

7. 自治会やNPOなどの地域活動の場

「男性のほうがとても優遇されている」と「どちらかといえば男性のほうで優遇されている」をあわせた「男性のほうで優遇されている」の割合が42.2%、「どちらかといえば女性のほうで優遇されている」と「女性のほうで非常に優遇されている」をあわせた「女性の方が優遇されている」の割合が4.3%、「平等」の割合が48.6%となっています。



【性別・経年比較】

平成30年度調査と比較すると、女性で「平等」の割合が増加しています。

単位：%

区分	回答者数(件)	男性のほうで非常に優遇されている	どちらかといえば男性のほうで優遇されている	平等	どちらかといえば女性のほうで優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	無回答
全体	492	9.3	32.9	48.6	4.1	0.2	4.9
男性 令和4年度調査	181	5.5	27.6	55.2	7.2	0.6	3.9
男性 平成30年度調査	156	3.2	25.0	62.2	4.5	—	5.1
女性 令和4年度調査	297	11.4	36.4	44.8	2.4	—	5.1
女性 平成30年度調査	256	11.7	43.8	36.3	3.9	0.8	3.5

【性別】

性別にみると、男性で「平等」の割合が、女性で「男性のほうが非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」をあわせた“男性のほうが優遇されている”の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	男性のほう に優遇されて いる	どちらかとい えば男性のほう が優遇されて いる	平等	どちらかとい えば女性のほう が優遇されて いる	女性のほう に優遇されて いる	無回答
全 体	492	9.3	32.9	48.6	4.1	0.2	4.9
男性	181	5.5	27.6	55.2	7.2	0.6	3.9
女性	297	11.4	36.4	44.8	2.4	—	5.1
性別を答えることに抵抗を感じる	10	20.0	30.0	40.0	—	—	10.0

【年代別】

年代別にみると、他に比べ、20～29歳で「平等」の割合が、60～69歳で「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	男性のほう に優遇されて いる	どちらかとい えば男性のほう が優遇されて いる	平等	どちらかとい えば女性のほう が優遇されて いる	女性のほう に優遇されて いる	無回答
全 体	492	9.3	32.9	48.6	4.1	0.2	4.9
18～19歳	2	—	—	100.0	—	—	—
20～29歳	42	7.1	16.7	71.4	2.4	—	2.4
30～39歳	102	8.8	28.4	52.0	7.8	1.0	2.0
40～49歳	103	12.6	35.9	45.6	1.9	—	3.9
50～59歳	101	11.9	32.7	48.5	4.0	—	3.0
60～69歳	73	4.1	41.1	43.8	5.5	—	5.5
70歳以上	63	7.9	36.5	38.1	1.6	—	15.9

【仕事の有無別】

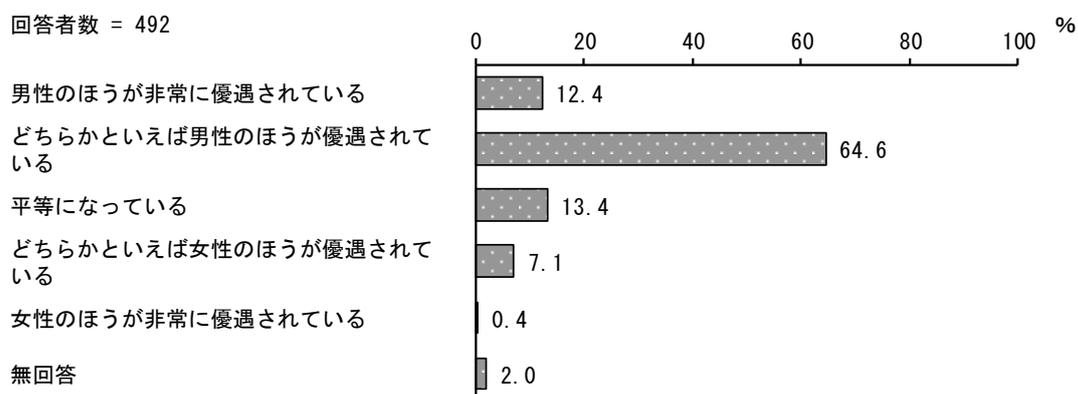
仕事の有無別にみると、大きな差はみられません。

単位：%

区分	回答者数(件)	男性のほうに 優遇されている	どちらかといえ ば男性のほうに 優遇されている	平等	どちらかといえ ば女性のほうに 優遇されている	女性のほうに 優遇されている	無回答
全 体	492	9.3	32.9	48.6	4.1	0.2	4.9
働いている	394	10.2	32.2	48.7	4.6	0.3	4.1
働いていない	83	7.2	37.3	45.8	2.4	—	7.2

問2 あなたは、社会全体でみた場合には、男女の地位は平等になっていると思いますか。(1つだけ○)

「男性のほうがとても優遇されている」と「どちらかといえば男性のほうで優遇されている」をあわせた「男性のほうで優遇されている」の割合が77.0%、「どちらかといえば女性のほうで優遇されている」と「女性のほうで非常に優遇されている」をあわせた「女性の方が優遇されている」の割合が7.5%、「平等になっている」の割合が13.4%となっています。



【性別・経年比較】

平成30年度調査と比較すると、男性で「どちらかといえば女性のほうで優遇されている」と「女性のほうで非常に優遇されている」をあわせた「女性の方が優遇されている」の割合が増加しています。

単位：%

区分	回答者数(件)	男性のほうで非常に優遇されている	どちらかといえば男性のほうで優遇されている	平等になっている	どちらかといえば女性のほうで優遇されている	女性のほうで非常に優遇されている	無回答
全体	492	12.4	64.6	13.4	7.1	0.4	2.0
男性 令和4年度調査	181	8.3	57.5	17.7	13.8	1.1	1.7
ff 平成30年度調査	156	8.3	59.6	21.8	7.7	1.3	1.3
女性 令和4年度調査	297	14.5	70.0	11.1	2.7	—	1.7
平成30年度調査	256	15.6	67.6	9.8	4.7	0.4	2.0

【性別】

性別にみると、女性で「男性のほうが非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」をあわせた“男性のほうが優遇されている”の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	男性のほう が非常に 優遇されて いる	どちらか といえ ば男性の ほう が優遇 されて いる	平等 になっ てい る	どちら かとい え ば女 性の ほう が優 遇 され てい る	女性 のほう が非 常 に優 遇さ れて い る	無 回 答
全 体	492	12.4	64.6	13.4	7.1	0.4	2.0
男性	181	8.3	57.5	17.7	13.8	1.1	1.7
女性	297	14.5	70.0	11.1	2.7	—	1.7
性別を答えることに抵抗を感じる	10	10.0	50.0	10.0	20.0	—	10.0

【年代別】

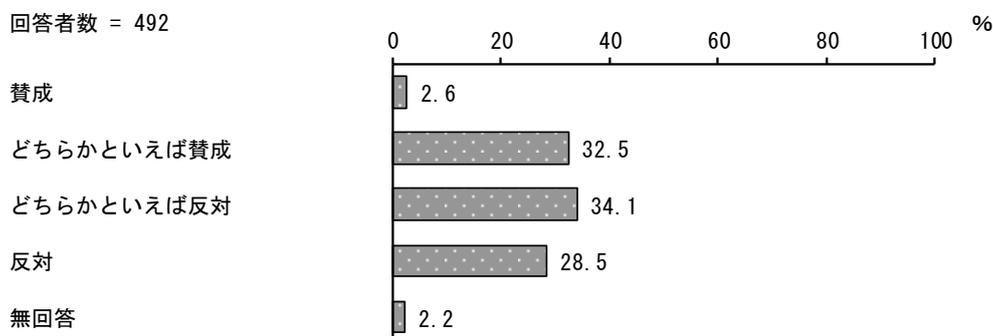
年代別にみると、他に比べ、50～59歳で、「男性のほうが非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」をあわせた“男性のほうが優遇されている”の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	男性のほう が非常に 優遇されて いる	どちらか といえ ば男性の ほう が優遇 されて いる	平等 になっ てい る	どちら かとい え ば女 性の ほう が優 遇 され てい る	女性 のほう が非 常 に優 遇さ れて い る	無 回 答
全 体	492	12.4	64.6	13.4	7.1	0.4	2.0
18～19歳	2	—	50.0	—	50.0	—	—
20～29歳	42	11.9	59.5	16.7	9.5	—	2.4
30～39歳	102	10.8	57.8	16.7	11.8	2.0	1.0
40～49歳	103	11.7	64.1	18.4	4.9	—	1.0
50～59歳	101	10.9	75.2	7.9	5.0	—	1.0
60～69歳	73	13.7	67.1	8.2	8.2	—	2.7
70歳以上	63	14.3	61.9	14.3	3.2	—	6.3

問3 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである。(1つだけ○)

「どちらかといえば反対」の割合が34.1%と最も高く、次いで「どちらかといえば賛成」の割合が32.5%、「反対」の割合が28.5%となっています。



【性別・経年比較】

平成30年度調査と比較すると、女性で「反対」の割合が増加しています。

単位：%

区分	回答者数(件)	賛成	賛成 どちらか かといえ ば	反対 ど ち ら か と い え ば	反対	無 回 答
全 体	492	2.6	32.5	34.1	28.5	2.2
男性 令和4年度調査	181	2.8	34.3	35.9	24.9	2.2
平成30年度調査	156	3.8	42.3	32.1	20.5	1.3
女性 令和4年度調査	297	2.4	31.3	33.7	31.0	1.7
平成30年度調査	256	6.3	39.5	31.6	19.9	2.7

【年代別】

年代別にみると、他に比べ、70歳以上で「どちらかといえば賛成」の割合が、50～59歳で「どちらかといえば反対」の割合が、40～49歳で「反対」の割合が高くなっています。

単位：％

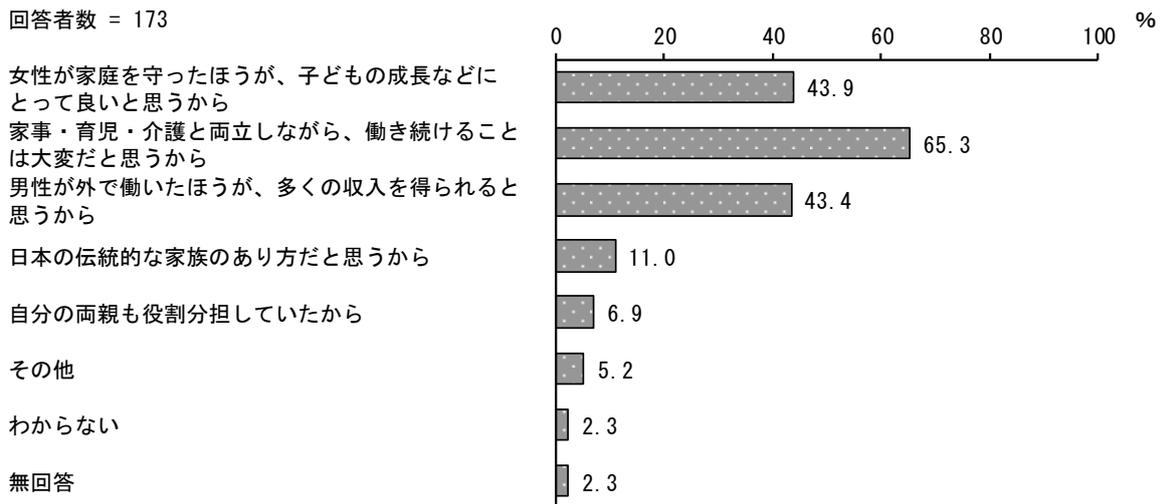
区分	回答者数 (件)	賛成	賛成 どちらか といえば	反対 どちらか といえば	反対	無回答
全 体	492	2.6	32.5	34.1	28.5	2.2
18～19歳	2	—	—	100.0	—	—
20～29歳	42	4.8	23.8	33.3	35.7	2.4
30～39歳	102	4.9	25.5	35.3	33.3	1.0
40～49歳	103	1.0	30.1	31.1	36.9	1.0
50～59歳	101	—	35.6	42.6	21.8	—
60～69歳	73	1.4	37.0	30.1	28.8	2.7
70歳以上	63	6.3	44.4	27.0	12.7	9.5

<問3で、「賛成」「どちらかといえば賛成」と答えた方におたずねします。>

問4 特にそう思う理由は何ですか。(あてはまる番号3つまで○)

「家事・育児・介護と両立しながら、働き続けることは大変だと思うから」の割合が65.3%と最も高く、次いで「女性が家庭を守ったほうが、子どもの成長などにとって良いと思うから」の割合が43.9%、「男性が外で働いたほうが、多くの収入を得られると思うから」の割合が43.4%となっています。

回答者数 = 173



【性別】

性別にみると、他に比べ、男性で「日本の伝統的な家族のあり方だと思うから」の割合が、女性で「男性が外で働いたほうが、多くの収入を得られると思うから」「家事・育児・介護と両立しながら、働き続けることは大変だと思うから」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	女性が家庭を守ったほうが、子どもの成長などにとって良いと思うから	家事・育児・介護と両立しながら、働き続けることは大変だと思うから	男性が外で働いたほうが、多くの収入を得られると思うから	日本の伝統的な家族のあり方だと思うから	自分の両親も役割分担していたから	その他	わからない	無回答
全体	173	43.9	65.3	43.4	11.0	6.9	5.2	2.3	2.3
男性	67	43.3	55.2	32.8	19.4	9.0	3.0	3.0	4.5
女性	100	45.0	72.0	51.0	6.0	6.0	6.0	1.0	—
性別を答えることに抵抗を感じる	4	25.0	75.0	50.0	—	—	—	—	25.0

【年代別】

年代別にみると、他に比べ、70歳以上で「日本の伝統的な家族のあり方だと思うから」の割合が、30～39歳で「男性が外で働いたほうが、多くの収入を得られると思うから」の割合が、60～69歳で「女性が家庭を守ったほうが、子どもの成長などにとって良いと思うから」の割合が高くなっています。

単位：％

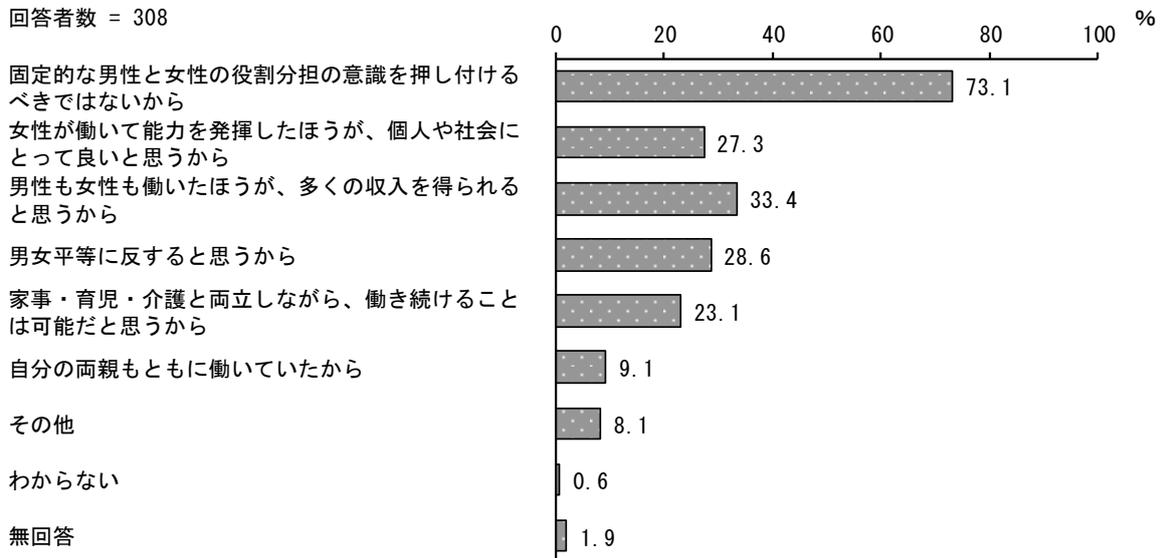
区分	回答者数(件)	女性が家庭を守ったほうが、子どもの成長などにとって良いと思うから	家事・育児・介護と両立しながら、働き続けることは大変だと思うから	男性が外で働いたほうが、多くの収入を得られると思うから	日本の伝統的な家族のあり方だと思うから	自分の両親も役割分担していたから	その他	わからない	無回答
全 体	173	43.9	65.3	43.4	11.0	6.9	5.2	2.3	2.3
18～19歳	—	—	—	—	—	—	—	—	—
20～29歳	12	25.0	66.7	50.0	—	—	—	—	—
30～39歳	31	41.9	74.2	54.8	—	9.7	3.2	—	—
40～49歳	32	37.5	71.9	37.5	15.6	3.1	6.3	3.1	3.1
50～59歳	36	47.2	58.3	44.4	8.3	2.8	11.1	—	—
60～69歳	28	53.6	71.4	50.0	3.6	7.1	—	7.1	7.1
70歳以上	32	46.9	53.1	31.3	31.3	15.6	3.1	—	3.1

<問3で、「どちらかといえば反対」「反対」と答えた方におたずねします。>

問5 特にそう思う理由は何ですか。(あてはまる番号3つまで○)

「固定的な男性と女性の役割分担の意識を押し付けるべきではないから」の割合が73.1%と最も高く、次いで「男性も女性も働いたほうが、多くの収入を得られると思うから」の割合が33.4%、「男女平等に反すると思うから」の割合が28.6%となっています。

回答者数 = 308



【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。

単位：%

区分	回答者数 (件)	固定的な男性と女性の役割分担の意識を押し付けるべきではないから	女性が働いて能力を発揮したほうが、個人や社会にとって良いと思うから	男性も女性も働いたほうが、多くの収入を得られると思うから	男女平等に反すると思うから	家事・育児・介護と両立しながら、働き続けることは可能だと思うから	自分の両親もともに働いていたから	その他	わからない	無回答
全体	308	73.1	27.3	33.4	28.6	23.1	9.1	8.1	0.6	1.9
男性	110	70.0	30.0	30.9	31.8	22.7	6.4	8.2	-	0.9
女性	192	75.0	26.0	35.4	26.6	22.9	10.4	7.8	1.0	2.6
性別を答えることに抵抗を感じる	5	60.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	-	-

【年代別】

年代別にみると、他に比べ、70歳以上で「男性も女性も働いたほうが、多くの収入を得られると思うから」「女性が働いて能力を発揮したほうが、個人や社会にとって良いと思うから」の割合が、60～69歳で「女性が働いて能力を発揮したほうが、個人や社会にとって良いと思うから」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	固定的な男性と女性の役割分担の意識を押し付けるべきではないから	女性が働いて能力を発揮したほうが、個人や社会にとって良いと思うから	男性も女性も働いたほうが、多くの収入を得られると思うから	男女平等に反すると思うから	家事・育児・介護と両立しながら、働き続けることは可能だと思うから	自分の両親もともに働いていたから	その他	わからない	無回答
全 体	308	73.1	27.3	33.4	28.6	23.1	9.1	8.1	0.6	1.9
18～19歳	2	100.0	—	—	—	—	50.0	—	—	—
20～29歳	29	75.9	13.8	34.5	34.5	24.1	17.2	6.9	—	3.4
30～39歳	70	75.7	17.1	41.4	24.3	21.4	7.1	14.3	—	2.9
40～49歳	70	61.4	30.0	25.7	31.4	28.6	10.0	8.6	1.4	1.4
50～59歳	65	78.5	30.8	30.8	32.3	21.5	3.1	7.7	1.5	—
60～69歳	43	79.1	39.5	30.2	20.9	25.6	14.0	4.7	—	2.3
70歳以上	25	64.0	40.0	48.0	24.0	12.0	8.0	—	—	4.0

【性×共働き別】

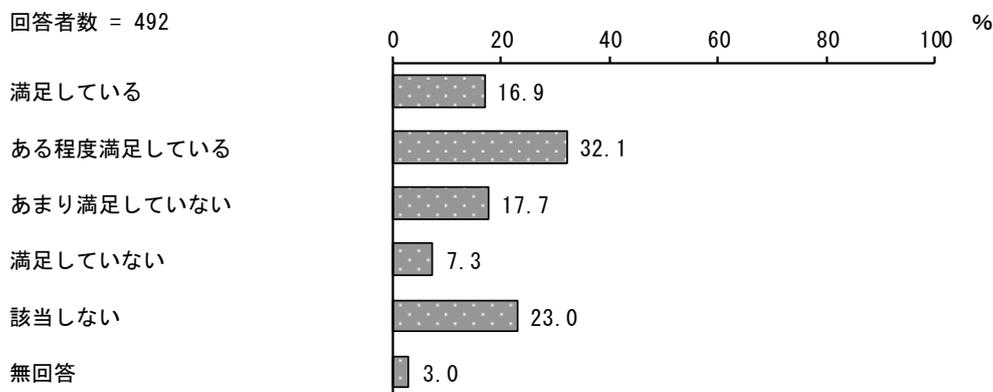
性×共働き別にみると、他に比べ、男性共働きをしているで「家事・育児・介護と両立しながら、働き続けることは可能だと思うから」「女性が働いて能力を發揮したほうが、個人や社会にとって良いと思うから」の割合が、共働きをしていないで「男女平等に反すると思うから」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	固定的な男性と女性の役割分担の意識を押し付けるべきではないから	女性が働いて能力を發揮したほうが、個人や社会にとって良いと思うから	男性も女性も働いたほうが、多くの収入を得られると思うから	男女平等に反すると思うから	家事・育児・介護と両立しながら、働き続けることは可能だと思うから	自分の両親もともに働いていたから	その他	わからない	無回答
全体	308	73.1	27.3	33.4	28.6	23.1	9.1	8.1	0.6	1.9
男性 共働きをしている	38	63.2	39.5	34.2	21.1	36.8	—	10.5	—	—
共働きをしていない	34	61.8	29.4	23.5	29.4	11.8	2.9	2.9	—	2.9
女性 共働きをしている	65	76.9	16.9	35.4	24.6	21.5	9.2	12.3	—	3.1
共働きをしていない	42	76.2	31.0	33.3	35.7	21.4	16.7	2.4	—	7.1

問6 あなたは、家事・育児・介護などの家庭生活での役割分担に満足していますか。
(1つだけ○)

「ある程度満足している」の割合が32.1%と最も高く、次いで「あまり満足していない」の割合が17.7%となっています。



【性別】

性別にみると、男性で「ある程度満足している」の割合が、女性で「あまり満足していない」の割合が高くなっています。「満足していない」と「あまり満足していない」をあわせた割合は、男性が9.4%に対して、女性は34.6%となっており、差が大きくなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	満足している	ある程度満足している	あまり満足していない	満足していない	該当しない	無回答
全体	492	16.9	32.1	17.7	7.3	23.0	3.0
男性	181	18.8	37.6	7.7	1.7	32.0	2.2
女性	297	15.5	29.3	24.2	10.4	17.5	3.0
性別を答えることに抵抗を感じる	10	20.0	30.0	—	10.0	30.0	10.0

【年代別】

年代別にみると、他に比べ、30～39歳で「あまり満足していない」の割合が、40～49歳で「ある程度満足している」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	満足している	ある程度満足している	あまり満足していない	満足していない	該当しない	無回答
全 体	492	16.9	32.1	17.7	7.3	23.0	3.0
18～19歳	2	50.0	—	—	—	50.0	—
20～29歳	42	21.4	35.7	9.5	2.4	28.6	2.4
30～39歳	102	20.6	33.3	24.5	2.0	18.6	1.0
40～49歳	103	15.5	38.8	19.4	8.7	16.5	1.0
50～59歳	101	13.9	29.7	14.9	9.9	31.7	—
60～69歳	73	13.7	31.5	19.2	12.3	19.2	4.1
70歳以上	63	17.5	23.8	12.7	6.3	25.4	14.3

【性年代別】

性年代別にみると、30歳代40歳代60歳代で「満足している」「ある程度満足している」の割合が、男性に比べて女性は低い傾向にあります。

特に30歳代60歳代女性は「あまり満足していない」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	満足している	ある程度満足している	あまり満足していない	満足していない	該当しない	無回答
全体	492	16.9	32.1	17.7	7.3	23.0	3.0
男性 全体	181	18.8	37.6	7.7	1.7	32.0	2.2
18~19歳	1	—	—	—	—	100.0	—
20歳代	16	25.0	31.3	6.3	—	31.3	6.3
30歳代	30	20.0	40.0	10.0	—	30.0	—
40歳代	40	17.5	47.5	10.0	2.5	22.5	—
50歳代	38	18.4	28.9	7.9	—	44.7	—
60歳代	30	16.7	43.3	6.7	6.7	26.7	—
70歳以上	25	20.0	28.0	4.0	—	36.0	12.0
女性 全体	297	15.5	29.3	24.2	10.4	17.5	3.0
18~19歳	1	100.0	—	—	—	—	—
20歳代	25	20.0	36.0	12.0	4.0	28.0	—
30歳代	69	20.3	30.4	31.9	2.9	13.0	1.4
40歳代	61	13.1	34.4	26.2	13.1	11.5	1.6
50歳代	61	11.5	31.1	19.7	14.8	23.0	—
60歳代	42	11.9	23.8	28.6	16.7	14.3	4.8
70歳以上	36	16.7	19.4	19.4	11.1	19.4	13.9

【性×共働き別】

性×共働き別にみると、他に比べ、女性共働きをしているで「あまり満足していない」の割合が、男性共働きをしているで「ある程度満足している」の割合が高くなっています。

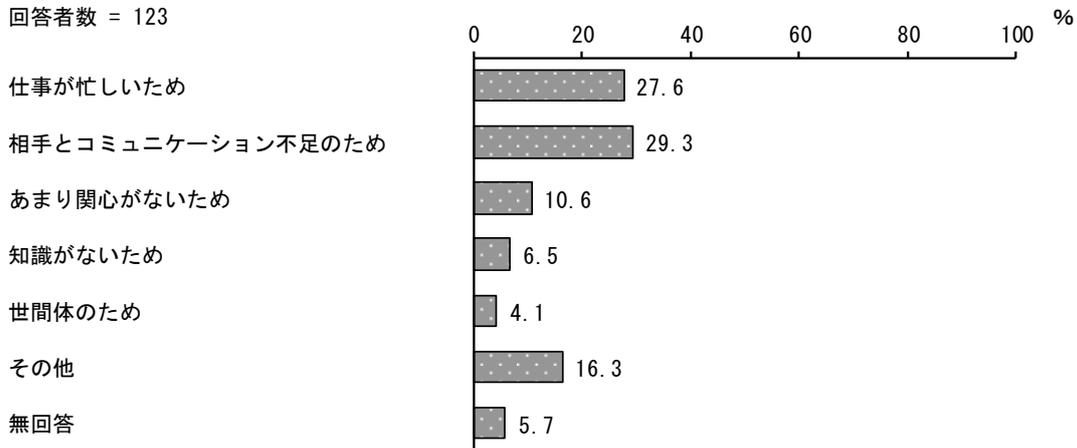
単位：%

区分	回答者数(件)	満足している	ある程度満足している	あまり満足していない	満足していない	該当しない	無回答
全 体	492	16.9	32.1	17.7	7.3	23.0	3.0
男性 共働きをしている	58	20.7	44.8	8.6	—	25.9	—
共働きをしていない	56	21.4	42.9	10.7	1.8	21.4	1.8
女性 共働きをしている	96	17.7	31.3	36.5	9.4	4.2	1.0
共働きをしていない	64	17.2	43.8	18.8	12.5	7.8	—

《問6で、「あまり満足していない」「満足していない」と答えた方におたずねします。》

問7 希望の役割分担になっていない主な理由は何だと思えますか。(1つだけ○)

「相手とコミュニケーション不足のため」の割合が29.3%と最も高く、次いで「仕事が忙しいため」の割合が27.6%、「あまり関心がないため」の割合が10.6%となっています。



【性別】

性別にみると、男性で「あまり関心がないため」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	仕事が忙しいため	相手とコミュニケーション不足のため	あまり関心がないため	知識がないため	世間体のため	その他	無回答
全体	123	27.6	29.3	10.6	6.5	4.1	16.3	5.7
男性	17	29.4	23.5	23.5	5.9	—	11.8	5.9
女性	103	27.2	30.1	8.7	6.8	4.9	16.5	5.8
性別を答えることに抵抗を感じる	1	—	100.0	—	—	—	—	—

【年代別】

年代別にみると、他に比べ、60歳以上で「相手とコミュニケーション不足のため」の割合が、40～49歳で「仕事が忙しいため」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	仕事が忙しいため	相手とコミュニケーション不足のため	あまり関心がないため	知識がないため	世間体のため	その他	無回答
全 体	123	27.6	29.3	10.6	6.5	4.1	16.3	5.7
18～19歳	—	—	—	—	—	—	—	—
20～29歳	5	20.0	40.0	20.0	—	—	20.0	—
30～39歳	27	40.7	18.5	—	3.7	7.4	18.5	11.1
40～49歳	29	41.4	17.2	17.2	6.9	—	10.3	6.9
50～59歳	25	24.0	28.0	12.0	16.0	4.0	12.0	4.0
60～69歳	23	4.3	47.8	13.0	—	4.3	26.1	4.3
70歳以上	12	16.7	50.0	8.3	8.3	8.3	8.3	—

【性年代別】

性年代別にみると、他に比べ、60歳代70歳以上で「相手とコミュニケーション不足のため」の割合が、40歳代で「仕事が忙しいため」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	仕事が忙しいため	相手とコミュニケーション不足のため	あまり関心がないため	知識がないため	世間体のため	その他	無回答
全 体	123	27.6	29.3	10.6	6.5	4.1	16.3	5.7
男性 全体	17	29.4	23.5	23.5	5.9	—	11.8	5.9
18～19歳	—	—	—	—	—	—	—	—
20歳代	1	—	—	—	—	—	100.0	—
30歳代	3	100.0	—	—	—	—	—	—
40歳代	5	40.0	—	40.0	—	—	20.0	—
50歳代	3	—	33.3	33.3	33.3	—	—	—
60歳代	4	—	50.0	25.0	—	—	—	25.0
70歳以上	1	—	100.0	—	—	—	—	—
女性 全体	103	27.2	30.1	8.7	6.8	4.9	16.5	5.8
18～19歳	—	—	—	—	—	—	—	—
20歳代	4	25.0	50.0	25.0	—	—	—	—
30歳代	24	33.3	20.8	—	4.2	8.3	20.8	12.5
40歳代	24	41.7	20.8	12.5	8.3	—	8.3	8.3
50歳代	21	28.6	23.8	9.5	14.3	4.8	14.3	4.8
60歳代	19	5.3	47.4	10.5	—	5.3	31.6	—
70歳以上	11	18.2	45.5	9.1	9.1	9.1	9.1	—

【性×共働き別】

性×共働き別にみると、他に比べ、共働きをしていないで「相手とコミュニケーション不足のため」の割合が高くなっています。

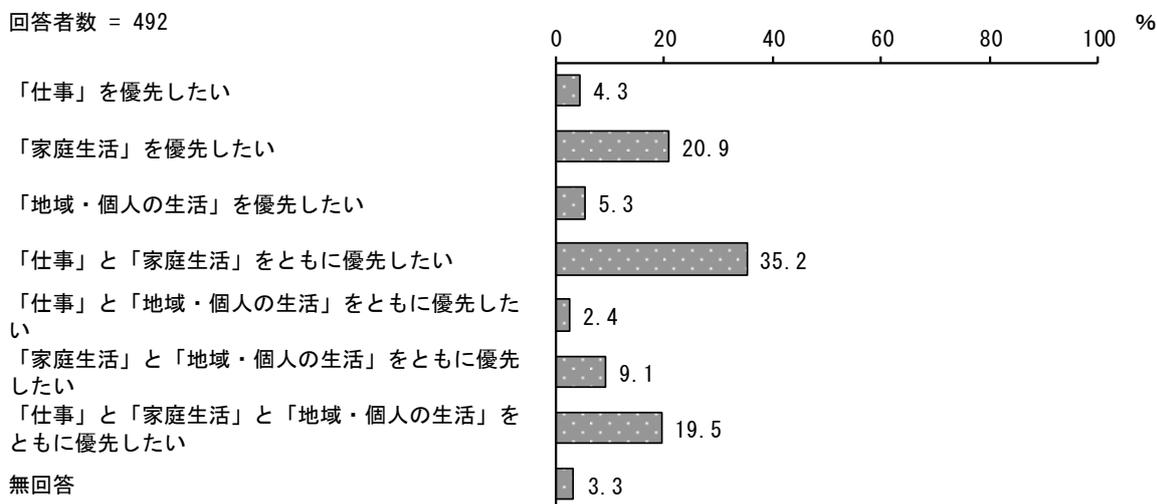
単位：％

区分	回答者数(件)	仕事が忙しいため	相手とコミュニケーション不足のため	あまり関心がないため	知識がないため	世間体のため	その他	無回答
全 体	123	27.6	29.3	10.6	6.5	4.1	16.3	5.7
男性 共働きをしている	5	60.0	—	—	20.0	—	20.0	—
共働きをしていない	7	28.6	42.9	14.3	—	—	—	14.3
女性 共働きをしている	44	31.8	25.0	4.5	9.1	6.8	13.6	9.1
共働きをしていない	20	15.0	45.0	5.0	—	5.0	25.0	5.0

問8 あなたの希望に最も近いものをお答えください。(1つだけ○)

「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい」の割合が35.2%と最も高く、次いで「家庭生活」を優先したい」の割合が20.9%、「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい」の割合が19.5%となっています。

回答者数 = 492



【性別】

性別にみると、大きな差はなく、総じて「家庭生活」を大切にしたい傾向となっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	「仕事」を優先したい	「家庭生活」を優先したい	「地域・個人の生活」を優先したい	「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	無回答
全体	492	4.3	20.9	5.3	35.2	2.4	9.1	19.5	3.3
男性	181	6.1	18.8	8.8	34.8	1.7	6.6	19.9	3.3
女性	297	3.4	22.6	3.0	35.7	3.0	10.4	19.2	2.7
性別を答えることに抵抗を感じる	10	-	10.0	10.0	30.0	-	10.0	30.0	10.0

【年代別】

年代別にみると、他に比べ、20～29歳、60～69歳で「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい」の割合が、30～39歳で「家庭生活」を優先したい」の割合が高くなっています。

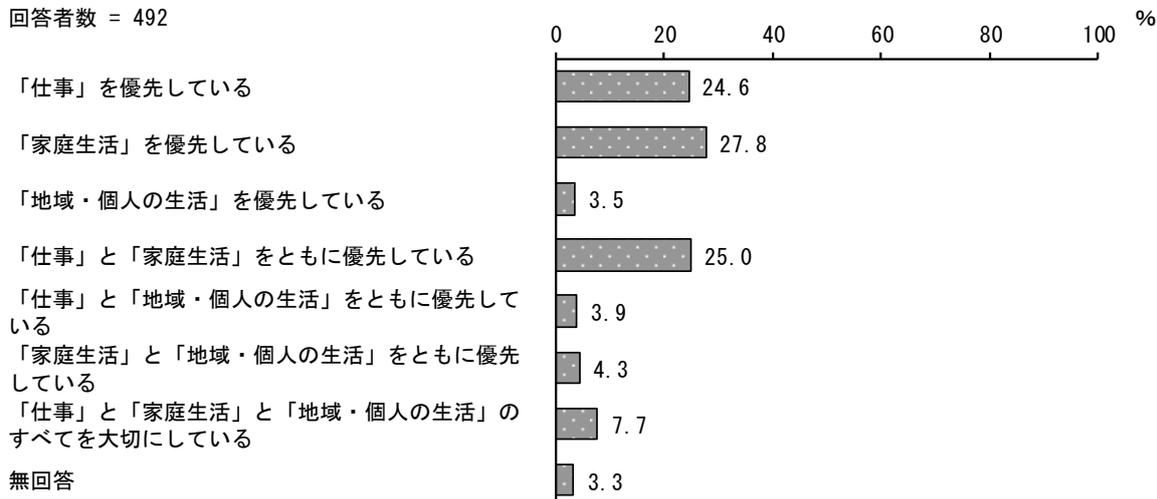
単位：%

区分	回答者数(件)	「仕事」を優先したい	「家庭生活」を優先したい	「地域・個人の生活」を優先したい	「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	無回答
全 体	492	4.3	20.9	5.3	35.2	2.4	9.1	19.5	3.3
18～19歳	2	50.0	—	50.0	—	—	—	—	—
20～29歳	42	4.8	11.9	4.8	35.7	—	14.3	26.2	2.4
30～39歳	102	4.9	29.4	3.9	36.3	2.9	7.8	12.7	2.0
40～49歳	103	—	23.3	6.8	39.8	2.9	8.7	17.5	1.0
50～59歳	101	5.9	15.8	4.0	39.6	4.0	6.9	22.8	1.0
60～69歳	73	2.7	17.8	5.5	26.0	1.4	11.0	30.1	5.5
70歳以上	63	7.9	20.6	6.3	31.7	—	9.5	12.7	11.1

問9 あなたの現実（現状）に最も近いものをこの中から1つだけお答えください。
（1つだけ○）

「家庭生活」を優先している」の割合が27.8%と最も高く、次いで「仕事」と「家庭生活」をともに優先している」の割合が25.0%、「仕事」を優先している」の割合が24.6%となっています。

回答者数 = 492



【性別】

性別にみると、女性で「家庭生活」を優先している」の割合が、男性で「仕事」を優先している」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	「仕事」を優先している	「家庭生活」を優先している	「地域・個人の生活」を優先している	「仕事」と「家庭生活」をともに優先している	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している	「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」のすべてを大切にしている	無回答
全体	492	24.6	27.8	3.5	25.0	3.9	4.3	7.7	3.3
男性	181	30.4	14.9	5.0	28.2	5.5	3.9	9.9	2.2
女性	297	21.9	35.7	2.4	23.2	3.0	4.7	5.4	3.7
性別を答えることに抵抗を感じる	10	10.0	20.0	10.0	20.0	-	-	40.0	-

【年代別】

年代別にみると、他に比べ、50～59歳で「仕事」を優先している」の割合が、60～69歳で「家庭生活」を優先している」の割合が高くなっています。

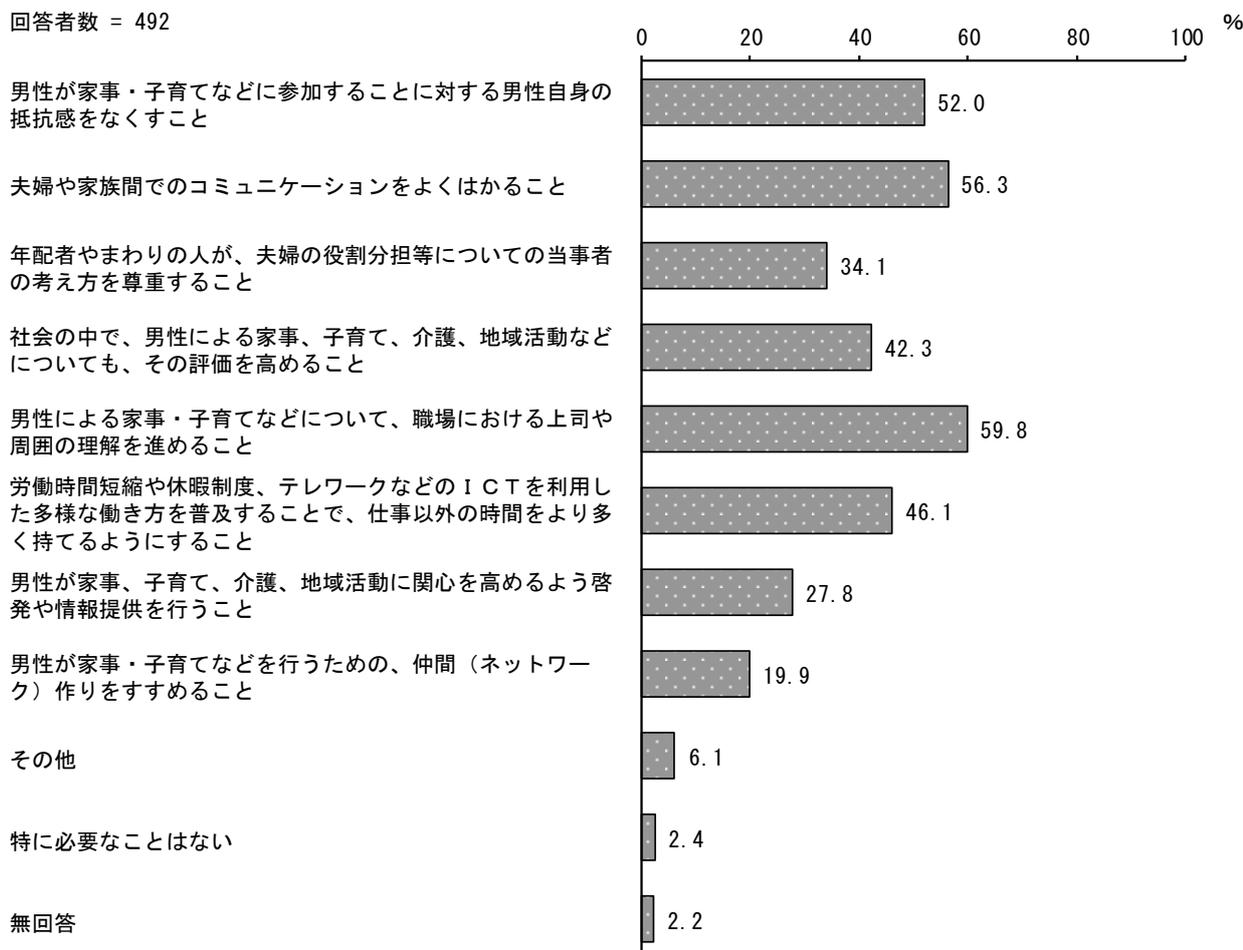
単位：%

区分	回答者数(件)	「仕事」を優先している	「家庭生活」を優先している	「地域・個人の生活」を優先している	「仕事」と「家庭生活」をともに優先している	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している	「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」のすべてを大切にしている	無回答
全体	492	24.6	27.8	3.5	25.0	3.9	4.3	7.7	3.3
18～19歳	2	—	50.0	—	—	—	—	50.0	—
20～29歳	42	23.8	31.0	4.8	19.0	4.8	—	11.9	4.8
30～39歳	102	27.5	32.4	2.0	25.5	4.9	2.0	5.9	—
40～49歳	103	29.1	23.3	2.9	28.2	5.8	1.9	7.8	1.0
50～59歳	101	36.6	19.8	4.0	29.7	2.0	1.0	5.0	2.0
60～69歳	73	15.1	37.0	4.1	19.2	4.1	5.5	9.6	5.5
70歳以上	63	4.8	25.4	4.8	23.8	1.6	19.0	9.5	11.1

問 10 今後、男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためにはどのようなことが必要だと思いますか。(あてはまる番号すべてに○)

「男性による家事・子育てなどについて、職場における上司や周囲の理解を進めること」の割合が59.8%と最も高く、次いで「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」の割合が56.3%、「男性が家事・子育てなどに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」の割合が52.0%となっています。

回答者数 = 492



【性別】

性別にみると、女性で「男性が家事、子育て、介護、地域活動に関心を高めるよう啓発や情報提供を行うこと」「男性が家事・子育てなどに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」「年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担等についての当事者の考え方を尊重すること」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	男性が家事・子育てなどに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと	夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること	年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担等についての当事者の考え方を尊重すること	社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域活動などについても、その評価を高めること	男性による家事・子育てなどについて、職場における上司や周囲の理解を進めること
全 体	492	52.0	56.3	34.1	42.3	59.8
男性	181	42.5	53.6	25.4	40.3	53.0
女性	297	57.6	58.6	39.4	44.8	64.3
性別を答えることに抵抗を感じる	10	60.0	40.0	50.0	10.0	50.0

区分	労働時間短縮や休暇制度、テレワークなどのICTを利用した多様な働き方を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること	男性が家事、子育て、介護、地域活動に関心を高めるよう啓発や情報提供を行うこと	男性が家事・子育てなどを行うための、仲間(ネットワーク)作りをすすめること	その他	特に必要なことはない	無回答
全 体	46.1	27.8	19.9	6.1	2.4	2.2
男性	48.6	19.3	13.8	7.2	3.9	2.2
女性	45.5	33.7	24.2	5.4	1.3	2.0
性別を答えることに抵抗を感じる	40.0	10.0	—	—	10.0	—

【年代別】

年代別にみると、他に比べ、20～29歳で「男性による家事・子育てなどについて、職場における上司や周囲の理解を進めること」の割合が、60～69歳で「年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担等についての当事者の考え方を尊重すること」の割合が、30～39歳で「社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域活動などについても、その評価を高めること」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	男性が家事・子育てなどに参加することに對する男性自身の抵抗感をなくすこと	夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること	年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担等についての当事者の考え方を尊重すること	社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域活動などについても、その評価を高めること	男性による家事・子育てなどについて、職場における上司や周囲の理解を進めること
全体	492	52.0	56.3	34.1	42.3	59.8
18～19歳	2	50.0	50.0	—	—	50.0
20～29歳	42	38.1	57.1	31.0	38.1	73.8
30～39歳	102	56.9	51.0	32.4	50.0	61.8
40～49歳	103	53.4	57.3	39.8	39.8	59.2
50～59歳	101	54.5	61.4	29.7	41.6	58.4
60～69歳	73	57.5	61.6	42.5	46.6	63.0
70歳以上	63	41.3	47.6	28.6	36.5	44.4

区分	労働時間短縮や休暇制度、テレワークなどのICTを利用した多様な働き方を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること	男性が家事、子育て、介護、地域活動に関心を高めるよう啓発や情報提供を行うこと	男性が家事・子育てなどを行うための、仲間(ネットワーク)作りをすすめること	その他	特に必要なことはない	無回答
全体	46.1	27.8	19.9	6.1	2.4	2.2
18～19歳	50.0	—	—	—	50.0	—
20～29歳	50.0	23.8	23.8	4.8	—	4.8
30～39歳	48.0	26.5	23.5	8.8	2.0	—
40～49歳	51.5	26.2	12.6	8.7	1.0	1.0
50～59歳	44.6	28.7	21.8	5.0	1.0	1.0
60～69歳	53.4	34.2	16.4	4.1	1.4	2.7
70歳以上	27.0	25.4	22.2	1.6	9.5	7.9

【性×共働き別】

性×共働き別にみると、他に比べ、女性共働きをしていないで「男性による家事・子育てなどについて、職場における上司や周囲の理解を進めること」の割合が、男性共働きをしているで「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」の割合が、女性共働きをしているで「男性が家事・子育てなどに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	男性が家事・子育てなどに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと	夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること	年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担等についての当事者の考え方を尊重すること	社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域活動などについても、その評価を高めること	男性による家事・子育てなどについて、職場における上司や周囲の理解を進めること
全体	492	52.0	56.3	34.1	42.3	59.8
男性 共働きをしている	58	50.0	65.5	25.9	48.3	62.1
共働きをしていない	56	30.4	48.2	19.6	37.5	42.9
女性 共働きをしている	96	59.4	62.5	38.5	46.9	64.6
共働きをしていない	64	50.0	56.3	39.1	42.2	76.6

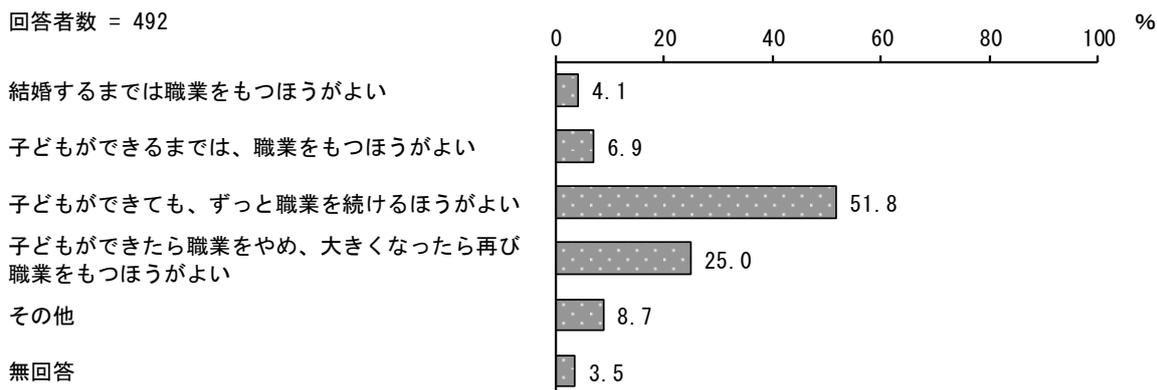
区分	労働時間短縮や休暇制度、テレワークなどのICTを利用した多様な働き方を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること	男性が家事、子育て、介護、地域活動に関心を高めるよう啓発や情報提供を行うこと	男性が家事・子育てなどを行うための、仲間(ネットワーク)作りをすすめること	その他	特に必要なことはない	無回答
全体	46.1	27.8	19.9	6.1	2.4	2.2
男性 共働きをしている	50.0	20.7	13.8	10.3	1.7	—
共働きをしていない	41.1	14.3	7.1	5.4	3.6	3.6
女性 共働きをしている	49.0	34.4	22.9	5.2	—	1.0
共働きをしていない	48.4	32.8	14.1	4.7	—	—

(2) 職業生活について

問 11 一般的に女性が職業をもつことについて、あなたはどのようにお考えですか。
(1つだけ○)

「子どもができて、ずっと職業を続けるほうがよい」の割合が51.8%と最も高く、次いで「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつほうがよい」の割合が25.0%となっています。

回答者数 = 492



【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。

単位：%

区分	回答者数 (件)	結婚するまでは職業をもつほうがよい	子どもができるまでは、職業をもつほうがよい	子どもができて、ずっと職業を続けるほうがよい	子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつほうがよい	その他	無回答
全 体	492	4.1	6.9	51.8	25.0	8.7	3.5
男性	181	6.6	6.6	48.6	24.9	10.5	2.8
女性	297	2.7	6.4	55.6	24.6	7.7	3.0
性別を答えることに抵抗を感じる	10	—	20.0	20.0	30.0	10.0	20.0

【年代別】

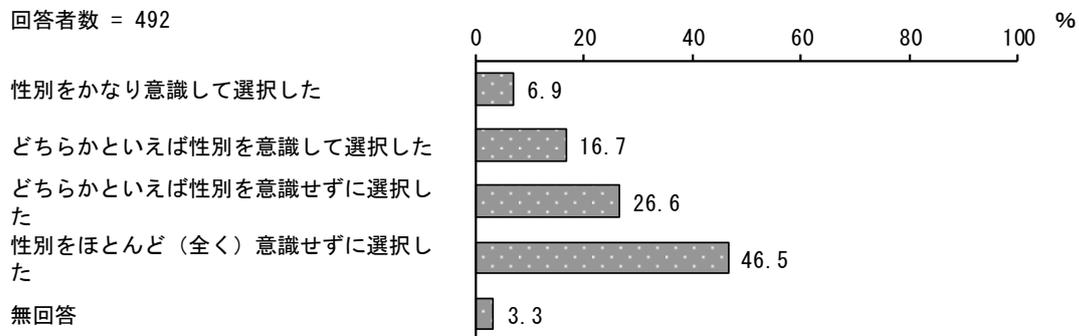
年代別にみると、他に比べ、70歳以上で「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつほうがよい」の割合が、60～69歳で「子どもができて、ずっと職業を続けるほうがよい」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	結婚するまでは職業をもつほうがよい	子どもができては、職業をもつほうがよい	子どもができて、ずっと職業を続けるほうがよい	子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつほうがよい	その他	無回答
全体	492	4.1	6.9	51.8	25.0	8.7	3.5
18～19歳	2	—	50.0	—	50.0	—	—
20～29歳	42	4.8	14.3	50.0	14.3	9.5	7.1
30～39歳	102	4.9	5.9	52.0	24.5	9.8	2.9
40～49歳	103	4.9	6.8	55.3	15.5	14.6	2.9
50～59歳	101	2.0	5.9	54.5	24.8	10.9	2.0
60～69歳	73	1.4	5.5	58.9	26.0	2.7	5.5
70歳以上	63	7.9	4.8	38.1	44.4	1.6	3.2

問 12 あなたは、進路や職業を選択する際に、性別を意識しましたか。(1つだけ○)

「性別をほとんど(全く)意識せずに選択した」の割合が46.5%と最も高く、次いで「どちらかといえば性別を意識して選択した」の割合が26.6%、「どちらかといえば性別を意識せずに選択した」の割合が16.7%となっています。



【性別】

性別にみると、男性で「性別をほとんど(全く)意識せずに選択した」の割合が、女性で「どちらかといえば性別を意識して選択した」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	性別をかなり意識して選択した	どちらかといえば性別を意識して選択した	どちらかといえば性別を意識せずに選択した	性別をほとんど(全く)意識せずに選択した	無回答
全体	492	6.9	16.7	26.6	46.5	3.3
男性	181	6.1	7.2	27.6	56.9	2.2
女性	297	7.4	22.6	27.3	40.1	2.7
性別を答えることに抵抗を感じる	10	10.0	20.0	—	40.0	30.0

【年代別】

年代別にみると、他に比べ、30～39歳で「性別をほとんど（全く）意識せずに選択した」の割合が、40～59歳で「どちらかといえば性別を意識せずに選択した」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	性別をかなり意識 して選択した	どちらかといえ ば性別を意識して選 択した	どちらかといえ ば性別を意識せず に選択した	性別をほとんど(全 く)意識せずに選 択した	無回 答
全 体	492	6.9	16.7	26.6	46.5	3.3
18～19歳	2	—	—	50.0	50.0	—
20～29歳	42	9.5	11.9	23.8	47.6	7.1
30～39歳	102	2.0	18.6	16.7	59.8	2.9
40～49歳	103	5.8	16.5	34.0	40.8	2.9
50～59歳	101	7.9	10.9	33.7	45.5	2.0
60～69歳	73	8.2	21.9	19.2	47.9	2.7
70歳以上	63	11.1	22.2	30.2	31.7	4.8

【性年代別】

性年代別にみると、どの年代で見ても、「性別をほとんど（全く）意識せずに選択した」の割合が、女性よりも男性が高くなっています。

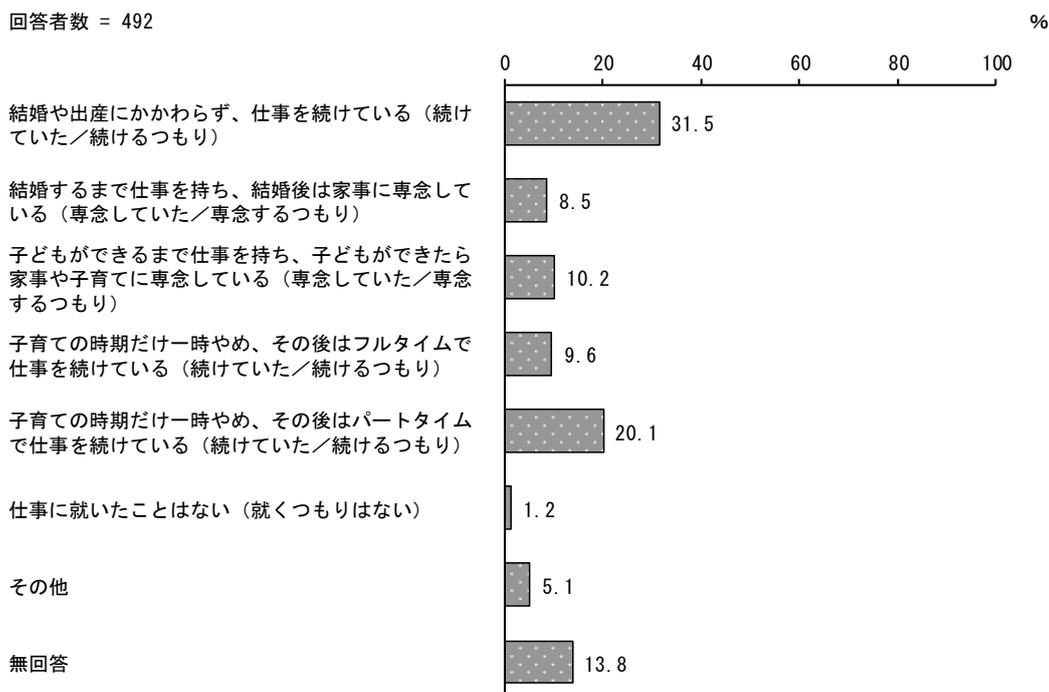
また、60歳代70歳以上で「性別をかなり意識して選択した」の割合が男性に比べて女性が高くなっています。60歳代70歳以上に比べると年代が低くなると男女での差はそれほど大きくありません。

単位：％

区分	回答者数 (件)	性別をかなり意識して選択した	どちらかといえば性別を意識して選択した	どちらかといえば性別を意識せずに選択した	性別をほとんど（全く）意識せずに選択した	無回答
全体	492	6.9	16.7	26.6	46.5	3.3
男性 全体	181	6.1	7.2	27.6	56.9	2.2
18～19歳	1	—	—	—	100.0	—
20歳代	16	12.5	6.3	18.8	56.3	6.3
30歳代	30	—	13.3	6.7	76.7	3.3
40歳代	40	7.5	5.0	30.0	55.0	2.5
50歳代	38	7.9	2.6	36.8	52.6	—
60歳代	30	3.3	6.7	26.7	60.0	3.3
70歳以上	25	8.0	12.0	44.0	36.0	—
女性 全体	297	7.4	22.6	27.3	40.1	2.7
18～19歳	1	—	—	100.0	—	—
20歳代	25	8.0	16.0	28.0	44.0	4.0
30歳代	69	1.4	21.7	21.7	52.2	2.9
40歳代	61	4.9	23.0	37.7	31.1	3.3
50歳代	61	8.2	14.8	32.8	41.0	3.3
60歳代	42	11.9	33.3	14.3	40.5	—
70歳以上	36	13.9	30.6	22.2	30.6	2.8

問 13 <女性の方にお聞きします>あなたの場合、実際には次のどれにあてはまりますか。または、どのようにされるつもりですか。
 <男性の方にお聞きします>あなたの配偶者・パートナーの場合、実際には、次のどれにあてはまりますか。

「結婚や出産にかかわらず、仕事を続けている（続けていた／続けるつもり）」の割合が31.5%と最も高く、次いで「子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続けている」の割合が20.1%、「子どもができるまで仕事を持ち、子どもができたら家事や子育てに専念している（専念していた／専念するつもり）」の割合が10.2%となっています。



【性別】

「結婚や出産にかかわらず、仕事を続けている（続けていた／続けるつもり）」の割合が最も多くなっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	結婚や出産にかかわらず、仕事を続けている（続けていた／続けるつもり）	結婚するまで仕事を持ち、結婚後は家事に専念している（専念していた／専念するつもり）	子どもができるまで仕事を持ち、子どもができたら家事や子育てに専念している（専念していた／専念するつもり）	子育ての時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続けている（続けていた／続けるつもり）	子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続けている（続けていた／続けるつもり）	仕事に就いたことはない（就くつもりはない）	その他	無回答
全体	492	31.5	8.5	10.2	9.6	20.1	1.2	5.1	13.8
男性	181	26.5	8.8	8.3	10.5	19.9	2.8	3.9	19.3
女性	297	35.0	8.8	10.8	9.1	20.5	0.3	5.7	9.8
性別を答えることに抵抗を感じる	10	30.0	-	20.0	-	20.0	-	10.0	20.0

【年代別】

年代別にみると、他に比べ、20～49歳で「結婚や出産にかかわらず、仕事を続けている（続けていた／続けるつもり）」の割合が高くなっています。

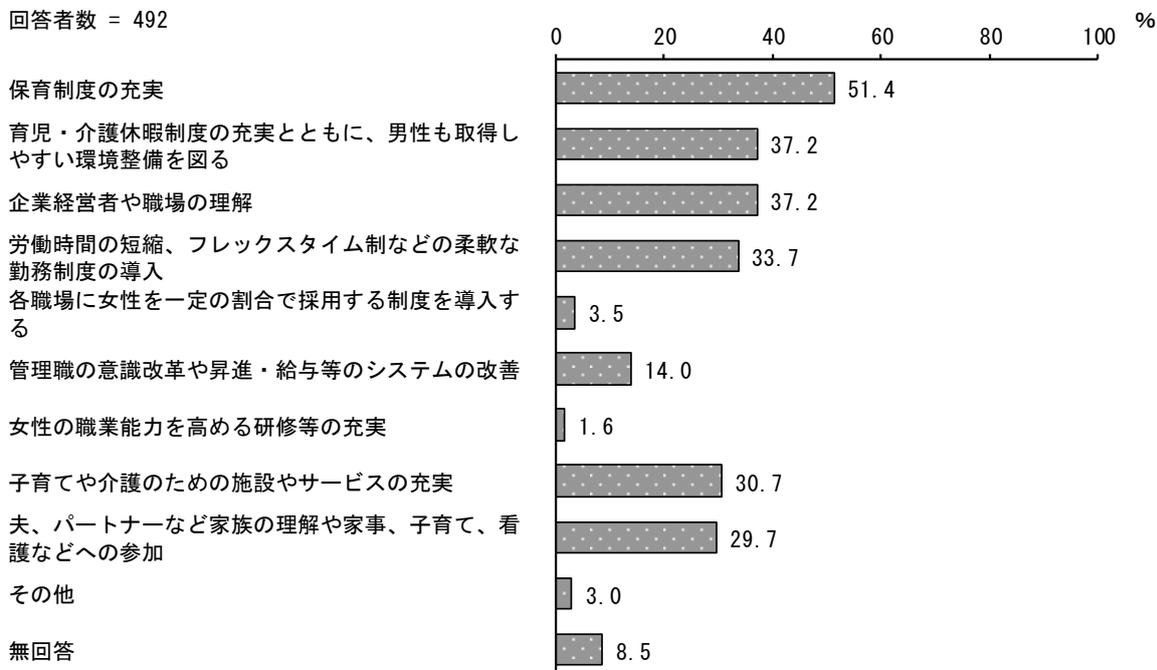
単位：％

区分	回答者数(件)	結婚や出産にかかわらず、仕事を続けている（続けていた／続けるつもり）	結婚するまで仕事を持ち、結婚後は家事に専念している（専念していた／専念するつもり）	子どもができるまで仕事を持ち、子どもができたから家事や子育てに専念している（専念していた／専念するつもり）	子育ての時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続けている（続けていた／続けるつもり）	子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続けている（続けていた／続けるつもり）	仕事に就いたことはない（就くつもりはない）	その他	無回答
全体	492	31.5	8.5	10.2	9.6	20.1	1.2	5.1	13.8
18～19歳	2	—	—	—	—	50.0	—	—	50.0
20～29歳	42	40.5	2.4	11.9	9.5	11.9	2.4	4.8	16.7
30～39歳	102	37.3	4.9	9.8	9.8	14.7	1.0	9.8	12.7
40～49歳	103	37.9	4.9	14.6	4.9	22.3	1.0	2.9	11.7
50～59歳	101	31.7	6.9	6.9	12.9	21.8	—	5.9	13.9
60～69歳	73	23.3	20.5	5.5	12.3	23.3	1.4	4.1	9.6
70歳以上	63	17.5	14.3	11.1	7.9	23.8	3.2	1.6	20.6

問 14 出産・子育て・介護などの理由で、女性が仕事を辞めずに働き続けるためには、どのようなことが必要だと思いますか。(あてはまる番号3つまで○)

「保育制度の充実」の割合が51.4%と最も高く、次いで「育児・介護休暇制度の充実とともに、男性も取得しやすい環境整備を図る」、「企業経営者や職場の理解」の割合が37.2%となっています。

回答者数 = 492



【性別】

性別にみると、男性で「管理職の意識改革や昇進・給与等のシステムの改善」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	保育制度の充実	育児・介護休暇制度の充実とともに、男性も取得しやすい環境整備を図る	企業経営者や職場の理解	労働時間の短縮、フレックスタイム制などの柔軟な勤務制度の導入	各職場に女性を一定の割合で採用する制度を導入する	管理職の意識改革や昇進・給与等のシステムの改善	女性の職業能力を高める研修等の充実	子育てや介護のための施設やサービスの充実	夫、パートナーなど家族の理解や家事、子育て、看護などへの参加	その他	無回答
全体	492	51.4	37.2	37.2	33.7	3.5	14.0	1.6	30.7	29.7	3.0	8.5
男性	181	54.1	37.0	36.5	29.3	4.4	21.5	0.6	26.0	26.0	4.4	5.0
女性	297	49.8	37.4	37.7	36.4	2.7	10.1	2.4	34.3	32.3	2.4	10.1
性別を答えることに抵抗を感じる	10	60.0	40.0	40.0	40.0	10.0	-	-	20.0	10.0	-	20.0

【年代別】

年代別にみると、他に比べ、20～29歳で「育児・介護休暇制度の充実とともに、男性も取得しやすい環境整備を図る」「管理職の意識改革や昇進・給与等のシステムの改善」「保育制度の充実」の割合が高くなっています。

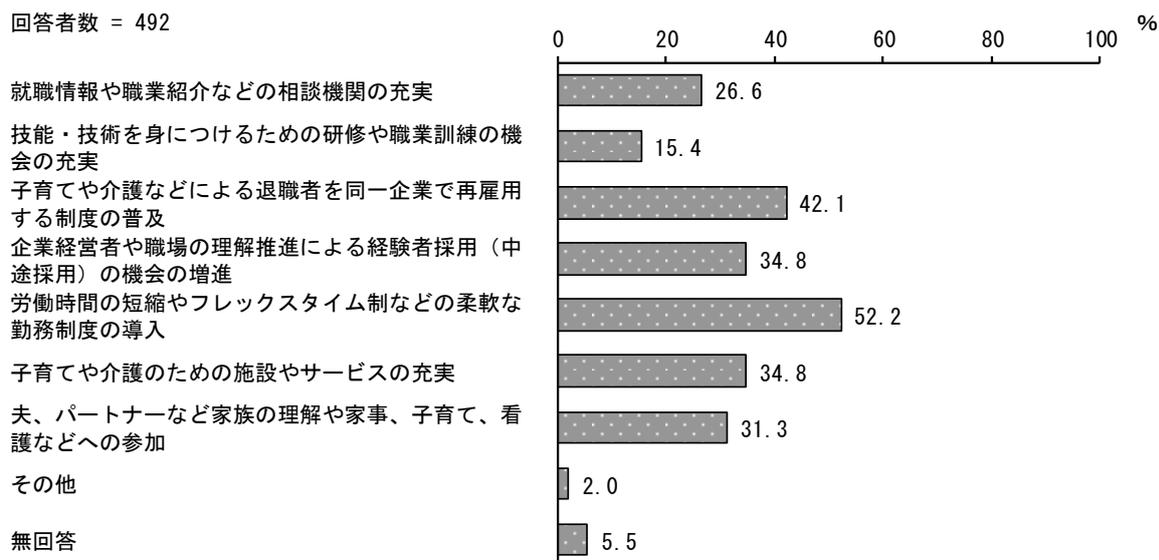
単位：％

区分	回答者数(件)	保育制度の充実	育児・介護休暇制度の充実とともに、男性も取得しやすい環境整備を図る	企業経営者や職場の理解	労働時間の短縮、フレックスタイム制などの柔軟な勤務制度の導入	各職場に女性を一定の割合で採用する制度を導入する	管理職の意識改革や昇進・給与等のシステムの改善	女性の職業能力を高める研修等の充実	子育てや介護のための施設やサービスの充実	夫、パートナーなど家族の理解や家事、子育て、看護などへの参加	その他	無回答
全 体	492	51.4	37.2	37.2	33.7	3.5	14.0	1.6	30.7	29.7	3.0	8.5
18～19歳	2	—	—	50.0	—	—	—	—	50.0	50.0	—	50.0
20～29歳	42	61.9	54.8	31.0	28.6	2.4	28.6	2.4	21.4	21.4	2.4	9.5
30～39歳	102	52.9	38.2	32.4	42.2	1.0	10.8	1.0	29.4	30.4	5.9	9.8
40～49歳	103	55.3	30.1	42.7	40.8	4.9	15.5	1.9	27.2	31.1	1.0	4.9
50～59歳	101	43.6	38.6	35.6	37.6	5.0	9.9	1.0	33.7	35.6	5.9	6.9
60～69歳	73	50.7	39.7	38.4	23.3	1.4	19.2	1.4	32.9	32.9	1.4	11.0
70歳以上	63	52.4	31.7	41.3	19.0	6.3	9.5	3.2	36.5	17.5	—	9.5

問 15 出産・子育て・介護などで仕事を辞めた後、再就職を希望する女性が、再就職しやすくなるためには、どのようなことが必要だと思いますか。
(あてはまる番号3つまで○)

「労働時間の短縮やフレックスタイム制などの柔軟な勤務制度の導入」の割合が52.2%と最も高く、次いで「子育てや介護などによる退職者を同一企業で再雇用する制度の普及」の割合が42.1%、「企業経営者や職場の理解推進による経験者採用（中途採用）の機会の増進」、「子育てや介護のための施設やサービスの充実」の割合が34.8%となっています。

回答者数 = 492



【性別】

性別にみると、男性で「企業経営者や職場の理解推進による経験者採用（中途採用）の機会の増進」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数（件）	就職情報や職業紹介などの相談機関の充実	技能・技術を身につけるための研修や職業訓練の機会の充実	子育てや介護などによる退職者を同一企業で再雇用する制度の普及	企業経営者や職場の理解推進による経験者採用（中途採用）の機会の増進	労働時間の短縮やフレックスタイム制などの柔軟な勤務制度の導入	子育てや介護のための施設やサービスの充実	夫、パートナーなど家族の理解や家事、子育て、看護などへの参加	その他	無回答
全体	492	26.6	15.4	42.1	34.8	52.2	34.8	31.3	2.0	5.5
男性	181	28.2	17.7	43.1	40.3	47.0	32.6	27.1	2.2	2.8
女性	297	26.3	14.8	41.4	31.6	55.6	36.0	34.0	2.0	6.4
性別を答えることに抵抗を感じる	10	10.0	—	50.0	30.0	60.0	40.0	30.0	—	20.0

【年代別】

年代別にみると、他に比べ、60～69歳で「企業経営者や職場の理解推進による経験者採用（中途採用）の機会の増進」の割合が、30～39歳で「労働時間の短縮やフレックスタイム制などの柔軟な勤務制度の導入」の割合が、20～29歳で「子育てや介護のための施設やサービスの充実」の割合が高くなっています。

単位：%

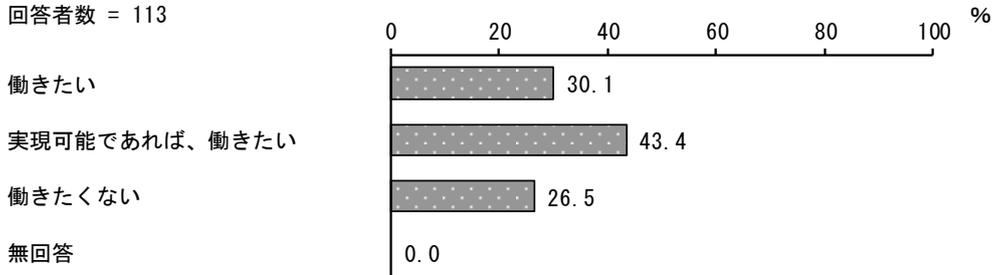
区分	回答者数（件）	就職情報や職業紹介などの相談機関の充実	技能・技術を身につけるための研修や職業訓練の機会の充実	子育てや介護などによる退職者を同一企業で再雇用する制度の普及	企業経営者や職場の理解推進による経験者採用（中途採用）の機会の増進	労働時間の短縮やフレックスタイム制などの柔軟な勤務制度の導入	子育てや介護のための施設やサービスの充実	夫、パートナーなど家族の理解や家事、子育て、看護などへの参加	その他	無回答
全 体	492	26.6	15.4	42.1	34.8	52.2	34.8	31.3	2.0	5.5
18～19歳	2	100.0	50.0	—	—	—	50.0	100.0	—	—
20～29歳	42	31.0	21.4	45.2	31.0	42.9	42.9	23.8	2.4	4.8
30～39歳	102	24.5	11.8	41.2	26.5	64.7	28.4	34.3	2.9	4.9
40～49歳	103	29.1	16.5	37.9	34.0	57.3	33.0	34.0	2.9	3.9
50～59歳	101	27.7	18.8	45.5	42.6	46.5	33.7	35.6	3.0	4.0
60～69歳	73	23.3	13.7	42.5	49.3	52.1	35.6	26.0	—	8.2
70歳以上	63	23.8	12.7	41.3	23.8	41.3	41.3	23.8	—	9.5

<女性の方で、現在、家事専業または、無職の方（学生は除く）にお聞きします。>

問 16 あなたは今後働きたいとお考えですか。（1つだけ○）

「実現可能であれば、働きたい」の割合が 43.4%と最も高く、次いで「働きたい」の割合が 30.1%、「働きたくない」の割合が 26.5%となっています。

回答者数 = 113



【年代別】

年代別にみると、他に比べ、30～39歳で「働きたい」の割合が、60歳以上で「働きたくない」の割合が、40～49歳で「実現可能であれば、働きたい」の割合が高くなっています。

単位：%

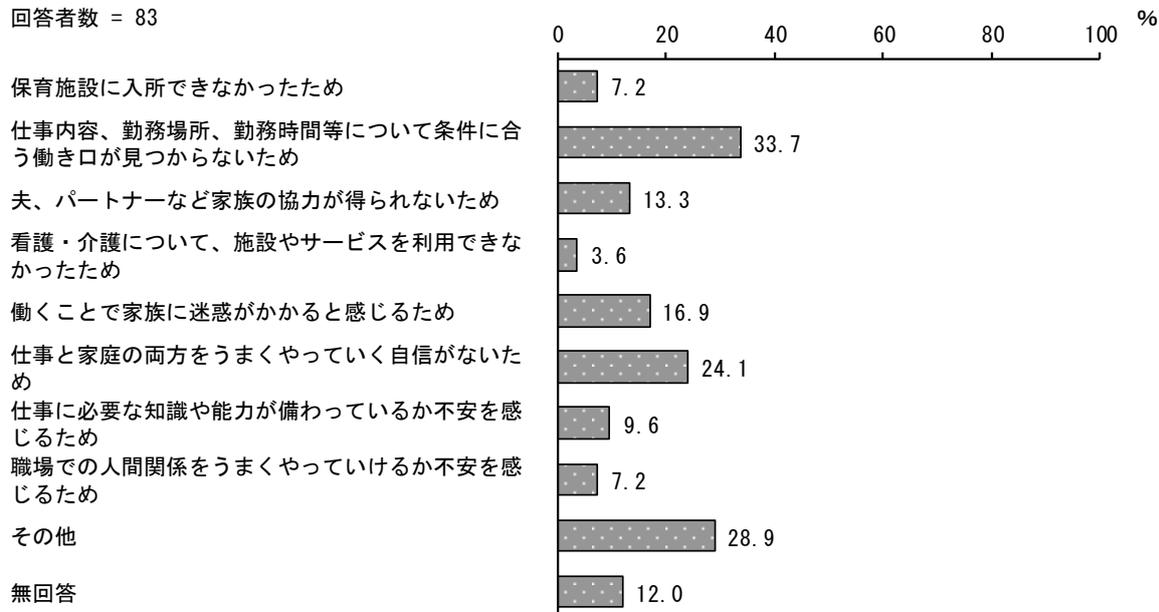
区分	回答者数 (件)	働きたい	実現可能であれば、 働きたい	働きたくない	無回答
全 体	113	30.1	43.4	26.5	—
18～19歳	—	—	—	—	—
20～29歳	9	66.7	22.2	11.1	—
30～39歳	23	56.5	34.8	8.7	—
40～49歳	20	40.0	55.0	5.0	—
50～59歳	12	33.3	41.7	25.0	—
60～69歳	24	4.2	45.8	50.0	—
70歳以上	22	9.1	40.9	50.0	—

<問 16で「働きたい」「実現可能であれば、働きたい」と回答した方にお聞きします。>

問 16-1 今後は働きたいけれども、現在働くことができない理由はなんですか。

「仕事内容、勤務場所、勤務時間等について条件に合う働き口が見つからないため」の割合が33.7%と最も高く、次いで「仕事と家庭の両方をうまくやっていく自信がないため」の割合が24.1%、「働くことで家族に迷惑がかかると感じるため」の割合が16.9%となっています。

回答者数 = 83



【年代別】

年代別にみると、他に比べ、40～49歳で「仕事と家庭の両方をうまくやっていく自信がないため」「働くことで家族に迷惑がかかると感じるため」の割合が、60～69歳で「仕事内容、勤務場所、勤務時間等について条件に合う働き口が見つからないため」の割合が高くなっています。

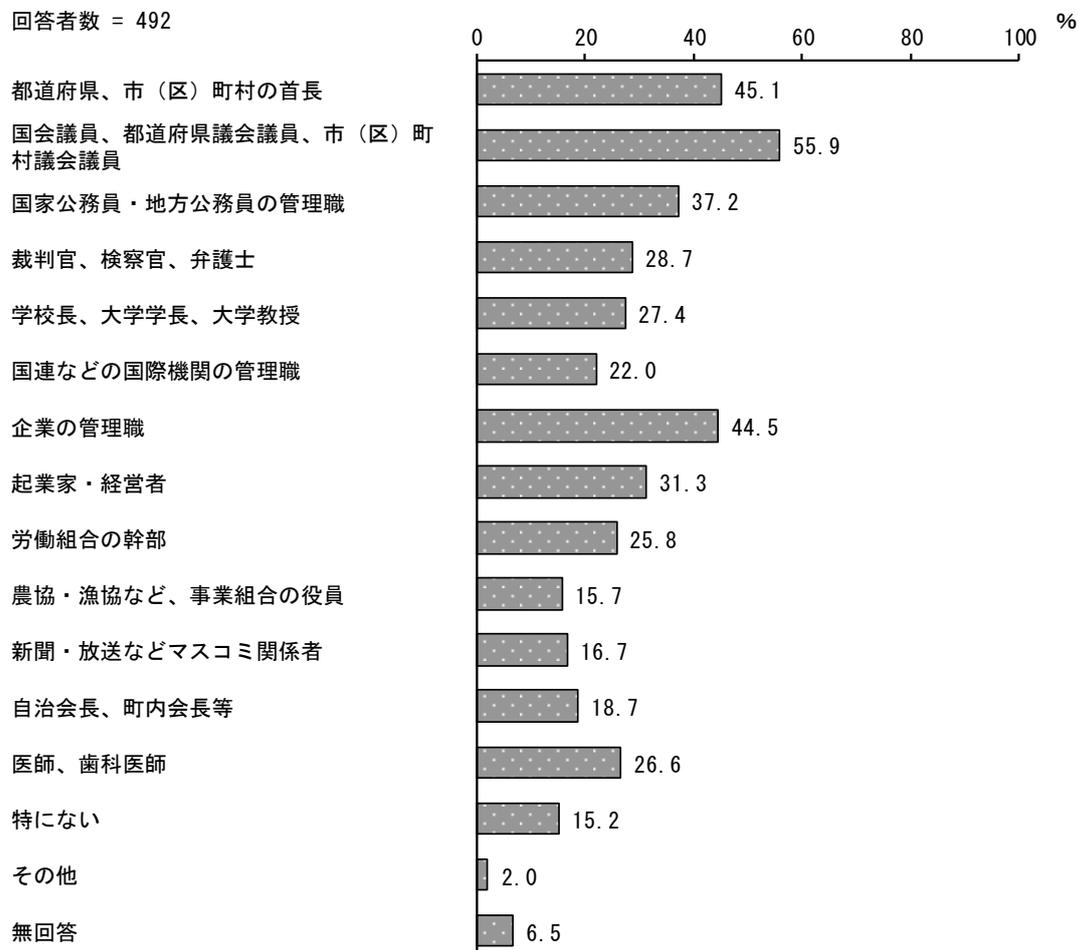
単位：％

区分	回答者数(件)	保育施設に入所できなかったため	仕事内容、勤務場所、勤務時間等について条件に合う働き口が見つからないため	夫、パートナーなど家族の協力が得られないため	看護・介護について、施設やサービスを利 用できなかったため	働くことで家族に迷惑がかかると感じる ため	仕事と家庭の両方をうまくやっていく自 信がないため	仕事に必要な知識や能力が備わっている か不安を感じるため	職場での人間関係をうまくやっていける か不安を感じるため	その他	無回答
全 体	83	7.2	33.7	13.3	3.6	16.9	24.1	9.6	7.2	28.9	12.0
18～19歳	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
20～29歳	8	—	50.0	12.5	—	25.0	25.0	12.5	12.5	25.0	12.5
30～39歳	21	14.3	19.0	9.5	4.8	4.8	23.8	4.8	4.8	66.7	4.8
40～49歳	19	10.5	36.8	21.1	5.3	36.8	47.4	5.3	10.5	10.5	5.3
50～59歳	9	—	44.4	11.1	—	11.1	11.1	33.3	11.1	22.2	—
60～69歳	12	8.3	41.7	8.3	8.3	8.3	—	8.3	—	25.0	8.3
70歳以上	11	—	27.3	9.1	—	18.2	18.2	9.1	—	—	54.5

問 17 次にあげるような職業や役職において、今後女性がもっと増えるほうがよいと思うのはどれですか。(あてはまる番号すべてに○)

「国会議員、都道府県議会議員、市（区）町村議会議員」の割合が 55.9%と最も高く、次いで「都道府県、市（区）町村の首長」の割合が 45.1%、「企業の管理職」の割合が 44.5%となっています。

回答者数 = 492



【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。

単位：%

区分	回答者数(件)	都道府県、市(区)町村の首長	国会議員、都道府県議会議員、市(区)町村議会議員	国家公務員・地方公務員の管理職	裁判官、検察官、弁護士	学校長、大学学長、大学教授	国連などの国際機関の管理職	企業の管理職	起業家・経営者
全体	492	45.1	55.9	37.2	28.7	27.4	22.0	44.5	31.3
男性	181	46.4	54.7	37.6	23.8	26.5	17.7	42.0	27.6
女性	297	44.8	56.2	36.7	31.0	27.6	23.9	46.1	33.7
性別を答えることに抵抗を感じる	10	50.0	70.0	60.0	60.0	50.0	50.0	50.0	40.0

区分	起業家・経営者	労働組合の幹部	農協・漁協など、事業組合の役員	新聞・放送などマスコミ関係者	自治会長、町内会長等	医師、歯科医師	特にない	その他	無回答
全体	31.3	25.8	15.7	16.7	18.7	26.6	15.2	2.0	6.5
男性	27.6	20.4	17.1	18.2	19.9	22.7	16.0	2.8	5.0
女性	33.7	29.0	14.5	15.5	18.2	29.0	15.5	1.3	6.7
性別を答えることに抵抗を感じる	40.0	40.0	30.0	30.0	20.0	40.0	—	—	20.0

【年代別】

年代別にみると、他に比べ、20～29歳で「国会議員、都道府県議会議員、市（区）町村議会議員」の割合が、40～49歳で「企業の管理職」の割合が、60～69歳で「裁判官、検察官、弁護士」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	都道府県、市（区）町村の首長	国会議員、都道府県議会議員、市（区）町村議会議員	国家公務員・地方公務員の管理職	裁判官、検察官、弁護士	学校長、大学学長、大学教授	国連などの国際機関の管理職	企業の管理職	起業家・経営者
全体	492	45.1	55.9	37.2	28.7	27.4	22.0	44.5	31.3
18～19歳	2	—	50.0	—	50.0	50.0	—	—	—
20～29歳	42	42.9	66.7	35.7	23.8	31.0	19.0	47.6	31.0
30～39歳	102	44.1	47.1	42.2	27.5	26.5	19.6	41.2	25.5
40～49歳	103	45.6	62.1	37.9	34.0	28.2	24.3	53.4	38.8
50～59歳	101	48.5	62.4	38.6	29.7	30.7	21.8	50.5	35.6
60～69歳	73	50.7	57.5	43.8	37.0	28.8	28.8	42.5	32.9
70歳以上	63	38.1	39.7	22.2	12.7	19.0	15.9	27.0	20.6

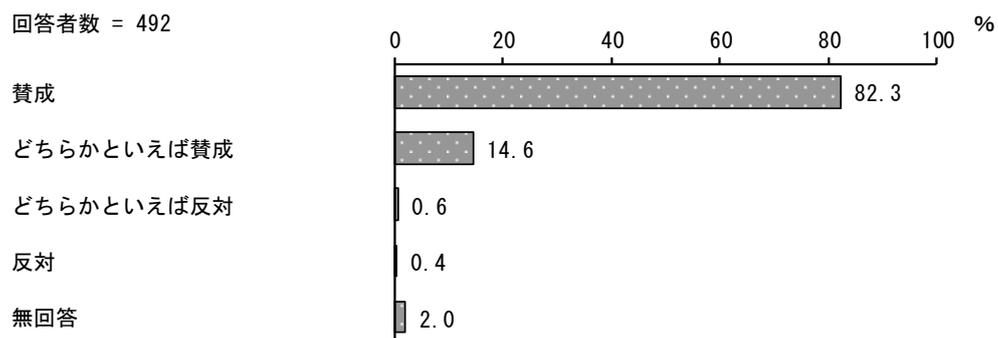
区分	起業家・経営者	労働組合の幹部	農協・漁協など、事業組合の役員	新聞・放送などマスコミ関係者	自治会長、町内会長等	医師、歯科医師	特にない	その他	無回答
全体	31.3	25.8	15.7	16.7	18.7	26.6	15.2	2.0	6.5
18～19歳	—	—	—	—	50.0	50.0	—	—	50.0
20～29歳	31.0	28.6	19.0	23.8	26.2	28.6	11.9	—	9.5
30～39歳	25.5	25.5	10.8	13.7	17.6	22.5	19.6	2.0	6.9
40～49歳	38.8	31.1	15.5	15.5	18.4	27.2	13.6	1.9	4.9
50～59歳	35.6	32.7	21.8	18.8	20.8	26.7	12.9	1.0	4.0
60～69歳	32.9	19.2	20.5	21.9	19.2	31.5	12.3	2.7	6.8
70歳以上	20.6	14.3	6.3	9.5	11.1	25.4	20.6	3.2	9.5

(3) 子どもの教育について

問 18 家庭における子どもの教育方針について、どうお考えですか。
(各項目1つずつ○)

1. 性別にこだわらず、子どもの個性を伸ばすほうがよい

「賛成」の割合が82.3%と最も高く、次いで「どちらかといえば賛成」の割合が14.6%となっています。



【性年代別】

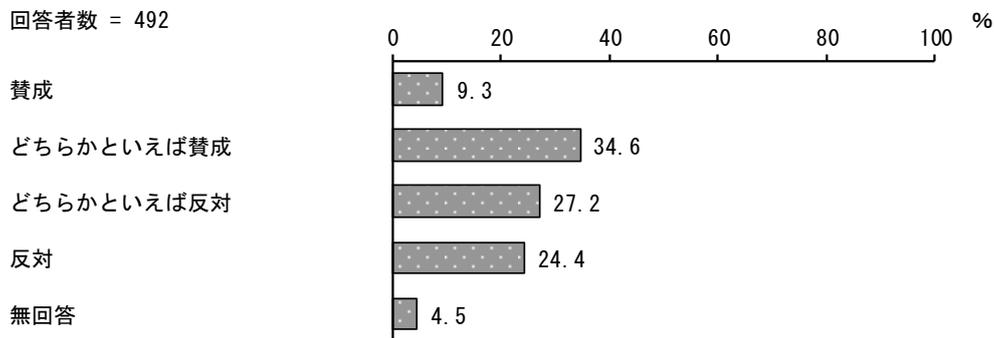
性年代別にみると、他に比べ、女性 30 歳代で「賛成」の割合が、女性 50 歳代、女性 60 歳代で「どちらかといえば賛成」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	賛成	賛成 どちらか といえば	反対 どちらか といえば	反対	無回答
全 体	492	82.3	14.6	0.6	0.4	2.0
男性 全体	181	76.8	18.8	1.7	1.1	1.7
18～19 歳	1	100.0	—	—	—	—
20 歳代	16	81.3	18.8	—	—	—
30 歳代	30	80.0	13.3	3.3	—	3.3
40 歳代	40	75.0	20.0	2.5	—	2.5
50 歳代	38	78.9	21.1	—	—	—
60 歳代	30	76.7	20.0	—	3.3	—
70 歳以上	25	68.0	20.0	4.0	4.0	4.0
女性 全体	297	86.2	11.8	—	—	2.0
18～19 歳	1	100.0	—	—	—	—
20 歳代	25	84.0	12.0	—	—	4.0
30 歳代	69	92.8	7.2	—	—	—
40 歳代	61	88.5	11.5	—	—	—
50 歳代	61	88.5	9.8	—	—	1.6
60 歳代	42	73.8	23.8	—	—	2.4
70 歳以上	36	80.6	11.1	—	—	8.3

2. 女の子は女らしく、男の子は男らしく、しつけるのがよい

「どちらかといえば賛成」の割合が34.6%と最も高く、次いで「どちらかといえば反対」の割合が27.2%、「反対」の割合が24.4%となっています。



【性年代別】

性年代別にみると、他に比べ、男性20歳代で「反対」の割合が、男性60歳代、男性70歳以上で「どちらかといえば賛成」の割合が高くなっています。男性で「賛成」「どちらかといえば賛成」、女性で「反対」「どちらかといえば反対」の傾向となっています。

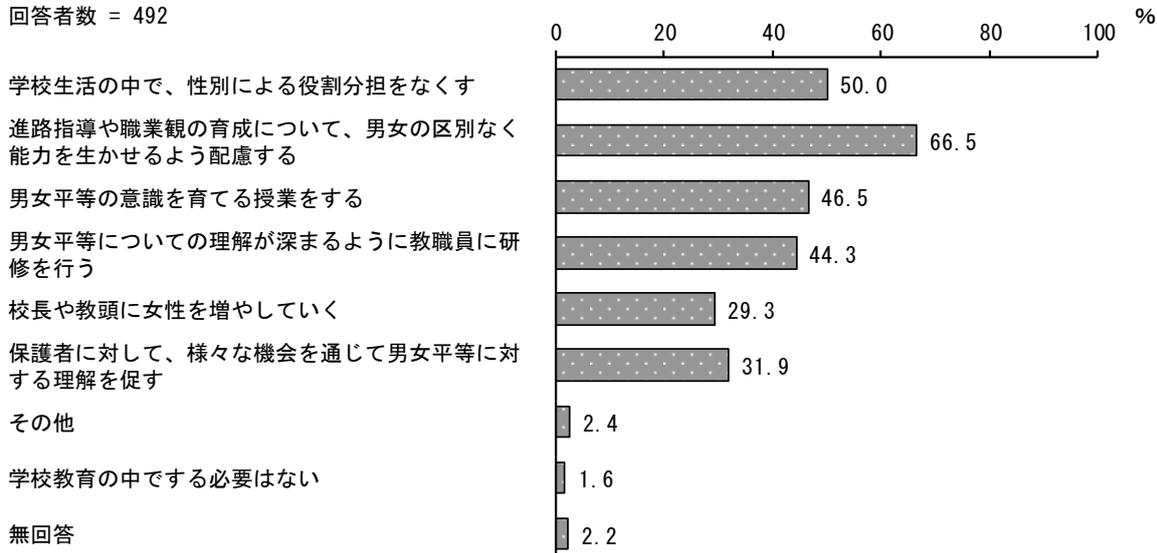
単位：%

区分	回答者数 (件)	賛成	賛成 どちらか かといえ ば	反対 どちら かといえ ば	反対	無回 答
全 体	492	9.3	34.6	27.2	24.4	4.5
男性 全体	181	14.9	40.3	21.0	21.0	2.8
18～19歳	1	—	100.0	—	—	—
20歳代	16	—	31.3	25.0	43.8	—
30歳代	30	10.0	36.7	23.3	23.3	6.7
40歳代	40	15.0	27.5	30.0	22.5	5.0
50歳代	38	10.5	42.1	23.7	23.7	—
60歳代	30	26.7	53.3	10.0	10.0	—
70歳以上	25	24.0	52.0	8.0	12.0	4.0
女性 全体	297	6.4	30.6	32.0	25.6	5.4
18～19歳	1	—	—	100.0	—	—
20歳代	25	—	32.0	36.0	24.0	8.0
30歳代	69	5.8	24.6	34.8	34.8	—
40歳代	61	6.6	32.8	31.1	24.6	4.9
50歳代	61	4.9	36.1	31.1	21.3	6.6
60歳代	42	2.4	31.0	38.1	23.8	4.8
70歳以上	36	19.4	30.6	19.4	16.7	13.9

問 19 男女平等を推進していくために、学校で行うとよいと思うものはどれですか。
(あてはまる番号すべてに○)

「進路指導や職業観の育成について、男女の区別なく能力を生かせるよう配慮する」の割合が66.5%と最も高く、次いで「学校生活の中で、性別による役割分担をなくす」の割合が50.0%、「男女平等の意識を育てる授業をする」の割合が46.5%となっています。

回答者数 = 492



【性別】

性別にみると、男性で「保護者に対して、様々な機会を通じて男女平等に対する理解を促す」「男女平等についての理解が深まるように教職員に研修を行う」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	学校生活の中で、性別による役割分担をなくす	進路指導や職業観の育成について、男女の区別なく能力を生かせるよう配慮する	男女平等の意識を育てる授業をする	男女平等についての理解が深まるように教職員に研修を行う	校長や教頭に女性を増やしていく	保護者に対して、様々な機会を通じて男女平等に対する理解を促す	その他	学校教育の中でする必要はない	無回答
全体	492	50.0	66.5	46.5	44.3	29.3	31.9	2.4	1.6	2.2
男性	181	47.5	60.8	43.6	49.7	24.3	38.7	4.4	2.8	1.7
女性	297	52.2	71.0	48.1	41.4	32.0	28.3	1.0	1.0	2.0
性別を答えることに抵抗を感じる	10	30.0	40.0	40.0	30.0	40.0	20.0	10.0	-	10.0

【年代別】

年代別にみると、他に比べ、20～29歳で「男女平等の意識を育てる授業をする」の割合が、60～69歳で「学校生活の中で、性別による役割分担をなくす」の割合が、40～49歳で「校長や教頭に女性を増やしていく」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	学校生活の中で、性別による役割分担をなくす	進路指導や職業観の育成について、男女の区別なく能力を生かせるよう配慮する	男女平等の意識を育てる授業をする	男女平等についての理解が深まるように教職員に研修を行う	校長や教頭に女性を増やしていく	保護者に対して、様々な機会を通じて男女平等に対する理解を促す	その他	学校教育の中でする必要はない	無回答
全体	492	50.0	66.5	46.5	44.3	29.3	31.9	2.4	1.6	2.2
18～19歳	2	100.0	50.0	50.0	50.0	—	50.0	—	—	—
20～29歳	42	40.5	71.4	59.5	40.5	35.7	33.3	2.4	2.4	4.8
30～39歳	102	46.1	67.6	43.1	44.1	29.4	27.5	4.9	2.0	1.0
40～49歳	103	47.6	61.2	51.5	40.8	35.9	29.1	1.9	1.0	—
50～59歳	101	49.5	67.3	35.6	49.5	27.7	32.7	2.0	1.0	1.0
60～69歳	73	61.6	71.2	50.7	50.7	24.7	38.4	—	1.4	1.4
70歳以上	63	49.2	61.9	42.9	34.9	22.2	33.3	3.2	3.2	9.5

【性年代別】

性年代別にみると、他に比べ、30歳代で「進路指導や職業観の育成について、男女の区別なく能力を生かせるよう配慮する」の割合が

「校長や教頭に女性を増やしていく」の割合が、60歳代で「学校生活の中で、性別による役割分担をなくす」の割合が高くなっています。

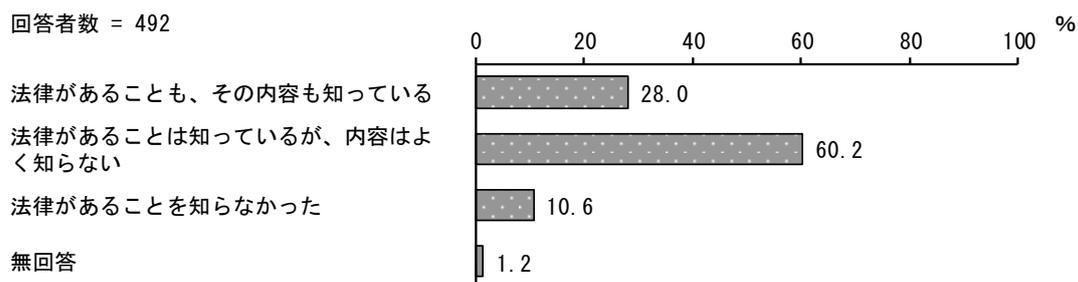
単位：％

区分	回答者数(件)	学校生活の中で、性別による役割分担をなくす	進路指導や職業観の育成について、男女の区別なく能力を生かせるよう配慮する	男女平等の意識を育てる授業をする	男女平等についての理解が深まるように教職員に研修を行う	校長や教頭に女性を増やしていく	保護者に対して、様々な機会を通じて男女平等に対する理解を促す	その他	学校教育の中での必要はない	無回答
全体	492	50.0	66.5	46.5	44.3	29.3	31.9	2.4	1.6	2.2
男性 全体	181	47.5	60.8	43.6	49.7	24.3	38.7	4.4	2.8	1.7
18～19歳	1	100.0	—	—	100.0	—	—	—	—	—
20歳代	16	50.0	81.3	68.8	62.5	50.0	50.0	—	—	6.3
30歳代	30	33.3	50.0	36.7	43.3	23.3	30.0	10.0	6.7	3.3
40歳代	40	50.0	62.5	50.0	47.5	32.5	37.5	5.0	—	—
50歳代	38	50.0	57.9	31.6	60.5	15.8	36.8	5.3	2.6	—
60歳代	30	53.3	70.0	43.3	56.7	16.7	40.0	—	3.3	—
70歳以上	25	44.0	52.0	44.0	28.0	20.0	48.0	4.0	4.0	4.0
女性 全体	297	52.2	71.0	48.1	41.4	32.0	28.3	1.0	1.0	2.0
18～19歳	1	100.0	100.0	100.0	—	—	100.0	—	—	—
20歳代	25	36.0	64.0	56.0	28.0	24.0	24.0	4.0	4.0	4.0
30歳代	69	52.2	76.8	47.8	44.9	31.9	26.1	1.4	—	—
40歳代	61	45.9	62.3	50.8	36.1	37.7	24.6	—	1.6	—
50歳代	61	49.2	72.1	37.7	42.6	34.4	29.5	—	—	1.6
60歳代	42	69.0	73.8	57.1	47.6	31.0	38.1	—	—	—
70歳以上	36	55.6	72.2	41.7	41.7	25.0	25.0	2.8	2.8	11.1

(4) ドメスティック・バイオレンス (DV) について

問 20 あなたは、「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律（配偶者暴力防止法）」を知っていますか。（1つだけ○）

「法律があることは知っているが、内容はよく知らない」の割合が 60.2%と最も高く、次いで「法律があることも、その内容も知っている」の割合が 28.0%、「法律があることを知らなかった」の割合が 10.6%となっています。



【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。

単位：%

区分	回答者数 (件)	法律があることも、その内容も知っている	法律があることは知っているが、内容はよく知らない	法律があることを知らなかった	無回答
全 体	492	28.0	60.2	10.6	1.2
男性	181	32.0	59.1	8.3	0.6
女性	297	25.3	61.6	11.8	1.3
性別を答えることに抵抗を感じる	10	40.0	40.0	20.0	—

【年代別】

年代別にみると、他に比べ、50～59歳で「法律があることを知らなかった」の割合が高くなっています。

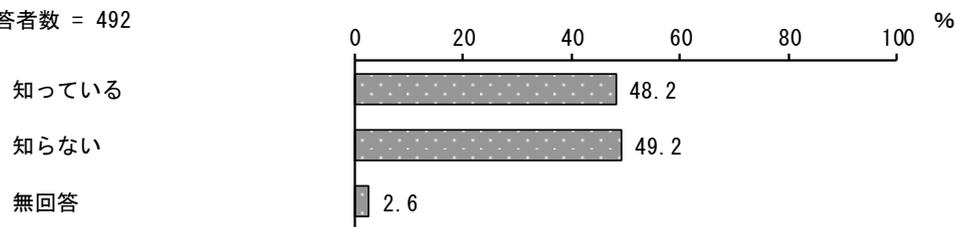
単位：％

区分	回答者数(件)	法律があることも、その内容も知っている	法律があることは知っているが、内容はよく知らない	法律があることを知らなかった	無回答
全 体	492	28.0	60.2	10.6	1.2
18～19歳	2	—	100.0	—	—
20～29歳	42	21.4	64.3	11.9	2.4
30～39歳	102	30.4	59.8	9.8	—
40～49歳	103	28.2	63.1	8.7	—
50～59歳	101	27.7	56.4	15.8	—
60～69歳	73	27.4	63.0	8.2	1.4
70歳以上	63	28.6	55.6	9.5	6.3

問 21 あなたは、配偶者・パートナー（恋人など）からの暴力について相談できる窓口を知っていますか。（1つだけ○）

「知っている」の割合が48.2%、「知らない」の割合が49.2%となっています。

回答者数 = 492



【性別・経年比較】

平成 30 年度調査と比較すると、「知っている」の割合が男性で 6.2%、女性で 4.3%増加しています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	知っている	知らない	無回答
全 体	492	48.2	49.2	2.6
男性 令和 4 年度調査	181	45.3	52.5	2.2
平成 30 年度調査	156	39.1	60.3	0.6
女性 令和 4 年度調査	297	49.2	48.1	2.7
平成 30 年度調査	256	44.9	54.3	0.8
性別を答えることに抵抗を感じる	10	60.0	40.0	—

【年代別】

年代別にみると、他に比べ、20～39歳で「知らない」の割合が、40～49歳で「知っている」の割合が高くなっています。

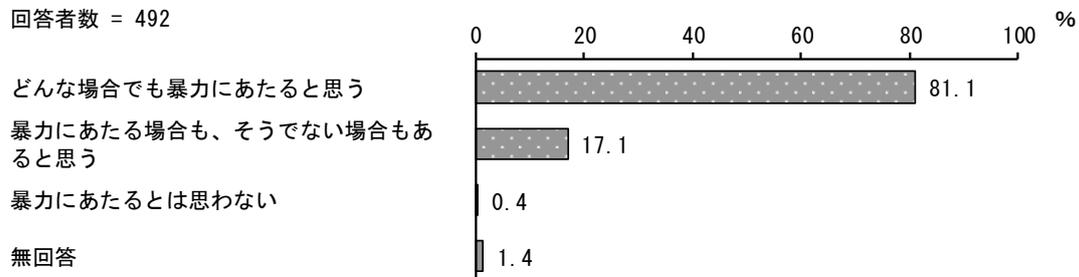
単位：％

区分	回答者数 (件)	知っている	知らない	無回答
全 体	492	48.2	49.2	2.6
18～19歳	2	—	100.0	—
20～29歳	42	40.5	57.1	2.4
30～39歳	102	43.1	55.9	1.0
40～49歳	103	55.3	43.7	1.0
50～59歳	101	47.5	51.5	1.0
60～69歳	73	49.3	49.3	1.4
70歳以上	63	47.6	39.7	12.7

問 22 あなたは、配偶者・パートナー（恋人など）同士で起こる次のような行為は、暴力にあたると思われますか。（各項目1つずつ○）

1. 平手で打つ

「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が81.1%と最も高く、次いで「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」の割合が17.1%となっています。



【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。

単位：%

区分	回答者数(件)	どんな場合でも暴力にあたると思う	暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う	暴力にあたるとは思わない	無回答
全 体	492	81.1	17.1	0.4	1.4
男性	181	79.6	18.8	0.6	1.1
女性	297	82.2	16.2	0.3	1.3
性別を答えることに抵抗を感じる	10	80.0	20.0	—	—

【年代別】

年代別にみると、他に比べ、70歳以上で「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」の割合が高くなっています。

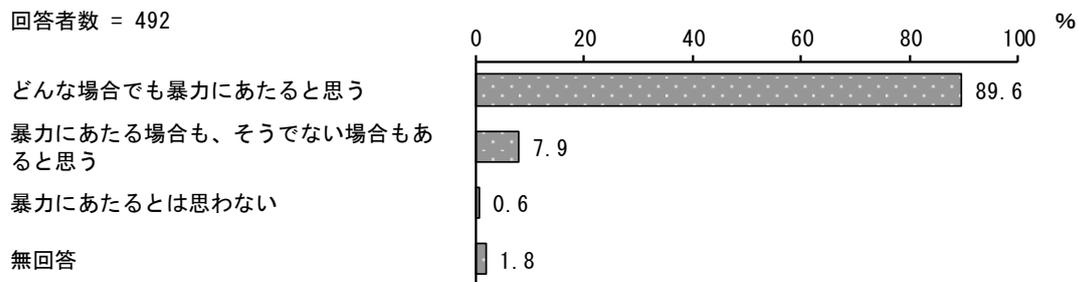
単位：％

区分	回答者数(件)	どんな場合でも暴力にあたると思う	暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う	暴力にあたるとは思わない	無回答
全 体	492	81.1	17.1	0.4	1.4
18～19 歳	2	50.0	50.0	—	—
20～29 歳	42	83.3	14.3	—	2.4
30～39 歳	102	84.3	15.7	—	—
40～49 歳	103	80.6	15.5	1.0	2.9
50～59 歳	101	83.2	16.8	—	—
60～69 歳	73	83.6	15.1	—	1.4
70 歳以上	63	68.3	27.0	1.6	3.2

2. 足でける

「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が89.6%と最も高くなっています。

回答者数 = 492



【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。

単位：％

区分	回答者数(件)	どんな場合でも暴力にあたると思う	暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う	暴力にあたるとは思わない	無回答
全体	492	89.6	7.9	0.6	1.8
男性	181	88.4	9.4	1.1	1.1
女性	297	90.6	7.4	0.3	1.7
性別を答えることに抵抗を感じる	10	90.0	—	—	10.0

【年代別】

年代別にみると、大きな差はみられません。

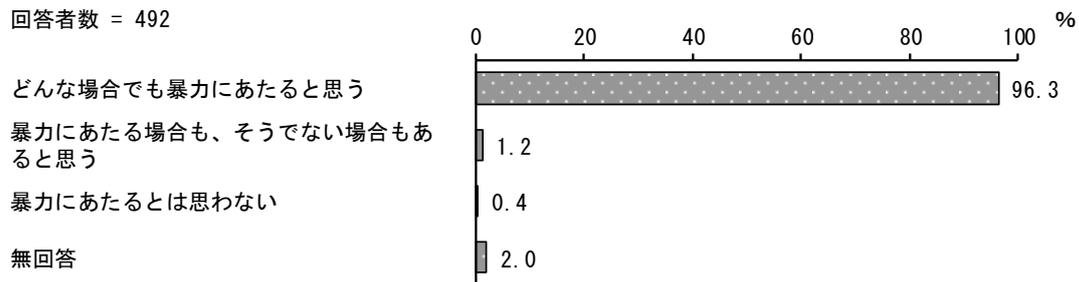
単位：％

区分	回答者数(件)	どんな場合でも暴力にあたると思う	暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う	暴力にあたるとは思わない	無回答
全体	492	89.6	7.9	0.6	1.8
18～19歳	2	50.0	50.0	—	—
20～29歳	42	81.0	16.7	—	2.4
30～39歳	102	90.2	8.8	1.0	—
40～49歳	103	90.3	4.9	1.9	2.9
50～59歳	101	94.1	5.9	—	—
60～69歳	73	91.8	6.8	—	1.4
70歳以上	63	84.1	9.5	—	6.3

3. 身体を傷つける可能性のある物でなく

「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が96.3%と最も高くなっています。

回答者数 = 492



【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。

単位：%

区分	回答者数 (件)	どんな場合でも暴力にあたると思う	暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う	暴力にあたるとは思わない	無回答
全 体	492	96.3	1.2	0.4	2.0
男性	181	95.6	2.2	0.6	1.7
女性	297	97.6	0.7	0.3	1.3
性別を答えることに抵抗を感じる	10	80.0	—	—	20.0

【年代別】

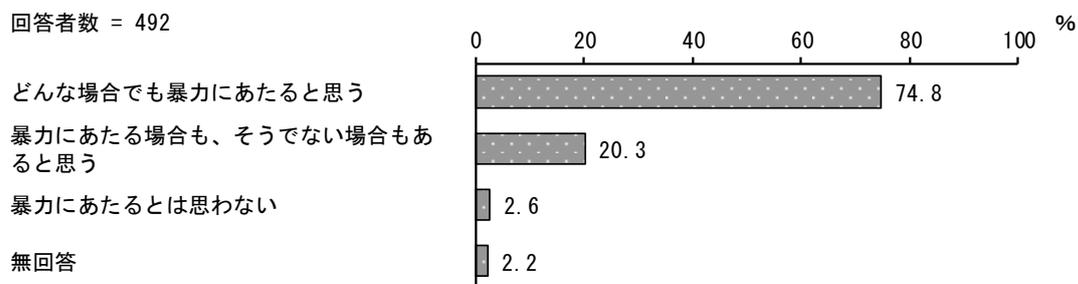
年代別にみると、大きな差はみられません。

単位：％

区分	回答者数(件)	どんな場合でも暴力にあたると思う	暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う	暴力にあたるとは思わない	無回答
全体	492	96.3	1.2	0.4	2.0
18～19歳	2	100.0	—	—	—
20～29歳	42	95.2	2.4	—	2.4
30～39歳	102	96.1	2.0	—	2.0
40～49歳	103	96.1	1.0	1.0	1.9
50～59歳	101	99.0	1.0	—	—
60～69歳	73	97.3	1.4	—	1.4
70歳以上	63	92.1	—	1.6	6.3

4. なぐるふりをして、おどす

「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が74.8%と最も高く、次いで「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」の割合が20.3%となっています。



【性別】

性別にみると、他に比べ、男性で「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	どんな場合でも暴力にあたると思う	暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う	暴力にあたるとは思わない	無回答
全体	492	74.8	20.3	2.6	2.2
男性	181	69.6	25.4	3.9	1.1
女性	297	78.5	17.2	2.0	2.4
性別を答えることに抵抗を感じる	10	70.0	20.0	—	10.0

【年代別】

年代別にみると、60～69歳、70歳以上で「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」の割合が高くなっています。

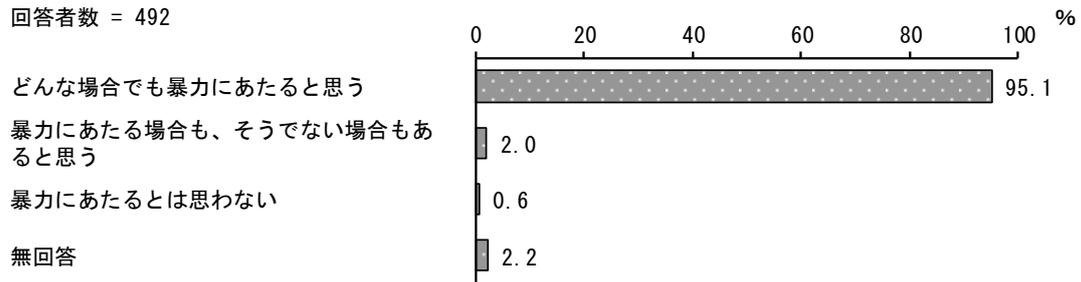
単位：％

区分	回答者数(件)	どんな場合でも暴力にあたると思う	暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う	暴力にあたるとは思わない	無回答
全体	492	74.8	20.3	2.6	2.2
18～19歳	2	50.0	50.0	—	—
20～29歳	42	78.6	19.0	—	2.4
30～39歳	102	82.4	16.7	1.0	—
40～49歳	103	84.5	9.7	2.9	2.9
50～59歳	101	83.2	13.9	3.0	—
60～69歳	73	65.8	32.9	—	1.4
70歳以上	63	42.9	38.1	9.5	9.5

5. 刃物などを突きつけて、おどす

「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が95.1%と最も高くなっています。

回答者数 = 492



【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。

単位：%

区分	回答者数 (件)	どんな場合でも暴力にあたると思う	暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う	暴力にあたるとは思わない	無回答
全体	492	95.1	2.0	0.6	2.2
男性	181	92.3	4.4	1.7	1.7
女性	297	97.3	0.7	—	2.0
性別を答えることに抵抗を感じる	10	90.0	—	—	10.0

【年代別】

年代別にみると、大きな差はみられません。

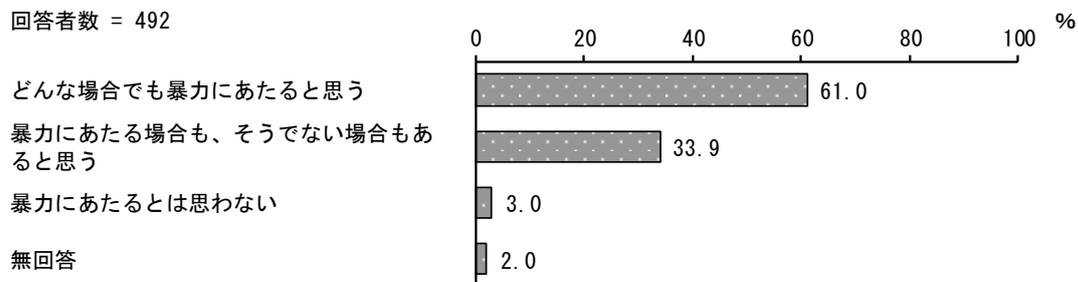
単位：％

区分	回答者数(件)	どんな場合でも暴力にあたると思う	暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う	暴力にあたるとは思わない	無回答
全体	492	95.1	2.0	0.6	2.2
18～19歳	2	50.0	—	50.0	—
20～29歳	42	97.6	—	—	2.4
30～39歳	102	99.0	1.0	—	—
40～49歳	103	94.2	1.9	1.0	2.9
50～59歳	101	100.0	—	—	—
60～69歳	73	91.8	6.8	—	1.4
70歳以上	63	85.7	3.2	1.6	9.5

6. 大声でどなる

「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が61.0%と最も高く、次いで「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」の割合が33.9%となっています。

回答者数 = 492



【性別】

性別にみると、他に比べ、男性で「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	どんな場合でも暴 力にあたると思う	暴力にあたる場合 も、そうでない場合 もあると思う	暴力にあたるとは 思わない	無回 答
全 体	492	61.0	33.9	3.0	2.0
男性	181	54.1	40.3	4.4	1.1
女性	297	65.3	30.3	2.4	2.0
性別を答えることに抵抗を感じる	10	60.0	30.0	—	10.0

【年代別】

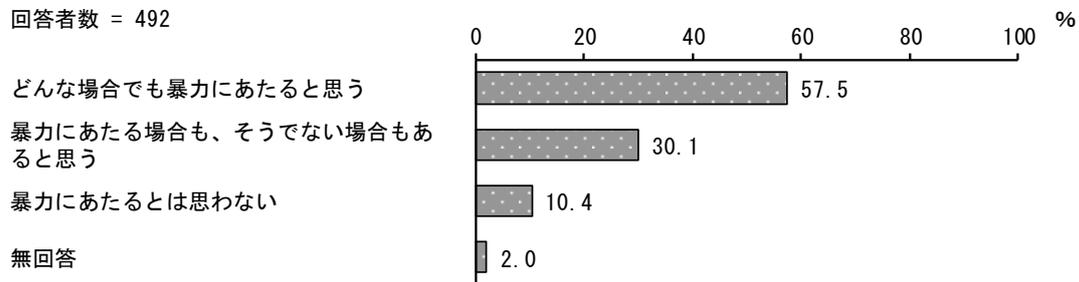
年代別にみると、他に比べ、60～69歳で「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」の割合が、30～39歳で「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が、20～29歳で「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	どんな場合でも暴 力にあたると思う	暴力にあたる場合 も、そうでない場合 もあると思う	暴力にあたるとは 思わない	無回 答
全 体	492	61.0	33.9	3.0	2.0
18～19歳	2	—	50.0	50.0	—
20～29歳	42	57.1	40.5	—	2.4
30～39歳	102	68.6	30.4	—	1.0
40～49歳	103	62.1	29.1	6.8	1.9
50～59歳	101	64.4	32.7	2.0	1.0
60～69歳	73	54.8	42.5	1.4	1.4
70歳以上	63	52.4	34.9	6.3	6.3

7. 他の異性との会話を許さない

「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が57.5%と最も高く、次いで「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」の割合が30.1%、「暴力にあたるとは思わない」の割合が10.4%となっています。



【性別】

性別にみると、男性で「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」の割合が、女性で「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	どんな場合でも暴力にあたると思う	暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う	暴力にあたるとは思わない	無回答
全体	492	57.5	30.1	10.4	2.0
男性	181	45.9	40.9	12.2	1.1
女性	297	65.0	23.6	9.4	2.0
性別を答えることに抵抗を感じる	10	70.0	20.0	—	10.0

【年代別】

年代別にみると、他に比べ、20～29歳で「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」の割合が、70歳以上で「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」の割合が、30～39歳で「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が高くなっています。

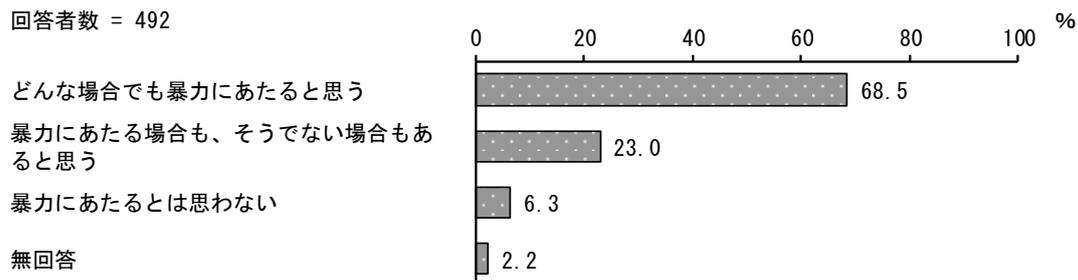
単位：％

区分	回答者数(件)	どんな場合でも暴力にあたると思う	暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う	暴力にあたるとは思わない	無回答
全体	492	57.5	30.1	10.4	2.0
18～19歳	2	50.0	50.0	—	—
20～29歳	42	47.6	42.9	7.1	2.4
30～39歳	102	62.7	27.5	9.8	—
40～49歳	103	60.2	23.3	13.6	2.9
50～59歳	101	62.4	28.7	8.9	—
60～69歳	73	57.5	30.1	11.0	1.4
70歳以上	63	46.0	36.5	9.5	7.9

8. 家族や友人との関わりを持たせない

「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が68.5%と最も高く、次いで「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」の割合が23.0%となっています。

回答者数 = 492



【性別】

性別にみると、男性で「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」の割合が、女性で「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	どんな場合でも暴力にあたると思う	暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う	暴力にあたるとは思わない	無回答
全 体	492	68.5	23.0	6.3	2.2
男性	181	57.5	33.7	7.2	1.7
女性	297	74.7	17.5	5.7	2.0
性別を答えることに抵抗を感じる	10	90.0	—	—	10.0

【年代別】

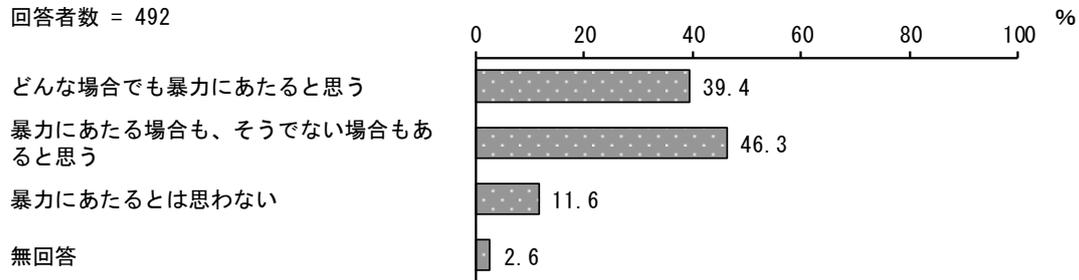
年代別にみると、他に比べ、70歳以上で「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	どんな場合でも暴力にあたると思う	暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う	暴力にあたるとは思わない	無回答
全 体	492	68.5	23.0	6.3	2.2
18～19歳	2	—	100.0	—	—
20～29歳	42	69.0	23.8	4.8	2.4
30～39歳	102	74.5	21.6	2.9	1.0
40～49歳	103	69.9	18.4	8.7	2.9
50～59歳	101	73.3	19.8	6.9	—
60～69歳	73	67.1	24.7	6.8	1.4
70歳以上	63	50.8	34.9	6.3	7.9

9. 就労することに反対する

「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」の割合が46.3%と最も高く、次いで「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が39.4%、「暴力にあたるとは思わない」の割合が11.6%となっています。



【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。

単位：%

区分	回答者数(件)	どんな場合でも暴力にあたると思う	暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う	暴力にあたるとは思わない	無回答
全体	492	39.4	46.3	11.6	2.6
男性	181	34.3	50.3	13.8	1.7
女性	297	42.8	44.1	10.4	2.7
性別を答えることに抵抗を感じる	10	50.0	40.0	—	10.0

【年代別】

年代別にみると、他に比べ、20～29歳で「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」の割合が、40～49歳で「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が、60～69歳、70歳以上で「暴力にあたるとは思わない」の割合が高くなっています。

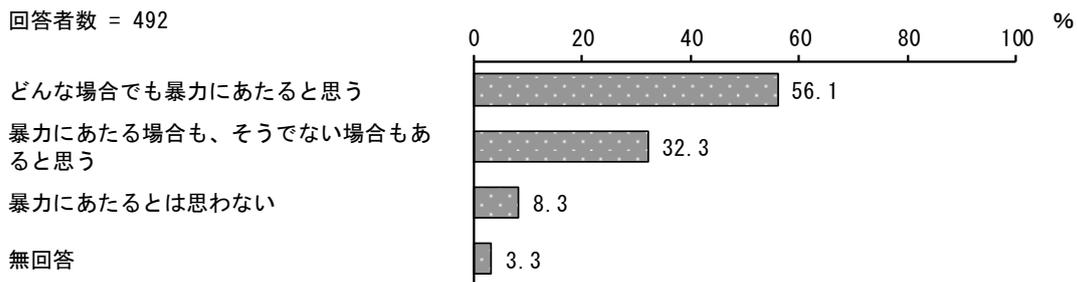
単位：％

区分	回答者数(件)	どんな場合でも暴力にあたると思う	暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う	暴力にあたるとは思わない	無回答
全体	492	39.4	46.3	11.6	2.6
18～19歳	2	—	100.0	—	—
20～29歳	42	26.2	61.9	9.5	2.4
30～39歳	102	45.1	50.0	4.9	—
40～49歳	103	52.4	31.1	12.6	3.9
50～59歳	101	39.6	49.5	10.9	—
60～69歳	73	31.5	50.7	16.4	1.4
70歳以上	63	30.2	41.3	17.5	11.1

10. 外出先を制限する

「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が56.1%と最も高く、次いで「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」の割合が32.3%となっています。

回答者数 = 492



【性別】

性別にみると、男性で「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	どんな場合でも暴 力にあたると思う	暴力にあたる場合 も、そうでない場合 もあると思う	暴力にあたるとは 思わない	無回 答
全 体	492	56.1	32.3	8.3	3.3
男性	181	47.5	41.4	8.8	2.2
女性	297	60.9	27.6	8.1	3.4
性別を答えることに抵抗を感じる	10	70.0	20.0	—	10.0

【年代別】

年代別にみると、他に比べ、20～29歳で「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」の割合が、60～69歳で「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」の割合が、40～49歳で「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が高くなっています。

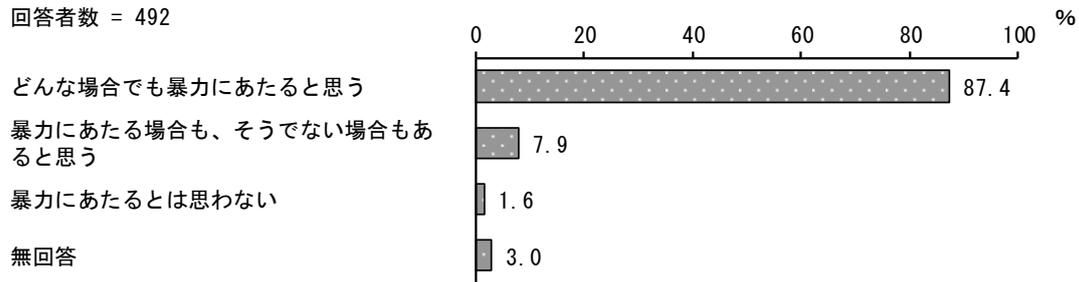
単位：％

区分	回答者数 (件)	どんな場合でも暴 力にあたると思う	暴力にあたる場合 も、そうでない場合 もあると思う	暴力にあたるとは 思わない	無回 答
全 体	492	56.1	32.3	8.3	3.3
18～19歳	2	50.0	50.0	—	—
20～29歳	42	50.0	42.9	4.8	2.4
30～39歳	102	62.7	33.3	2.9	1.0
40～49歳	103	64.1	20.4	11.7	3.9
50～59歳	101	60.4	33.7	5.9	—
60～69歳	73	45.2	41.1	11.0	2.7
70歳以上	63	39.7	33.3	14.3	12.7

11. いやがっているのに性的な行為を強要する

「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が87.4%と最も高くなっています。

回答者数 = 492



【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。

単位：%

区分	回答者数 (件)	どんな場合でも暴力にあたると思う	暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う	暴力にあたるとは思わない	無回答
全 体	492	87.4	7.9	1.6	3.0
男性	181	86.7	8.8	2.2	2.2
女性	297	87.9	7.7	1.3	3.0
性別を答えることに抵抗を感じる	10	90.0	—	—	10.0

【年代別】

年代別にみると、他に比べ、30～39歳で「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が高くなっています。

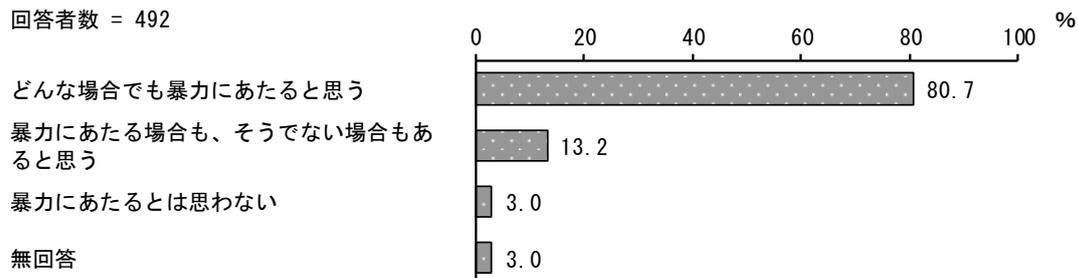
単位：％

区分	回答者数(件)	どんな場合でも暴力にあたると思う	暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う	暴力にあたるとは思わない	無回答
全 体	492	87.4	7.9	1.6	3.0
18～19歳	2	100.0	—	—	—
20～29歳	42	88.1	9.5	—	2.4
30～39歳	102	96.1	2.9	—	1.0
40～49歳	103	86.4	7.8	1.9	3.9
50～59歳	101	92.1	5.9	2.0	—
60～69歳	73	83.6	15.1	—	1.4
70歳以上	63	69.8	11.1	6.3	12.7

12. 避妊に協力しない

「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が80.7%と最も高く、次いで「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」の割合が13.2%となっています。

回答者数 = 492



【性別】

性別にみると、他に比べ、性別を答えることに抵抗を感じるで「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	どんな場合でも暴 力にあたると思う	暴力にあたる場合 も、そうでない場合 もあると思う	暴力にあたるとは 思わない	無回答
全 体	492	80.7	13.2	3.0	3.0
男性	181	75.1	17.7	4.4	2.8
女性	297	83.8	11.1	2.4	2.7
性別を答えることに抵抗を感じる	10	90.0	—	—	10.0

【年代別】

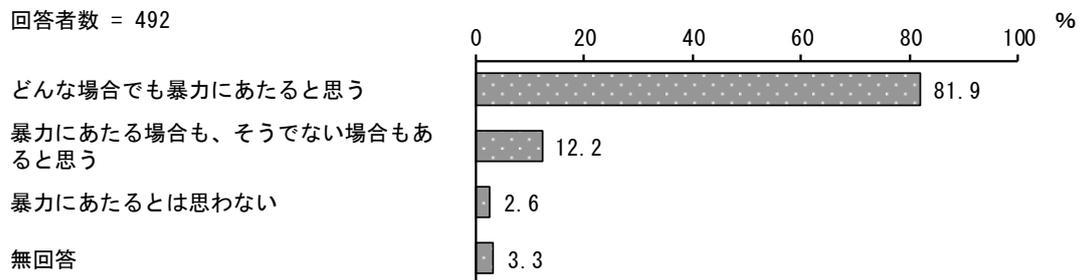
年代別にみると、他に比べ、30～39歳、40～49歳で「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が高くなっています。50歳代以上では他の年代に比べて、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」の割合が高くなっています。中でも70歳以上で22.2%となっており、「暴力にあたるとは思わない」の割合も9.5%と他の年代と大きな差があります。

単位：％

区分	回答者数 (件)	どんな場合でも暴 力にあたると思う	暴力にあたる場合 も、そうでない場合 もあると思う	暴力にあたるとは 思わない	無回答
全 体	492	80.7	13.2	3.0	3.0
18～19歳	2	100.0	—	—	—
20～29歳	42	83.3	11.9	2.4	2.4
30～39歳	102	92.2	5.9	1.0	1.0
40～49歳	103	86.4	7.8	1.9	3.9
50～59歳	101	78.2	18.8	3.0	—
60～69歳	73	78.1	17.8	2.7	1.4
70歳以上	63	55.6	22.2	9.5	12.7

13. 見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる

「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が81.9%と最も高く、次いで「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」の割合が12.2%となっています。



【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。

単位：%

区分	回答者数(件)	どんな場合でも暴力にあたると思う	暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う	暴力にあたるとは思わない	無回答
全体	492	81.9	12.2	2.6	3.3
男性	181	78.5	16.6	2.2	2.8
女性	297	84.2	9.8	3.0	3.0
性別を答えることに抵抗を感じる	10	90.0	—	—	10.0

【年代別】

年代別にみると、年代が上がるにつれて、「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が低くなっています。

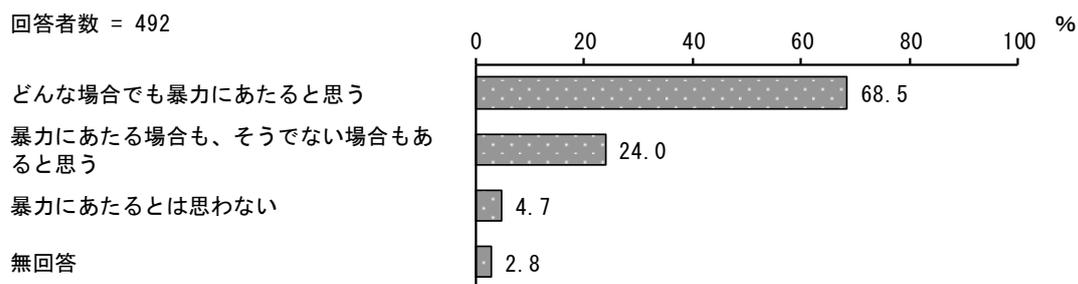
単位：％

区分	回答者数(件)	どんな場合でも暴力にあたると思う	暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う	暴力にあたるとは思わない	無回答
全 体	492	81.9	12.2	2.6	3.3
18～19 歳	2	100.0	—	—	—
20～29 歳	42	88.1	7.1	2.4	2.4
30～39 歳	102	89.2	9.8	—	1.0
40～49 歳	103	84.5	9.7	1.9	3.9
50～59 歳	101	81.2	14.9	4.0	—
60～69 歳	73	79.5	15.1	4.1	1.4
70 歳以上	63	65.1	15.9	4.8	14.3

14. 何を言っても無視し続ける

「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が68.5%と最も高く、次いで「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」の割合が24.0%となっています。

回答者数 = 492



【性別】

性別にみると、男性で「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	どんな場合でも暴力にあたると思う	暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う	暴力にあたるとは思わない	無回答
全 体	492	68.5	24.0	4.7	2.8
男性	181	61.3	32.6	4.4	1.7
女性	297	72.4	19.5	5.1	3.0
性別を答えることに抵抗を感じる	10	80.0	10.0	—	10.0

【年代別】

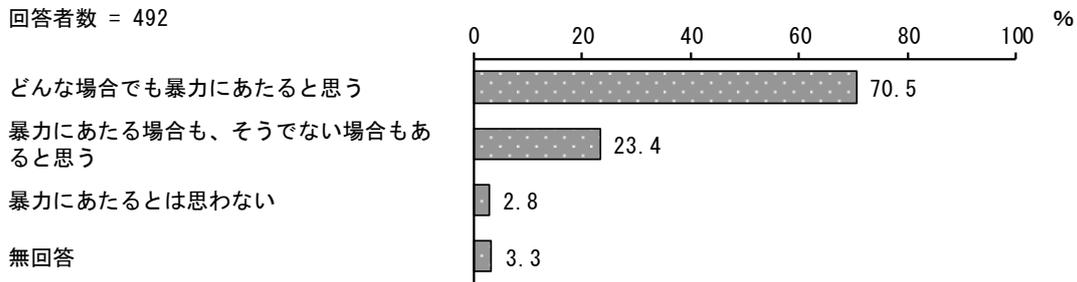
年代別にみると、他に比べ、50～59歳で「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	どんな場合でも暴力にあたると思う	暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う	暴力にあたるとは思わない	無回答
全 体	492	68.5	24.0	4.7	2.8
18～19歳	2	50.0	50.0	—	—
20～29歳	42	69.0	26.2	2.4	2.4
30～39歳	102	71.6	24.5	3.9	—
40～49歳	103	68.9	21.4	5.8	3.9
50～59歳	101	76.2	20.8	3.0	—
60～69歳	73	67.1	27.4	4.1	1.4
70歳以上	63	49.2	28.6	9.5	12.7

15. 交友関係やスマートフォンを細かく監視する

「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が70.5%と最も高く、次いで「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」の割合が23.4%となっています。



【性別】

性別にみると、他に比べ、男性で「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」の割合が、女性で「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	どんな場合でも暴力にあたると思う	暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う	暴力にあたるとは思わない	無回答
全 体	492	70.5	23.4	2.8	3.3
男性	181	61.9	34.3	1.7	2.2
女性	297	75.8	17.2	3.7	3.4
性別を答えることに抵抗を感じる	10	70.0	20.0	—	10.0

【年代別】

年代別にみると、他に比べ、20～29歳で「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」の割合が、30～39歳で「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が高くなっています。

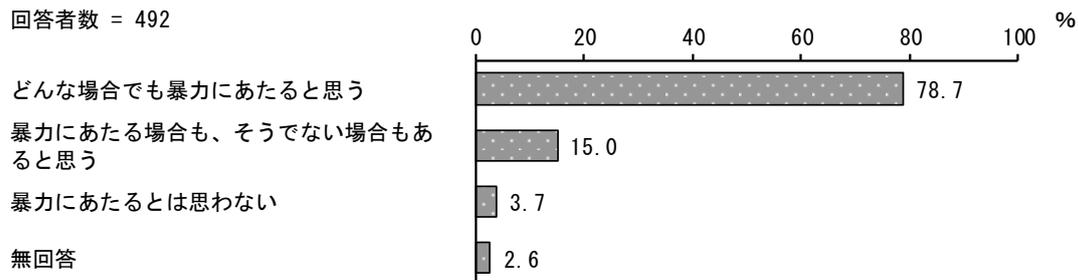
単位：％

区分	回答者数(件)	どんな場合でも暴力にあたると思う	暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う	暴力にあたるとは思わない	無回答
全 体	492	70.5	23.4	2.8	3.3
18～19歳	2	50.0	50.0	—	—
20～29歳	42	61.9	33.3	2.4	2.4
30～39歳	102	76.5	22.5	1.0	—
40～49歳	103	72.8	18.4	4.9	3.9
50～59歳	101	74.3	23.8	2.0	—
60～69歳	73	71.2	24.7	2.7	1.4
70歳以上	63	55.6	23.8	4.8	15.9

16. 「だれのおかげで生活できるんだ」とか、「かいしょうなし」と言う

「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が78.7%と最も高く、次いで「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」の割合が15.0%となっています。

回答者数 = 492



【性別】

性別にみると、男性で「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	どんな場合でも暴力にあたると思う	暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う	暴力にあたるとは思わない	無回答
全 体	492	78.7	15.0	3.7	2.6
男性	181	70.2	22.1	6.1	1.7
女性	297	83.5	11.4	2.4	2.7
性別を答えることに抵抗を感じる	10	90.0	—	—	10.0

【年代別】

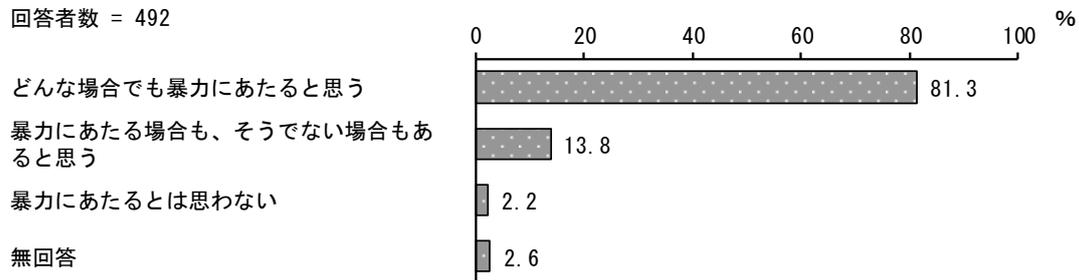
年代別にみると、70歳以上で「暴力にあたるとは思わない」の割合が高く、「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が低くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	どんな場合でも暴力にあたると思う	暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う	暴力にあたるとは思わない	無回答
全 体	492	78.7	15.0	3.7	2.6
18～19歳	2	100.0	—	—	—
20～29歳	42	81.0	14.3	2.4	2.4
30～39歳	102	83.3	13.7	2.9	—
40～49歳	103	80.6	12.6	3.9	2.9
50～59歳	101	82.2	15.8	2.0	—
60～69歳	73	76.7	19.2	2.7	1.4
70歳以上	63	60.3	17.5	9.5	12.7

17. 家計に必要な生活費を渡さない

「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が81.3%と最も高く、次いで「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」の割合が13.8%となっています。



【性別】

性別にみると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が男性に比べて女性が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	どんな場合でも暴力にあたると思う	暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う	暴力にあたるとは思わない	無回答
全体	492	81.3	13.8	2.2	2.6
男性	181	76.2	18.2	3.3	2.2
女性	297	84.5	11.4	1.7	2.4
性別を答えることに抵抗を感じる	10	80.0	10.0	—	10.0

【年代別】

年代別にみると、他に比べ、60～69歳で「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	どんな場合でも暴力にあたると思う	暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う	暴力にあたるとは思わない	無回答
全体	492	81.3	13.8	2.2	2.6
18～19歳	2	100.0	—	—	—
20～29歳	42	85.7	9.5	2.4	2.4
30～39歳	102	84.3	14.7	1.0	—
40～49歳	103	80.6	13.6	1.9	3.9
50～59歳	101	83.2	13.9	3.0	—
60～69歳	73	75.3	19.2	4.1	1.4
70歳以上	63	76.2	11.1	1.6	11.1

【性別・経年比較】

前回調査と比較すると、「刃物などを突きつけて、おどす」「いやがっているのに性的な行為を強要する」を除き、すべての項目で「どんな場合でも暴力にあたると思う」が、前回調査を上回っています。

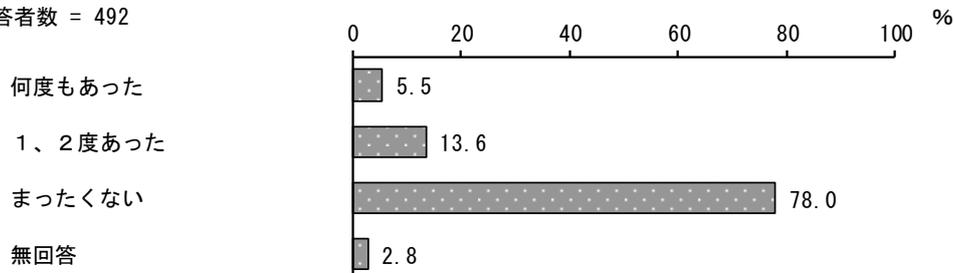
単位：％

区分	回答者数(件)	平手で打つ	足でける	身体を傷つける可能性のある物でなく	なぐるふりをして、おどす	刃物などを突きつけて、おどす	いやがっているのに性的な行為を強要する	見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる	何を言っても無視し続ける	交友関係やスマートフォンを細かく監視する	「だれのおかげで生活できるんだ」とか、「かいしよなし」と言う
令和4年度調査	492	81.1	89.6	96.3	74.8	95.1	87.4	81.9	68.5	70.5	78.7
平成30年度調査	416	75.2	87.3	96.2	70.9	95.9	92.1	78.8	65.6	69.5	76.4

問 23 あなたはこれまでに、あなたの配偶者・パートナー（恋人など）から次のようなことをされたことがありますか。（各項目1つずつ○）

1. なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受けた
「まったくない」の割合が78.0%と最も高く、次いで「1、2度あった」の割合が13.6%となっています。

回答者数 = 492



【性別】

性別にみると、他に比べ、男性で「まったくない」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	何度もあった	1、2度あった	まったくない	無回答
全 体	492	5.5	13.6	78.0	2.8
男性	181	3.9	9.4	84.5	2.2
女性	297	6.4	15.8	75.1	2.7
性別を答えることに抵抗を感じる	10	10.0	20.0	60.0	10.0

【年代別】

年代別にみると、大きな差はみられません。

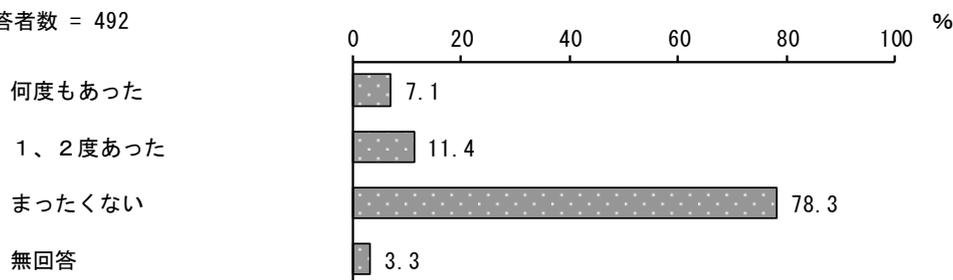
単位：％

区分	回答者数 (件)	何 度 も あ っ た	1、 2 度 あ っ た	ま っ た く な い	無 回 答
全 体	492	5.5	13.6	78.0	2.8
18～19 歳	2	—	—	100.0	—
20～29 歳	42	2.4	16.7	76.2	4.8
30～39 歳	102	7.8	9.8	81.4	1.0
40～49 歳	103	5.8	13.6	78.6	1.9
50～59 歳	101	5.0	14.9	77.2	3.0
60～69 歳	73	6.8	11.0	79.5	2.7
70 歳以上	63	3.2	15.9	74.6	6.3

2. 人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせを受けた、あるいは、自分もしくは自分の家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた

「まったくない」の割合が78.3%と最も高く、次いで「1、2度あった」の割合が11.4%となっています。

回答者数 = 492



【性別】

性別にみると、他に比べ、男性で「まったくない」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	何度もあった	1、2度あった	まったくない	無回答
全体	492	7.1	11.4	78.3	3.3
男性	181	2.8	10.5	84.5	2.2
女性	297	9.8	12.1	75.1	3.0
性別を答えることに抵抗を感じる	10	10.0	10.0	60.0	20.0

【年代別】

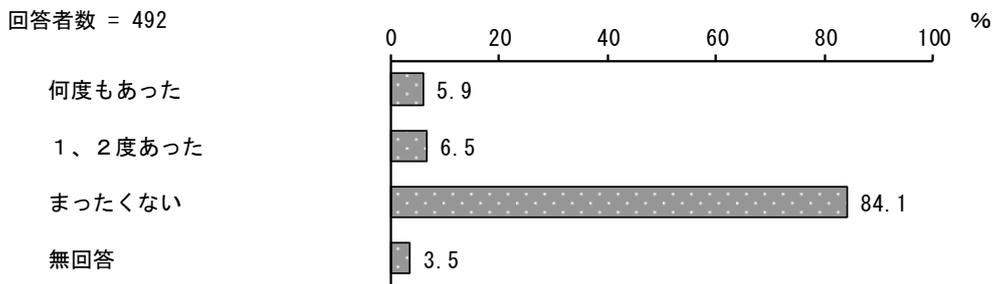
年代別にみると、他に比べ、20～39歳で「まったくない」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	何 度 も あ っ た	1、 2 度 あ っ た	ま っ た く な い	無 回 答
全 体	492	7.1	11.4	78.3	3.3
18～19歳	2	—	—	100.0	—
20～29歳	42	2.4	9.5	83.3	4.8
30～39歳	102	6.9	8.8	83.3	1.0
40～49歳	103	7.8	14.6	75.7	1.9
50～59歳	101	10.9	10.9	75.2	3.0
60～69歳	73	8.2	12.3	76.7	2.7
70歳以上	63	1.6	11.1	77.8	9.5

3. 生活費を渡さない、給料や貯金を勝手に使われる、外で働くことに反対されるなどの経済的な圧迫を受けた

「まったくない」の割合が84.1%と最も高くなっています。



【性別】

性別にみると、他に比べ、男性で「まったくない」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	何度もあった	1、2度あった	まったくない	無回答
全 体	492	5.9	6.5	84.1	3.5
男性	181	1.1	3.3	93.4	2.2
女性	297	8.4	8.8	79.5	3.4
性別を答えることに抵抗を感じる	10	20.0	—	60.0	20.0

【年代別】

年代別にみると、他に比べ、20～29歳で「まったくない」の割合が高くなっています。

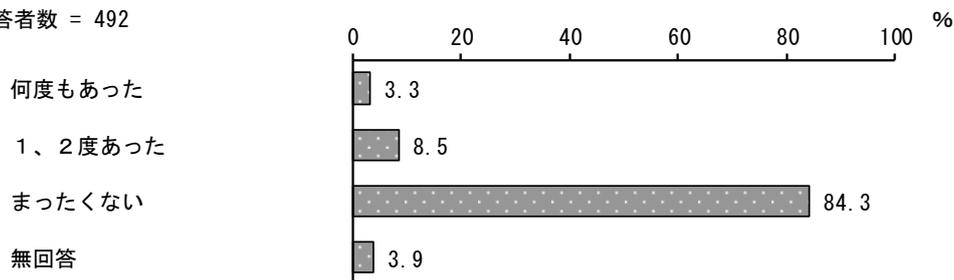
単位：％

区分	回答者数 (件)	何 度 も あ っ た	1、 2 度 あ っ た	ま っ た く な い	無 回 答
全 体	492	5.9	6.5	84.1	3.5
18～19歳	2	—	—	100.0	—
20～29歳	42	—	4.8	90.5	4.8
30～39歳	102	4.9	5.9	87.3	2.0
40～49歳	103	7.8	9.7	79.6	2.9
50～59歳	101	9.9	4.0	84.2	2.0
60～69歳	73	6.8	5.5	84.9	2.7
70歳以上	63	—	7.9	82.5	9.5

4. いやがっているのに性的な行為を強要された

「まったくない」の割合が84.3%と最も高くなっています。

回答者数 = 492



【性別】

性別にみると、他に比べ、男性で「まったくない」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	何度もあった	1、2度あった	まったくない	無回答
全体	492	3.3	8.5	84.3	3.9
男性	181	0.6	3.3	93.9	2.2
女性	297	5.1	11.4	79.5	4.0
性別を答えることに抵抗を感じる	10	—	20.0	60.0	20.0

【年代別】

年代別にみると、他に比べ、30～39歳で「まったくない」の割合が高くなっています。

単位：％

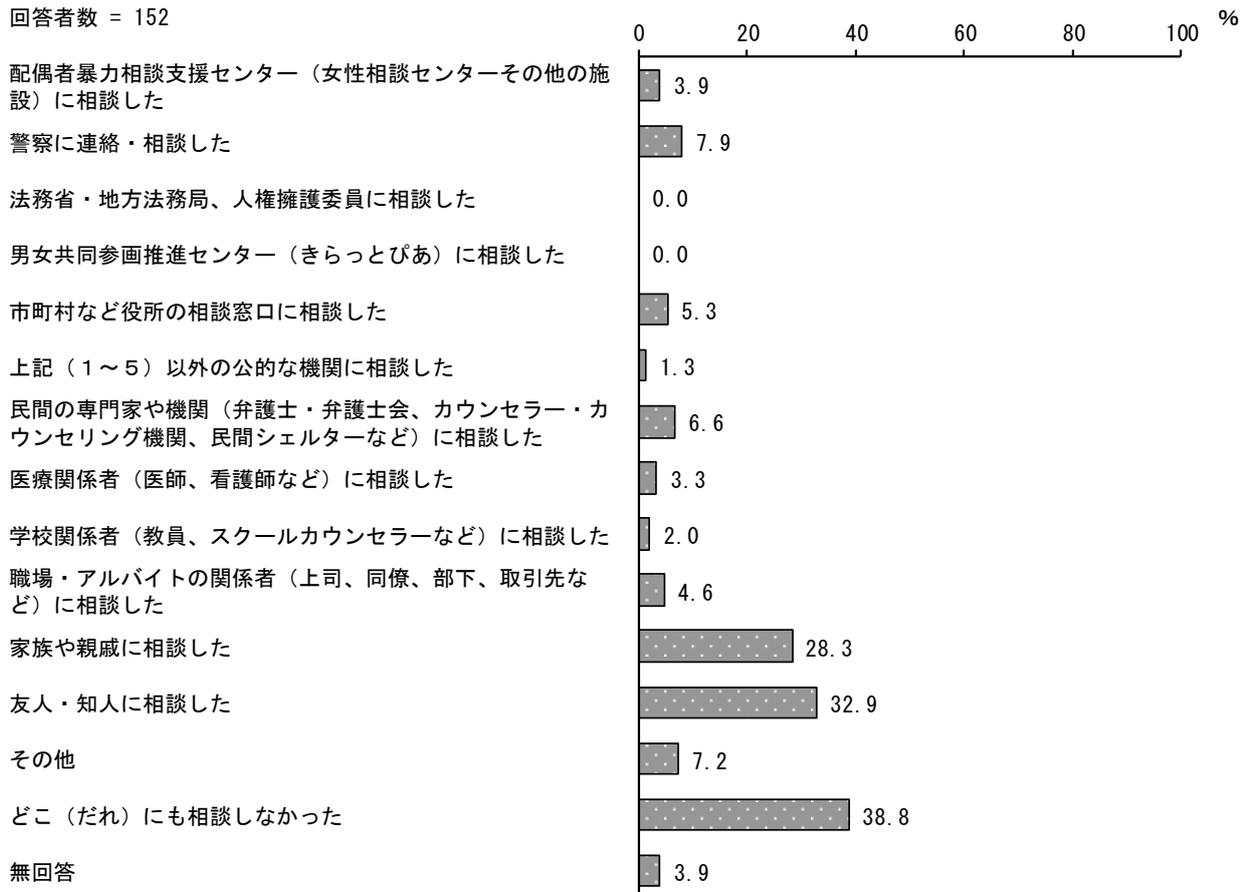
区分	回答者数 (件)	何 度 も あ っ た	1、 2 度 あ っ た	ま っ た く な い	無 回 答
全 体	492	3.3	8.5	84.3	3.9
18～19歳	2	—	—	100.0	—
20～29歳	42	4.8	2.4	85.7	7.1
30～39歳	102	2.9	5.9	90.2	1.0
40～49歳	103	1.0	6.8	88.3	3.9
50～59歳	101	5.0	11.9	80.2	3.0
60～69歳	73	4.1	11.0	82.2	2.7
70歳以上	63	1.6	12.7	76.2	9.5

<問 23 で 1～4 のうち、ひとつでも「何度もあった、1、2 度あった」に○をつけた方におたずねします。>

問 24 あなたは、あなたの配偶者・パートナー（恋人など）から受けたそのような行為について、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。
（あてはまる番号すべてに○）

「どこ（だれ）にも相談しなかった」の割合が 38.8%と最も高く、次いで「友人・知人に相談した」の割合が 32.9%、「家族や親戚に相談した」の割合が 28.3%となっています。

回答者数 = 152



【性別】

性別にみると、他に比べ、男性で「どこ（だれ）にも相談しなかった」の割合が、女性で「友人・知人に相談した」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	配偶者暴力相談支援センター(女性相談センターその他の施設)に相談した	警察に連絡・相談した	法務省・地方法務局、人権擁護委員に相談した	男女共同参画推進センター(きらっとびあ)に相談した	市町村など役所の相談窓口相談した	左記以外の公的な機関に相談した	民間の専門家や機関(弁護士・弁護士会、カウンセラー・カウンセリング機関、民間シェルターなど)に相談した
全体	152	3.9	7.9	—	—	5.3	1.3	6.6
男性	36	2.8	5.6	—	—	—	—	—
女性	111	4.5	9.0	—	—	7.2	0.9	9.0
性別を答えることに抵抗を感じる	4	—	—	—	—	—	25.0	—

区分	医療関係者(医師、看護師など)に相談した	学校関係者(教員、スクールカウンセラーなど)に相談した	職場・アルバイトの関係者(上司、同僚、部下、取引先など)に相談した	家族や親戚に相談した	友人・知人に相談した	その他	どこ(だれ)にも相談しなかった	無回答
全体	3.3	2.0	4.6	28.3	32.9	7.2	38.8	3.9
男性	5.6	—	5.6	22.2	16.7	5.6	47.2	11.1
女性	2.7	2.7	4.5	30.6	39.6	7.2	36.0	1.8
性別を答えることに抵抗を感じる	—	—	—	25.0	—	25.0	25.0	—

【年代別】

年代別にみると、他に比べ、60～69歳で「どこ（だれ）にも相談しなかった」の割合が、20～39歳で「家族や親戚に相談した」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	配偶者暴力相談支援センター（女性相談センターその他の施設）に相談した	警察に連絡・相談した	法務省・地方法務局、人権擁護委員に相談した	男女共同参画推進センター（きらっとびあ）に相談した	市町村など役所の相談窓口相談した	上記（1～5）以外の公的な機関に相談した	民間の専門家や機関（弁護士・弁護士会、カウンセラー・カウンセリング機関、民間シェルターなど）に相談した
全体	152	3.9	7.9	—	—	5.3	1.3	6.6
18～19歳	—	—	—	—	—	—	—	—
20～29歳	10	—	—	—	—	—	—	—
30～39歳	25	4.0	12.0	—	—	12.0	—	12.0
40～49歳	35	11.4	11.4	—	—	5.7	2.9	14.3
50～59歳	35	2.9	11.4	—	—	8.6	2.9	5.7
60～69歳	23	—	—	—	—	—	—	—
70歳以上	21	—	4.8	—	—	—	—	—

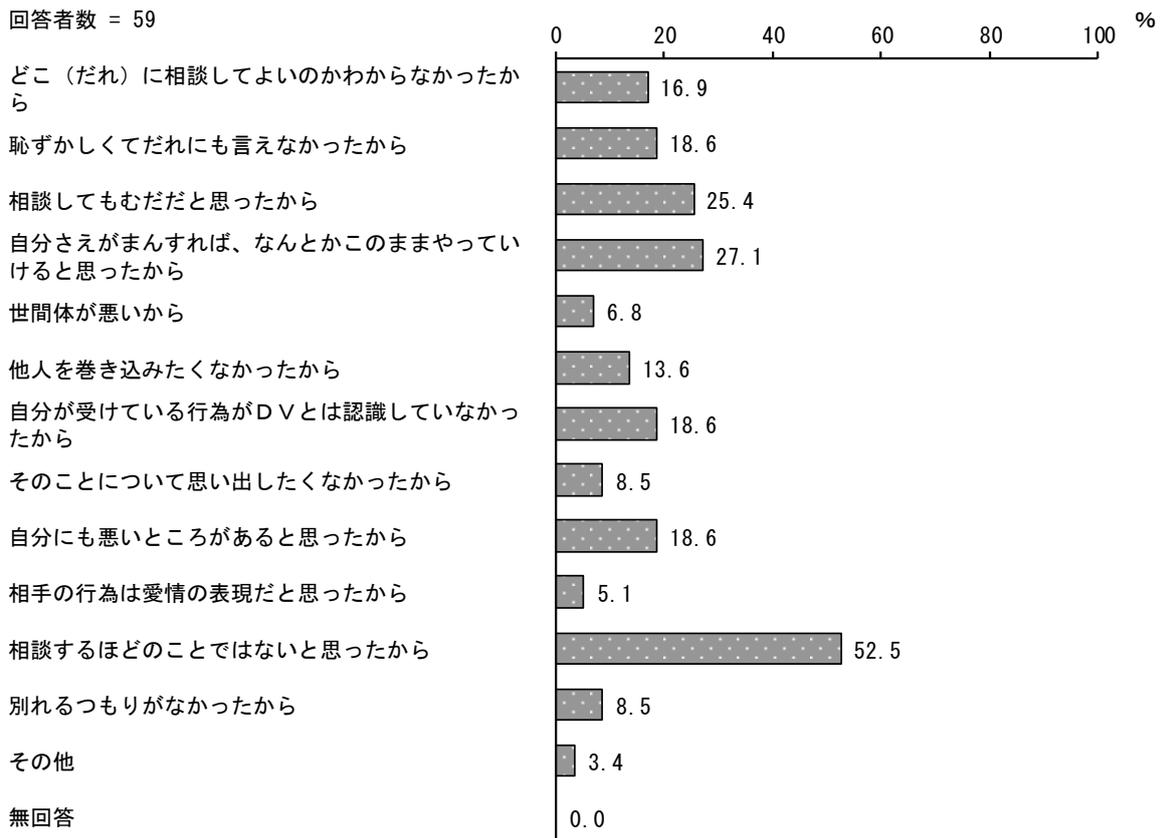
区分	医療関係者（医師、看護師など）に相談した	学校関係者（教員、スクールカウンセラーなど）に相談した	職場・アルバイトの関係者（上司、同僚、部下、取引先など）に相談した	家族や親戚に相談した	友人・知人に相談した	その他	どこ（だれ）にも相談しなかった	無回答
全体	3.3	2.0	4.6	28.3	32.9	7.2	38.8	3.9
18～19歳	—	—	—	—	—	—	—	—
20～29歳	—	—	—	40.0	40.0	10.0	30.0	—
30～39歳	4.0	—	16.0	44.0	44.0	12.0	20.0	—
40～49歳	—	5.7	5.7	31.4	34.3	11.4	31.4	—
50～59歳	11.4	2.9	—	25.7	37.1	5.7	37.1	5.7
60～69歳	—	—	4.3	8.7	17.4	—	65.2	13.0
70歳以上	—	—	—	23.8	23.8	4.8	47.6	4.8

<問 24 で「どこ（だれ）にも相談しなかった」に答えた方におたずねします。>

問 25 どこ（だれ）にも相談しなかったのは、なぜですか。
（あてはまる番号すべてに○）

「相談するほどのことではないと思ったから」の割合が 52.5% と最も高く、次いで「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」の割合が 27.1%、「相談してもむだだと思ったから」の割合が 25.4% となっています。

回答者数 = 59



【性別】

性別にみると、他に比べ、男性で「自分にも悪いところがあったから」の割合が、女性で「相談してもむだだと思ったから」「自分が受けている行為がDVとは認識していなかったから」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	どこ(だれ)に相談してよいかわからなかったから	恥ずかしくてだれにも言えなかったから	相談してもむだだと思ったから	自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっつけていけると思ったから	世間体が悪いから	他人を巻き込みたくなかったから	自分が受けている行為がDVとは認識していなかったから
全 体	59	16.9	18.6	25.4	27.1	6.8	13.6	18.6
男性	17	11.8	11.8	11.8	23.5	5.9	11.8	5.9
女性	40	20.0	20.0	32.5	27.5	7.5	15.0	25.0
性別を答えることに抵抗を感じる	1	-	100.0	-	100.0	-	-	-

区分	そのことについて思い出したくなかったから	自分にも悪いところがあると思ったから	相手の行為は愛情の表現だと思ったから	相談するほどのことではないと思ったから	別れるつもりがなかったから	その他	無回答
全 体	8.5	18.6	5.1	52.5	8.5	3.4	-
男性	5.9	29.4	5.9	52.9	5.9	-	-
女性	10.0	15.0	5.0	52.5	10.0	5.0	-
性別を答えることに抵抗を感じる	-	-	-	-	-	-	-

【年代別】

年代別にみると、他に比べ、40～59歳で「どこ（だれ）に相談してよいのかわからなかったから」の割合が、70歳以上で「相談するほどのことではないと思ったから」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数（件）	どこ（だれ）に相談してよいのかわからなかったから	恥ずかしくてだれにも言えなかったから	相談してもむだだと思ったから	自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっつけていけると思ったから	世間体が悪いから	他人を巻き込みたくなかったから	自分が受けている行為がDVとは認識していなかったから
全 体	59	16.9	18.6	25.4	27.1	6.8	13.6	18.6
18～19歳	—	—	—	—	—	—	—	—
20～29歳	3	—	33.3	—	33.3	—	33.3	33.3
30～39歳	5	—	40.0	40.0	40.0	—	40.0	20.0
40～49歳	11	36.4	18.2	36.4	36.4	9.1	9.1	27.3
50～59歳	13	30.8	23.1	30.8	23.1	—	7.7	23.1
60～69歳	15	13.3	20.0	20.0	26.7	20.0	20.0	6.7
70歳以上	10	—	—	10.0	20.0	—	—	20.0

区分	そのことについて思い出さなくなかったから	自分にも悪いところがあると思ったから	相手の行為は愛情の表現だと思ったから	相談するほどのことではないと思ったから	別れるつもりがなかったから	その他	無回答
全 体	8.5	18.6	5.1	52.5	8.5	3.4	—
18～19歳	—	—	—	—	—	—	—
20～29歳	—	33.3	—	66.7	33.3	—	—
30～39歳	—	—	40.0	60.0	—	20.0	—
40～49歳	9.1	18.2	—	36.4	9.1	—	—
50～59歳	7.7	30.8	7.7	53.8	—	—	—
60～69歳	20.0	6.7	—	46.7	13.3	6.7	—
70歳以上	—	30.0	—	70.0	10.0	—	—

【DV相談窓口の認知度別】

DV相談窓口の認知度別にみると、他に比べ、知らないで「どこ（だれ）に相談してよいのかわからなかったから」「自分が受けている行為がDVとは認識していなかったから」の割合が高くなっています。

単位：%

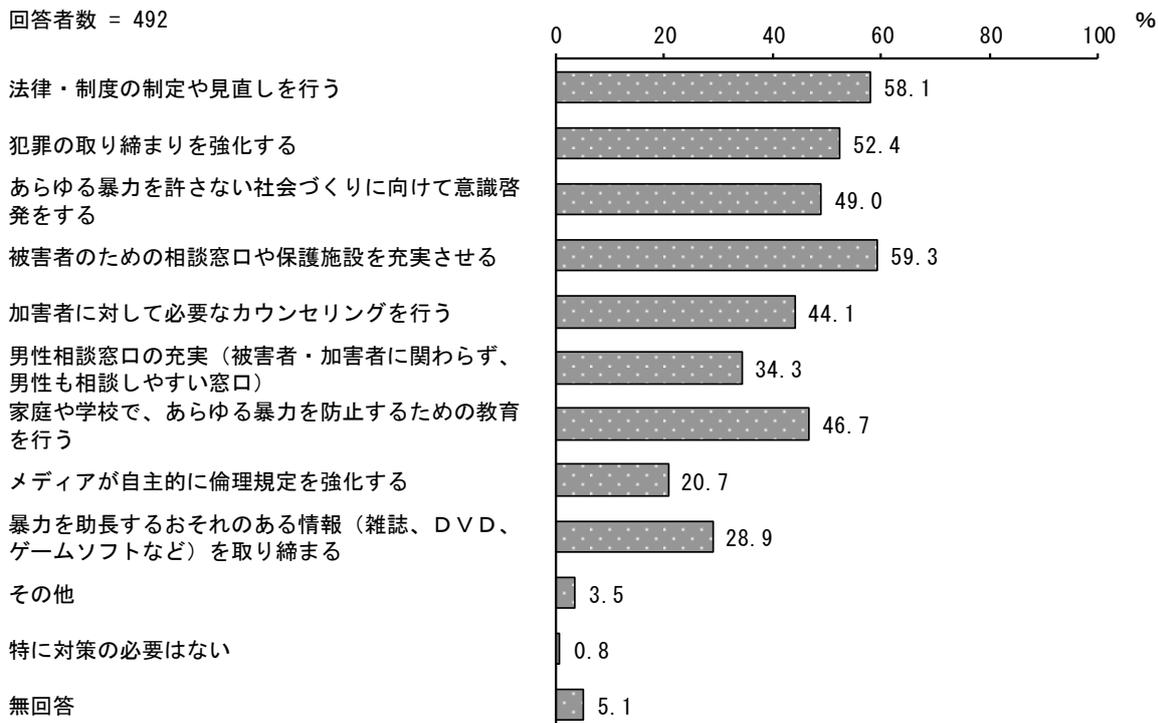
区分	回答者数（件）	どこ（だれ）に相談してよいのかわからなかったから	恥ずかしくてだれにも言えなかったから	相談してもむだだと思っただから	自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっつけていけると思っただから	世間体が悪いから	他人を巻き込みたくなかったから	自分が受けている行為がDVとは認識していなかったから
全体	59	16.9	18.6	25.4	27.1	6.8	13.6	18.6
知っている	24	4.2	16.7	25.0	20.8	8.3	16.7	8.3
知らない	32	25.0	18.8	25.0	31.3	3.1	12.5	25.0

区分	そのことについて思い出さなくなかったから	自分にも悪いところがあると思っただから	相手の行為は愛情の表現だと思っただから	相談するほどのことではないと思っただから	別れるつもりがなかったから	その他	無回答
全体	8.5	18.6	5.1	52.5	8.5	3.4	—
知っている	8.3	16.7	—	54.2	12.5	—	—
知らない	6.3	15.6	9.4	53.1	3.1	6.3	—

問 26 配偶者・パートナー（恋人など）からの暴力、セクシュアル・ハラスメント、性暴力・性犯罪などあらゆる暴力をなくすために、もっと取組みを進める必要があるのはどのようなことですか。（あてはまる番号すべてに○）

「被害者のための相談窓口や保護施設を充実させる」の割合が59.3%と最も高く、次いで「法律・制度の制定や見直しを行う」の割合が58.1%、「犯罪の取り締まりを強化する」の割合が52.4%となっています。

回答者数 = 492



【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。

単位：%

区分	回答者数(件)	法律・制度の制定や見直しを行う	犯罪の取り締まりを強化する	あらゆる暴力を許さない社会づくりに向けて意識啓発をする	被害者のための相談窓口や保護施設を充実させる	加害者に対して必要なカウンセリングを行う	男性相談窓口の充実(被害者・加害者に関わらず、男性も相談しやすい窓口)
全体	492	58.1	52.4	49.0	59.3	44.1	34.3
男性	181	61.9	55.2	47.5	55.8	39.2	30.9
女性	297	55.9	50.8	49.5	61.6	47.8	36.0
性別を答えることに抵抗を感じる	10	70.0	50.0	50.0	60.0	30.0	40.0

区分	家庭や学校で、あらゆる暴力を防止するための教育を行う	メディアが自主的に倫理規定を強化する	暴力を助長するおそれのある情報(雑誌、DVD、ゲームソフトなど)を取り締まる	その他	特に対策の必要はない	無回答
全体	46.7	20.7	28.9	3.5	0.8	5.1
男性	44.8	21.0	23.8	5.0	1.1	3.3
女性	48.1	20.9	32.3	2.4	0.7	5.4
性別を答えることに抵抗を感じる	40.0	20.0	30.0	10.0	—	20.0

【年代別】

年代別にみると、他に比べ、60～69歳で「暴力を助長するおそれのある情報（雑誌、DVD、ゲームソフトなど）を取り締まる」「あらゆる暴力を許さない社会づくりに向けて意識啓発をする」の割合が、20～29歳で「家庭や学校で、あらゆる暴力を防止するための教育を行う」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	法律・制度の制定や見直しを行う	犯罪の取り締まりを強化する	あらゆる暴力を許さない社会づくりに向けて意識啓発をする	被害者のための相談窓口や保護施設を充実させる	加害者に対して必要なカウンセリングを行う	男性相談窓口の充実（被害者・加害者に関わらず、男性も相談しやすい窓口）
全体	492	58.1	52.4	49.0	59.3	44.1	34.3
18～19歳	2	50.0	100.0	—	50.0	50.0	—
20～29歳	42	57.1	52.4	54.8	64.3	47.6	42.9
30～39歳	102	51.0	55.9	37.3	53.9	48.0	28.4
40～49歳	103	63.1	56.3	51.5	56.3	40.8	37.9
50～59歳	101	68.3	51.5	46.5	65.3	50.5	32.7
60～69歳	73	60.3	52.1	60.3	68.5	47.9	37.0
70歳以上	63	42.9	39.7	49.2	47.6	23.8	28.6

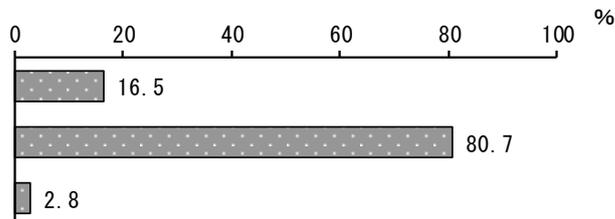
区分	男性相談窓口の充実（被害者・加害者に関わらず、男性も相談しやすい窓口）	家庭や学校で、あらゆる暴力を防止するための教育を行う	メディアが自主的に倫理規定を強化する	暴力を助長するおそれのある情報（雑誌、DVD、ゲームソフトなど）を取り締まる	その他	特に対策の必要はない	無回答
全体	34.3	46.7	20.7	28.9	3.5	0.8	5.1
18～19歳	—	50.0	—	—	—	—	—
20～29歳	42.9	59.5	23.8	19.0	2.4	—	4.8
30～39歳	28.4	47.1	18.6	17.6	4.9	1.0	2.9
40～49歳	37.9	45.6	20.4	25.2	5.8	1.0	2.9
50～59歳	32.7	40.6	18.8	29.7	3.0	—	3.0
60～69歳	37.0	50.7	30.1	46.6	1.4	2.7	5.5
70歳以上	28.6	42.9	14.3	39.7	—	—	15.9

問 27 配偶者・パートナー（恋人等）からの暴力を防止するため、大阪狭山市では広報誌や啓発冊子などによる広報・啓発活動、また、市役所や男女共同参画推進センターきらっとぴあにおいて、様々な講座を実施しています。あなたはこのことを知っていますか。（1つだけ○）

「知っている」の割合が16.5%、「知らない」の割合が80.7%となっています。

回答者数 = 492

知っている



知らない

無回答

【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。

単位：%

区分	回答者数 (件)	知っている	知らない	無回答
全 体	492	16.5	80.7	2.8
男性	181	18.2	79.6	2.2
女性	297	15.5	81.8	2.7
性別を答えることに抵抗を感じる	10	20.0	70.0	10.0

【年代別】

年代別にみると、他に比べ、40～49歳で「知っている」の割合が高くなっています。

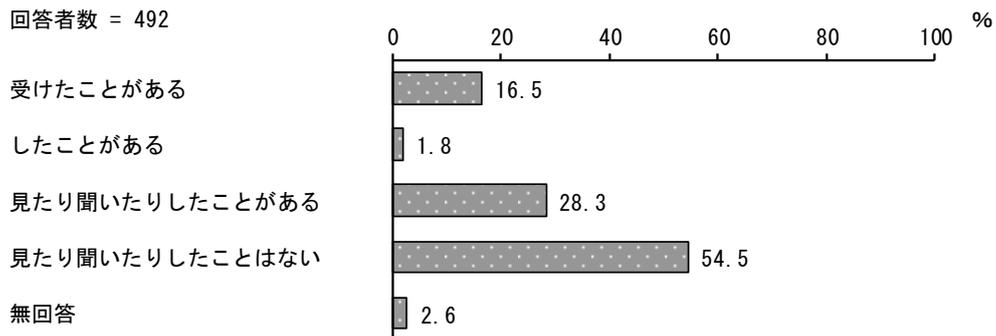
単位：％

区分	回答者数 (件)	知っている	知らない	無回答
全 体	492	16.5	80.7	2.8
18～19歳	2	—	100.0	—
20～29歳	42	19.0	78.6	2.4
30～39歳	102	13.7	85.3	1.0
40～49歳	103	22.3	74.8	2.9
50～59歳	101	11.9	85.1	3.0
60～69歳	73	12.3	83.6	4.1
70歳以上	63	20.6	74.6	4.8

(5) セクシュアル・ハラスメントについて

問 28 あなたは、身近でセクシュアル・ハラスメント（性的嫌がらせ）を見たり、聞いたり、あるいは自分自身が受けた、したことがありますか。
(あてはまる番号すべてに○)

「見たり聞いたりしたことはない」の割合が54.5%と最も高く、次いで「見たり聞いたりしたことがある」の割合が28.3%、「受けたことがある」の割合が16.5%となっています。



【性年代別】

性年代別にみると、他に比べ、20歳代、60歳代で「見たり聞いたりしたことがある」の割合が、70歳以上で「見たり聞いたりしたことはない」の割合が高くなっています。

単位：％

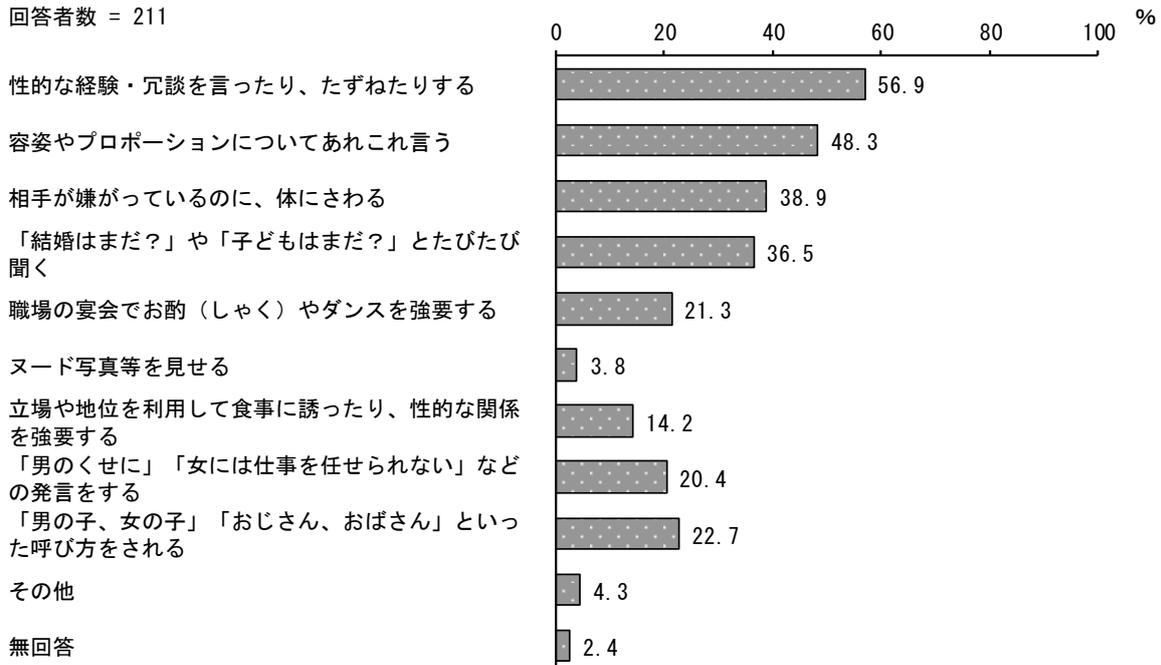
区分	回答者数 (件)	受けたことがある	したことがある	見たり聞いたりしたことがある	見たり聞いたりしたことはない	無回答
全 体	492	16.5	1.8	28.3	54.5	2.6
男性 全体	181	4.4	2.8	35.4	58.6	1.7
18～19歳	1	—	—	—	100.0	—
20歳代	16	6.3	6.3	43.8	50.0	—
30歳代	30	6.7	6.7	30.0	60.0	—
40歳代	40	5.0	—	37.5	50.0	7.5
50歳代	38	5.3	2.6	31.6	65.8	—
60歳代	30	3.3	3.3	50.0	46.7	—
70歳以上	25	—	—	24.0	76.0	—
女性 全体	297	23.2	1.3	23.6	53.2	2.7
18～19歳	1	—	—	—	100.0	—
20歳代	25	16.0	—	20.0	60.0	4.0
30歳代	69	24.6	1.4	30.4	49.3	1.4
40歳代	61	29.5	—	24.6	49.2	—
50歳代	61	27.9	1.6	16.4	54.1	1.6
60歳代	42	19.0	2.4	19.0	61.9	2.4
70歳以上	36	8.3	2.8	30.6	52.8	11.1

<問 28 で「受けたことがある、見たり聞いたりしたことがある、したことがある」に○をつけた方におたずねします>

問 29 それはどのような内容でしたか。(あてはまる番号すべてに○)

「性的な経験・冗談を言ったり、たずねたりする」の割合が 56.9%と最も高く、次いで「容姿やプロポーションについてあれこれ言う」の割合が 48.3%、「相手が嫌がっているのに、体にさわる」の割合が 38.9%となっています。

回答者数 = 211



【性別】

性別にみると、男性で「性的な経験・冗談を言ったり、たずねたりする」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	性的な経験・冗談を言ったり、たずねたりする	容姿やプロポーションについてあれこれ言う	相手が嫌がっているのに、体にさわる	「結婚はまだ?」や「子どもはまだ?」とたびたび聞く	職場の宴会でお酌(しやく)やダンスを強要する
全 体	211	56.9	48.3	38.9	36.5	21.3
男性	72	68.1	51.4	34.7	29.2	19.4
女性	131	50.4	48.1	42.0	41.2	22.9
性別を答えることに抵抗を感じる	7	71.4	28.6	28.6	28.6	14.3

区分	ヌード写真等を見せる	立場や地位を利用して食事や誘ったり、性的な関係を強要する	「男のくせに」「女には仕事を任せられない」などの発言をする	「男の子、女の子」「おじさん、おばさん」といった呼び方をされる	その他	無回答
全 体	3.8	14.2	20.4	22.7	4.3	2.4
男性	4.2	12.5	13.9	25.0	4.2	1.4
女性	3.8	16.0	23.7	22.1	3.1	3.1
性別を答えることに抵抗を感じる	-	-	28.6	14.3	14.3	-

【年代別】

年代別にみると、他に比べ、20～29歳で「容姿やプロポーションについてあれこれ言う」「性的な経験・冗談を言ったり、たずねたりする」の割合が、60～69歳で「立場や地位を利用して食事に誘ったり、性的な関係を強要する」の割合が高くなっています。

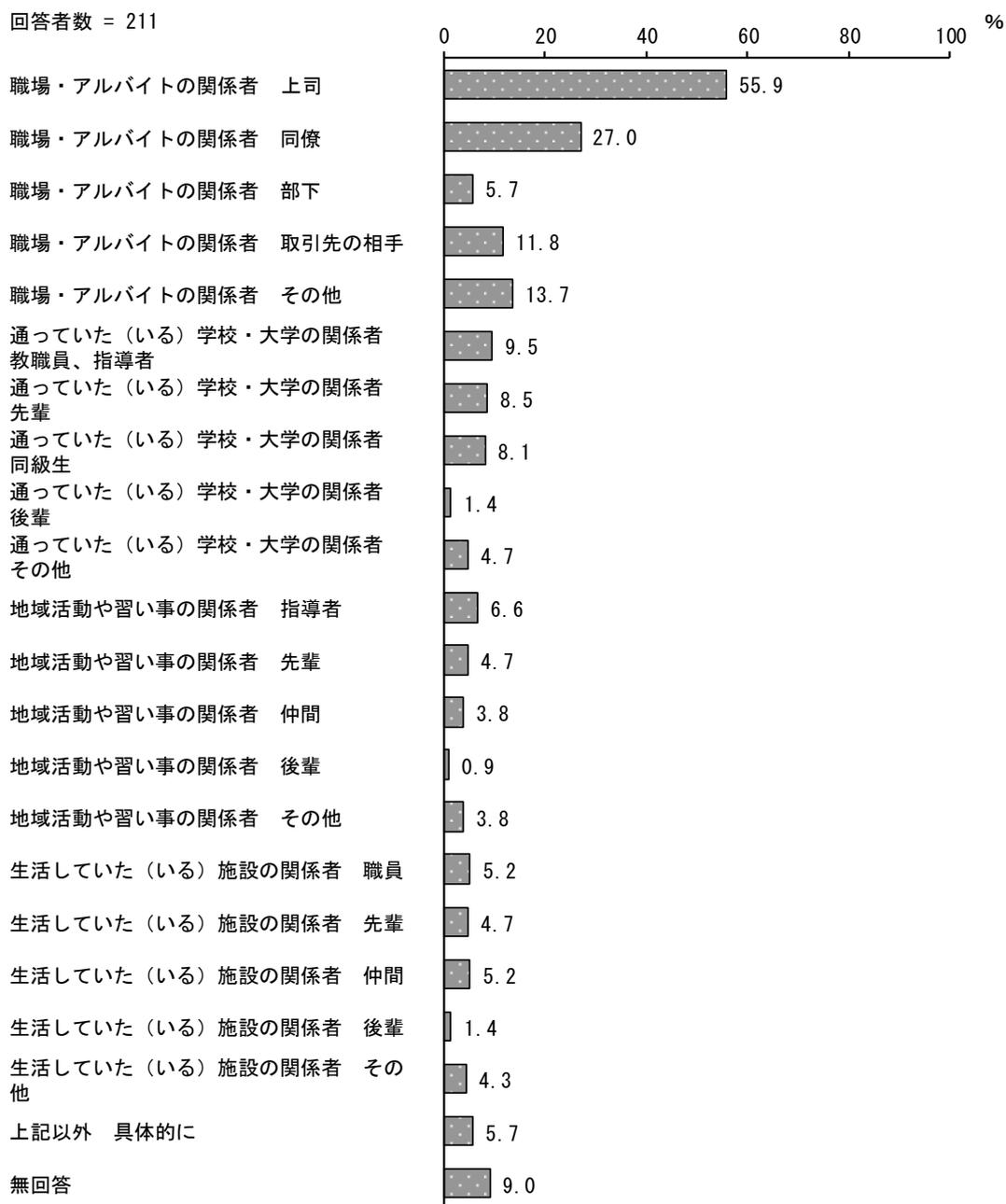
単位：％

区分	回答者数(件)	性的な経験・冗談を言ったり、たずねたりする	容姿やプロポーションについてあれこれ言う	相手が嫌がっているのに、体にさわる	「結婚はまだ？」や「子どもはまだ？」とたびたび聞く	職場の宴会でお酌(しゃく)やダンスを強要する
全体	211	56.9	48.3	38.9	36.5	21.3
18～19歳	—	—	—	—	—	—
20～29歳	17	70.6	76.5	35.3	11.8	11.8
30～39歳	48	58.3	47.9	50.0	45.8	8.3
40～49歳	50	48.0	46.0	32.0	46.0	30.0
50～59歳	42	50.0	50.0	40.5	38.1	28.6
60～69歳	31	64.5	48.4	35.5	29.0	25.8
70歳以上	20	65.0	30.0	35.0	15.0	10.0

区分	ヌード写真等を見せる	立場や地位を利用して食事に誘ったり、性的な関係を強要する	「男のくせに」「女には仕事を任せられない」などの発言をする	「男の子、女の子」「おじさん、おばさん」といった呼び方をされる	その他	無回答
全体	3.8	14.2	20.4	22.7	4.3	2.4
18～19歳	—	—	—	—	—	—
20～29歳	—	5.9	—	23.5	—	—
30～39歳	2.1	10.4	16.7	22.9	4.2	2.1
40～49歳	—	12.0	28.0	20.0	4.0	—
50～59歳	9.5	14.3	26.2	21.4	2.4	2.4
60～69歳	3.2	25.8	19.4	29.0	3.2	3.2
70歳以上	10.0	10.0	20.0	20.0	10.0	10.0

問 29-1 加害者は被害者とどのような関係でしたか。(あてはまる番号すべてに○)

「職場・アルバイトの関係者 上司」の割合が55.9%と最も高く、次いで「職場・アルバイトの関係者 同僚」の割合が27.0%、「職場・アルバイトの関係者 その他」の割合が13.7%となっています。

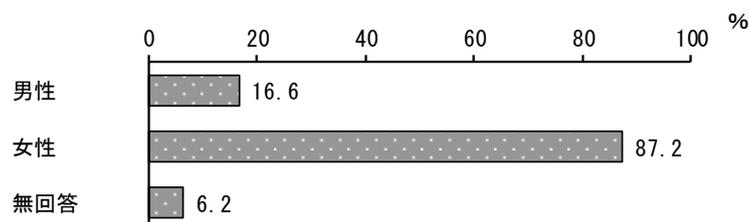


問 29-2 加害者、被害者の性別についてお答えください。(あてはまる番号すべてに○)

被害者

「男性」の割合が16.6%、「女性」の割合が87.2%となっています。

回答者数 = 211



【被害の内容別】

被害の内容別にみると、他に比べ、「男の子、女の子」「おじさん、おばさん」といった呼び方をされるで「男性」の割合が、「男のくせに」「女には仕事を任せられない」などの発言をするで「男性」の割合が、相手が嫌がっているのに、体にさわると「女性」の割合が高くなっています。

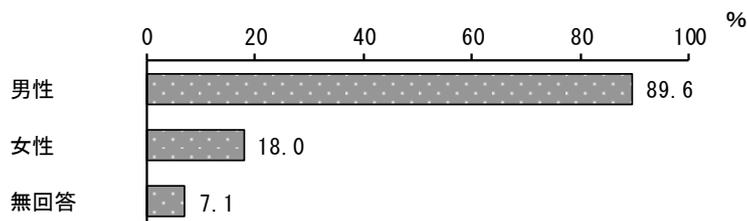
単位：%

区分	回答者数 (件)	男性	女性	無回答
全 体	211	16.6	87.2	6.2
性的な経験・冗談を言ったり、たずねたりする	120	20.0	91.7	4.2
容姿やプロポーションについてあれこれ言う	102	19.6	91.2	2.9
相手が嫌がっているのに、体にさわると	82	9.8	93.9	3.7
「結婚はまだ？」や「子どもはまだ？」とたびたび聞く	77	18.2	88.3	3.9
職場の宴会でお酌（しゃく）やダンスを強要する	45	22.2	93.3	2.2
ヌード写真等を見せる	8	25.0	87.5	12.5
立場や地位を利用して食事に誘ったり、性的な関係を強要する	30	13.3	93.3	—
「男のくせに」「女には仕事を任せられない」などの発言をする	43	27.9	86.0	2.3
「男の子、女の子」「おじさん、おばさん」といった呼び方をされる	48	29.2	91.7	2.1
その他	9	22.2	77.8	11.1

加害者

「男性」の割合が89.6%、「女性」の割合が18.0%となっています。

回答者数 = 211



【加害の内容別】

加害の内容別にみると、他に比べ、「男のくせに」「女には仕事を任せられない」などの発言をするで「女性」の割合が、「男の子、女の子」「おじさん、おばさん」といった呼び方をされるで「女性」の割合が、職場の宴会でお酌（しゃく）やダンスを強要するで「男性」の割合が高くなっています。

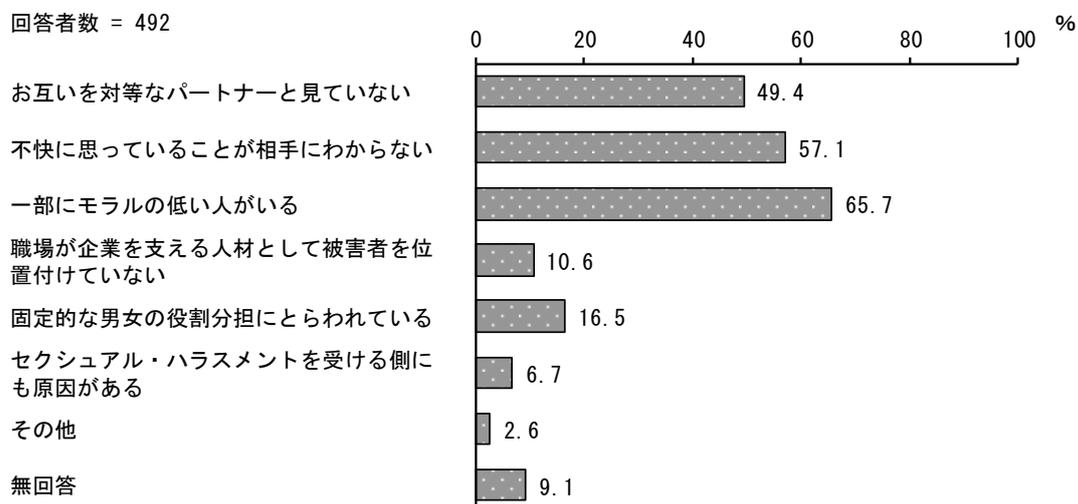
単位：%

区分	回答者数 (件)	男性	女性	無回答
全 体	211	89.6	18.0	7.1
性的な経験・冗談を言ったり、たずねたりする	120	94.2	21.7	3.3
容姿やプロポーションについてあれこれ言う	102	95.1	19.6	2.9
相手が嫌がっているのに、体にさわる	82	95.1	11.0	3.7
「結婚はまだ？」や「子どもはまだ？」とたびたび聞く	77	90.9	27.3	2.6
職場の宴会でお酌（しゃく）やダンスを強要する	45	100.0	22.2	—
ヌード写真等を見せる	8	75.0	37.5	12.5
立場や地位を利用して食事に誘ったり、性的な関係を強要する	30	96.7	13.3	—
「男のくせに」「女には仕事を任せられない」などの発言をする	43	90.7	34.9	2.3
「男の子、女の子」「おじさん、おばさん」といった呼び方をされる	48	89.6	33.3	2.1
その他	9	66.7	33.3	22.2

問 30 あなたは、職場等でセクシュアル・ハラスメントが起きる要因・背景はどのようなことだと思いますか。(あてはまる番号3つまで○)

「一部にモラルの低い人がいる」の割合が65.7%と最も高く、次いで「不快に思っていることが相手にわからない」の割合が57.1%、「お互いを対等なパートナーと見ていない」の割合が49.4%となっています。

回答者数 = 492



【性別】

性別にみると、男性で「一部にモラルの低い人がいる」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	お互いを対等なパートナーと見ていない	不快に思っていることが相手にわからない	一部にモラルの低い人がいる	職場が企業を支える人材として被害者を位置付けていない	固定的な男女の役割分担にとらわれている	セクシュアル・ハラスメントを受ける側にも原因がある	その他	無回答
全 体	492	49.4	57.1	65.7	10.6	16.5	6.7	2.6	9.1
男性	181	51.4	56.4	71.3	6.1	12.2	9.4	5.0	7.2
女性	297	49.2	57.6	62.0	13.5	19.2	5.1	1.3	9.8
性別を答えることに抵抗を感じる	10	20.0	70.0	80.0	10.0	20.0	10.0	—	20.0

【年代別】

年代別にみると、他に比べ、20～29歳で「不快に思っていることが相手にわからない」「お互いを対等なパートナーと見ていない」の割合が、60～69歳で「お互いを対等なパートナーと見ていない」の割合が高くなっています。

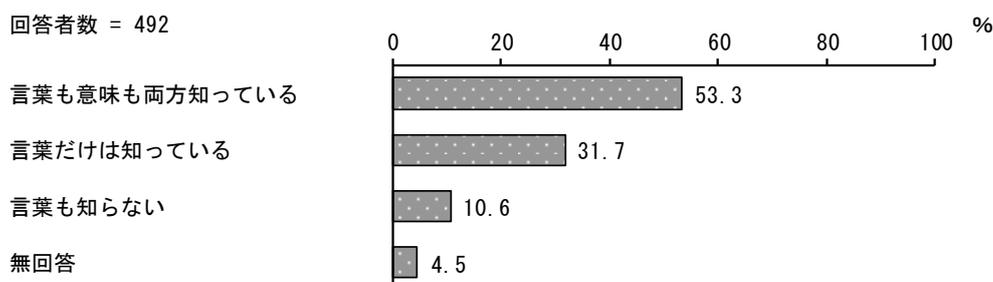
単位：%

区分	回答者数(件)	お互いを対等なパートナーと見ていない	不快に思っていることが相手にわからない	一部にモラルの低い人がいる	職場が企業を支える人材として被害者を位置付けていない	固定的な男女の役割分担にとらわれている	セクシュアル・ハラスメントを受ける側にも原因がある	その他	無回答
全体	492	49.4	57.1	65.7	10.6	16.5	6.7	2.6	9.1
18～19歳	2	50.0	—	50.0	—	50.0	—	—	—
20～29歳	42	57.1	71.4	64.3	4.8	11.9	4.8	2.4	7.1
30～39歳	102	45.1	57.8	67.6	10.8	17.6	8.8	1.0	6.9
40～49歳	103	52.4	62.1	67.0	7.8	19.4	4.9	2.9	6.8
50～59歳	101	43.6	51.5	70.3	13.9	15.8	7.9	6.9	7.9
60～69歳	73	61.6	60.3	67.1	13.7	15.1	—	1.4	6.8
70歳以上	63	41.3	47.6	52.4	11.1	15.9	14.3	—	22.2

(6) セクシュアル・マイノリティ（性的少数者）について

問 31 あなたは、LGBTをはじめとするセクシュアル・マイノリティについて、どの程度知っていますか。（1つだけ○）

「言葉も意味も両方知っている」の割合が53.3%と最も高く、次いで「言葉だけは知っている」の割合が31.7%、「言葉も知らない」の割合が10.6%となっています。



【性別】

性別にみると、男性で「言葉だけは知っている」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	言葉も意味も両方知っている	言葉だけは知っている	言葉も知らない	無回答
全 体	492	53.3	31.7	10.6	4.5
男性	181	48.6	39.8	9.9	1.7
女性	297	54.9	27.9	11.1	6.1
性別を答えることに抵抗を感じる	10	90.0	10.0	—	—

【年代別】

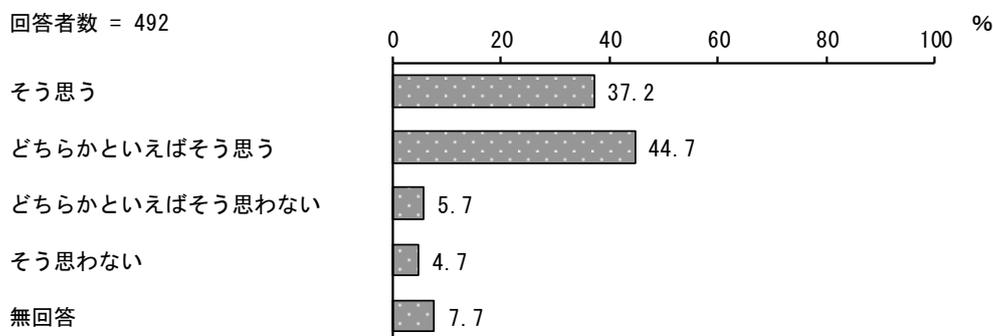
年代別にみると、他に比べ、70歳以上で「言葉も知らない」の割合が、30～49歳で「言葉も意味も両方知っている」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	言葉も意味も両方 知っている	言葉だけは知っ ている	言葉も知らない	無回答
全 体	492	53.3	31.7	10.6	4.5
18～19歳	2	—	100.0	—	—
20～29歳	42	54.8	38.1	4.8	2.4
30～39歳	102	60.8	25.5	9.8	3.9
40～49歳	103	60.2	30.1	7.8	1.9
50～59歳	101	58.4	28.7	10.9	2.0
60～69歳	73	46.6	38.4	8.2	6.8
70歳以上	63	28.6	38.1	22.2	11.1

問 32 LGBTをはじめとするセクシュアル・マイノリティにとって、現状は生活しづらい社会だと思いますか。(1つだけ○)

「どちらかといえばそう思う」の割合が44.7%と最も高く、次いで「そう思う」の割合が37.2%となっています。



【性別】

性別にみると、男性で「どちらかといえばそう思う」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない	無回答
全 体	492	37.2	44.7	5.7	4.7	7.7
男性	181	32.0	50.3	7.2	6.6	3.9
女性	297	39.7	42.8	4.4	3.7	9.4
性別を答えることに抵抗を感じる	10	60.0	10.0	20.0	—	10.0

【年代別】

年代別にみると、他に比べ、20～29歳、60～69歳で「どちらかといえばそう思う」の割合が、40～49歳で「そう思う」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	そう思う	どちらかといえ ば そう思う	どちらかといえ ば そう思わない	そう思わない	無回答
全 体	492	37.2	44.7	5.7	4.7	7.7
18～19歳	2	50.0	—	50.0	—	—
20～29歳	42	38.1	50.0	—	7.1	4.8
30～39歳	102	36.3	45.1	9.8	6.9	2.0
40～49歳	103	42.7	43.7	5.8	2.9	4.9
50～59歳	101	37.6	47.5	3.0	4.0	7.9
60～69歳	73	31.5	50.7	4.1	5.5	8.2
70歳以上	63	34.9	33.3	7.9	3.2	20.6

【性的マイノリティの認知度別】

性的マイノリティの認知度別にみると、他に比べ、言葉も意味も両方知っているで「そう思う」の割合が、言葉だけは知っているで「どちらかといえばそう思う」の割合が高くなっています。

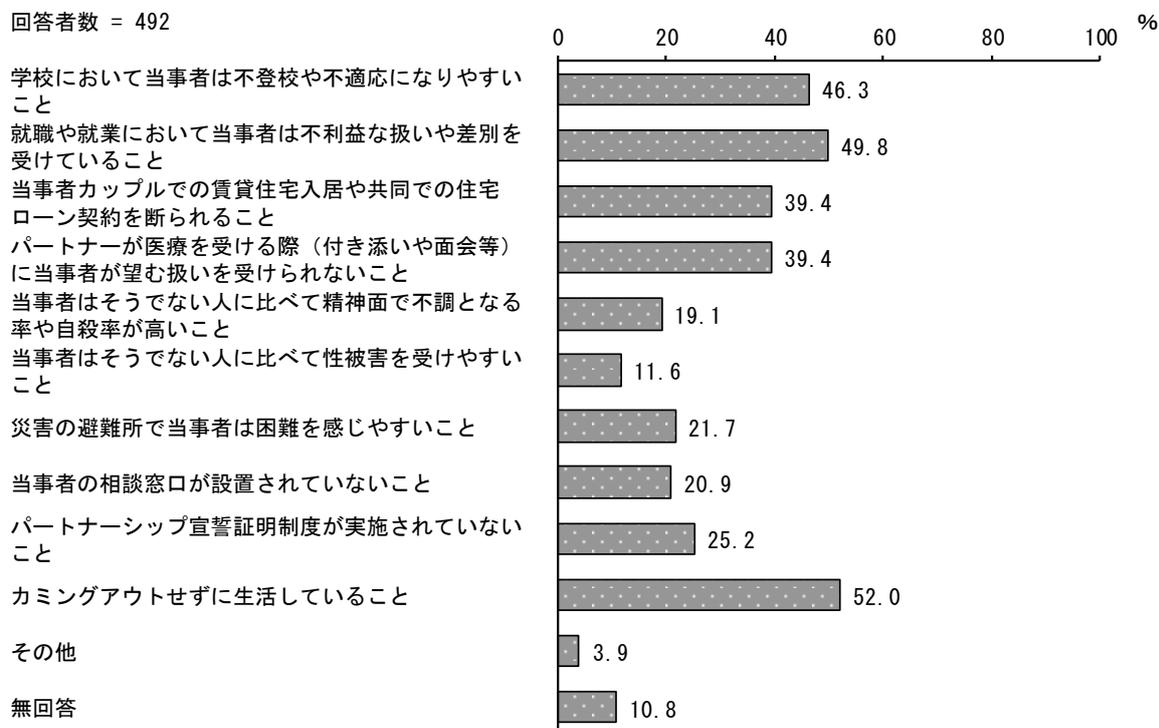
単位：％

区分	回答者数 (件)	そう思う	どちらかといえ ば そう思う	どちらかといえ ば そう思わない	そう思わない	無回答
全 体	492	37.2	44.7	5.7	4.7	7.7
言葉も意味も両方知っている	262	50.0	41.2	5.0	2.3	1.5
言葉だけは知っている	156	30.1	55.8	7.1	5.8	1.3
言葉も知らない	52	9.6	42.3	5.8	13.5	28.8

問 33 セクシュアル・マイノリティが暮らしにくいと思うことを選んでください。
 (あてはまる番号すべてに○)

「カミングアウトせずに生活していること」の割合が52.0%と最も高く、次いで「就職や就業において当事者は不利益な扱いや差別を受けていること」の割合が49.8%、「学校において当事者は不登校や不適應になりやすいこと」の割合が46.3%となっています。

回答者数 = 492



【性別】

性別にみると、女性で「パートナーが医療を受ける際（付き添いや面会等）に当事者が望む扱いを受けられないこと」「パートナーシップ宣誓証明制度が実施されていないこと」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	学校において当事者は不登校や不適応になりやすいこと	就職や就業において当事者は不利益な扱いや差別を受けていること	当事者カップルでの賃貸住宅入居や共同での住宅ローン契約を断られること	パートナーが医療を受ける際（付き添いや面会等）に当事者が望む扱いを受けられないこと	当事者はそうでない人に比べて精神面で不調となる率や自殺率が高いこと	当事者はそうでない人に比べて性被害を受けやすいこと
全体	492	46.3	49.8	39.4	39.4	19.1	11.6
男性	181	47.0	53.6	32.6	28.2	19.3	14.9
女性	297	45.5	48.1	43.4	46.1	19.2	9.4
性別を答えることに抵抗を感じる	10	60.0	40.0	40.0	40.0	10.0	10.0

区分	災害の避難所で当事者は困難を感じやすいこと	当事者の相談窓口が設置されていないこと	パートナーシップ宣誓証明制度が実施されていないこと	カミングアウトせずに生活していること	その他	無回答
全体	21.7	20.9	25.2	52.0	3.9	10.8
男性	19.3	18.8	16.0	47.5	5.0	5.5
女性	23.6	22.2	30.3	54.9	3.0	13.5
性別を答えることに抵抗を感じる	10.0	20.0	40.0	50.0	10.0	10.0

【年代別】

年代別にみると、他に比べ、20～29歳、40～49歳で「カミングアウトせずに生活していること」の割合が、30～39歳で「パートナーシップ宣誓証明制度が実施されていないこと」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	学校において当事者は不登校や不応になりやすいこと	就職や就業において当事者は不利益な扱いや差別を受けていること	当事者カップルでの賃貸住宅入居や共同での住宅ローン契約を断られること	当事者が望む扱いを受けられないこと	当事者はそうでない人に比べて精神面で不調となる率や自殺率が高いこと	当事者はそうでない人に比べて性被害を受けやすいこと
全体	492	46.3	49.8	39.4	39.4	19.1	11.6
18～19歳	2	50.0	100.0	—	50.0	—	—
20～29歳	42	40.5	52.4	40.5	47.6	21.4	19.0
30～39歳	102	43.1	46.1	45.1	45.1	19.6	13.7
40～49歳	103	47.6	45.6	39.8	38.8	14.6	4.9
50～59歳	101	48.5	54.5	38.6	43.6	19.8	8.9
60～69歳	73	52.1	57.5	43.8	34.2	26.0	13.7
70歳以上	63	42.9	44.4	25.4	23.8	14.3	15.9

区分	災害の避難所で当事者は困難を感じやすいこと	当事者の相談窓口が設置されていないこと	パートナーシップ宣誓証明制度が実施されていないこと	カミングアウトせずに生活していること	その他	無回答
全体	21.7	20.9	25.2	52.0	3.9	10.8
18～19歳	—	—	—	50.0	—	—
20～29歳	16.7	23.8	28.6	71.4	4.8	7.1
30～39歳	19.6	20.6	37.3	52.9	3.9	5.9
40～49歳	20.4	23.3	25.2	61.2	5.8	6.8
50～59歳	25.7	23.8	26.7	56.4	3.0	8.9
60～69歳	24.7	15.1	15.1	46.6	5.5	9.6
70歳以上	20.6	15.9	12.7	20.6	—	30.2

【性的マイノリティの認知度別】

性的マイノリティの認知度別にみると、他に比べ、言葉も意味も両方知っているで「パートナーが医療を受ける際（付き添いや面会等）に当事者が望む扱いを受けられないこと」「カミングアウトせずに生活していること」「パートナーシップ宣誓証明制度が実施されていないこと」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	と 学校において当事者は不登校や不適応になりやすいこと	就職や就業において当事者は不利益な扱いや差別を受けていること	当事者カップルでの賃貸住宅入居や共同での住宅ローン契約を断られること	当事者が望む扱いを受けられないこと	パートナーが医療を受ける際（付き添いや面会等）に当事者が望む扱いを受けられないこと	当事者はそうでない人に比べて精神面で不調となる率や自殺率が高いこと	と 当事者はそうでない人に比べて性被害を受けやすいこと
全 体	492	46.3	49.8	39.4	39.4	19.1	11.6	
言葉も意味も両方知っている	262	53.1	55.7	50.0	52.3	25.2	11.8	
言葉だけは知っている	156	46.2	55.1	36.5	29.5	14.7	14.1	
言葉も知らない	52	26.9	13.5	3.8	13.5	7.7	5.8	

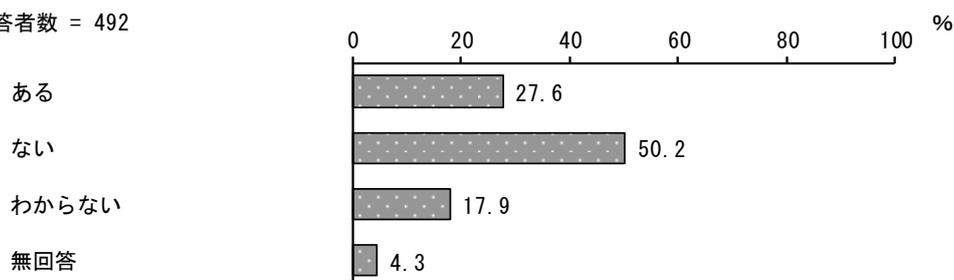
区分	災害の避難所で当事者は困難を感じやすいこと	当事者の相談窓口が設置されていないこと	と パートナーシップ宣誓証明制度が実施されていないこと	カミングアウトせずに生活していること	その他	無回答
全 体	21.7	20.9	25.2	52.0	3.9	10.8
言葉も意味も両方知っている	27.1	25.2	36.3	64.1	4.2	3.8
言葉だけは知っている	19.9	19.9	17.3	46.8	3.8	5.8
言葉も知らない	7.7	9.6	1.9	25.0	3.8	36.5

(7) 生きづらさについて

問 34 あなたは、「女性であること」または「男性であること」によって、負担感や生きづらさを感じたことがありますか。(1つだけ○)

「ない」の割合が50.2%と最も高く、次いで「ある」の割合が27.6%、「わからない」の割合が17.9%となっています。

回答者数 = 492



【性別】

性別にみると、他に比べ、男性で「ない」の割合が、女性で「ある」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	ある	ない	わからない	無回答
全 体	492	27.6	50.2	17.9	4.3
男性	181	18.8	62.4	18.2	0.6
女性	297	33.0	43.4	17.2	6.4
性別を答えることに抵抗を感じる	10	30.0	40.0	30.0	—

【年代別】

年代別にみると、他に比べ、40～49歳で「ある」の割合が、70歳以上で「ない」の割合が、20～29歳、50～59歳で「わからない」の割合が高くなっています。

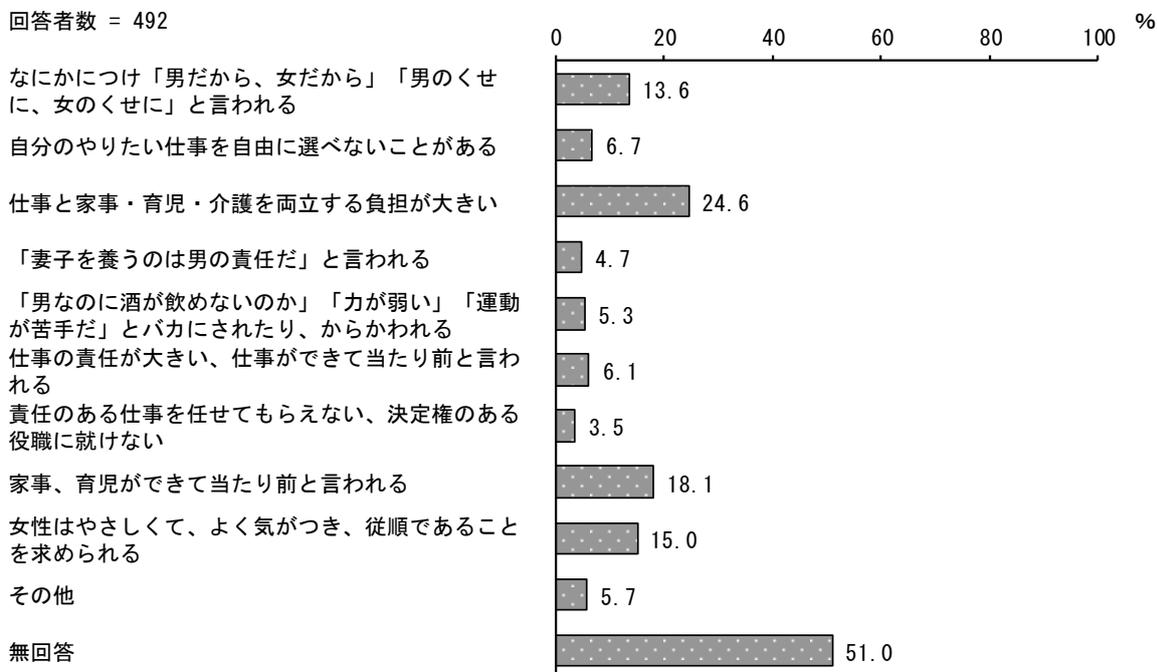
単位：％

区分	回答者数 (件)	ある	ない	わからない	無回答
全 体	492	27.6	50.2	17.9	4.3
18～19歳	2	—	50.0	50.0	—
20～29歳	42	33.3	42.9	23.8	—
30～39歳	102	23.5	52.9	21.6	2.0
40～49歳	103	43.7	41.7	13.6	1.0
50～59歳	101	23.8	49.5	23.8	3.0
60～69歳	73	28.8	54.8	11.0	5.5
70歳以上	63	9.5	61.9	12.7	15.9

問 35 それはなぜですか。(あてはまる番号すべてに○)

「仕事と家事・育児・介護を両立する負担が大きい」の割合が24.6%と最も高く、次いで「家事、育児ができて当たり前と言われる」の割合が18.1%、「女性はやさしくて、よく気がつき、従順であることを求められる」の割合が15.0%となっています。

回答者数 = 492



【性別】

性別にみると、女性で「家事、育児ができて当たり前と言われる」「仕事と家事・育児・介護を両立する負担が大きい」「女性はやさしくて、よく気がつき、従順であることを求められる」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	なにかにつけ「男だから、女だから」「男のくせに、女のくせに」と言われる	自分のやりたい仕事を自由に選べないことがある	仕事と家事・育児・介護を両立する負担が大きい	「妻子を養うのは男の責任だ」と言われる	「男なのに酒が飲めないのか」「力が弱い」「運動が苦手だ」とバカにされたり、からかわれる
全体	492	13.6	6.7	24.6	4.7	5.3
男性	181	11.6	4.4	9.9	9.9	12.2
女性	297	14.5	8.1	34.3	1.7	1.0
性別を答えることに抵抗を感じる	10	20.0	10.0	10.0	—	10.0

区分	仕事の責任が大きい、仕事ができるが当たり前と言われる	責任のある仕事を任せてもらえない、決定権のある役職に就けない	家事、育児ができて当たり前と言われる	女性はやさしくて、よく気がつき、従順であることを求められる	その他	無回答
全体	6.1	3.5	18.1	15.0	5.7	51.0
男性	13.3	0.6	1.7	1.7	6.6	57.5
女性	1.7	5.4	28.3	23.2	5.1	47.1
性別を答えることに抵抗を感じる	10.0	—	10.0	10.0	10.0	50.0

【年代別】

年代別にみると、他に比べ、40～49歳で「なにかにつけ「男だから、女だから」「男のくせに、女のくせに」と言われる」「仕事と家事・育児・介護を両立する負担が大きい」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	なにかにつけ「男だから、女だから」「男のくせに、女のくせに」と言われる	自分のやりたい仕事を自由に選べないことがある	仕事と家事・育児・介護を両立する負担が大きい	「妻子を養うのは男の責任だ」と言われる	「男なのに酒が飲めないのか」「力が弱い」「運動が苦手だ」とバカにされたり、からかわれる
全 体	492	13.6	6.7	24.6	4.7	5.3
18～19歳	2	—	—	—	—	—
20～29歳	42	7.1	7.1	23.8	2.4	7.1
30～39歳	102	6.9	5.9	27.5	3.9	6.9
40～49歳	103	22.3	6.8	31.1	5.8	5.8
50～59歳	101	13.9	7.9	22.8	5.0	2.0
60～69歳	73	15.1	6.8	23.3	6.8	4.1
70歳以上	63	11.1	4.8	15.9	3.2	6.3

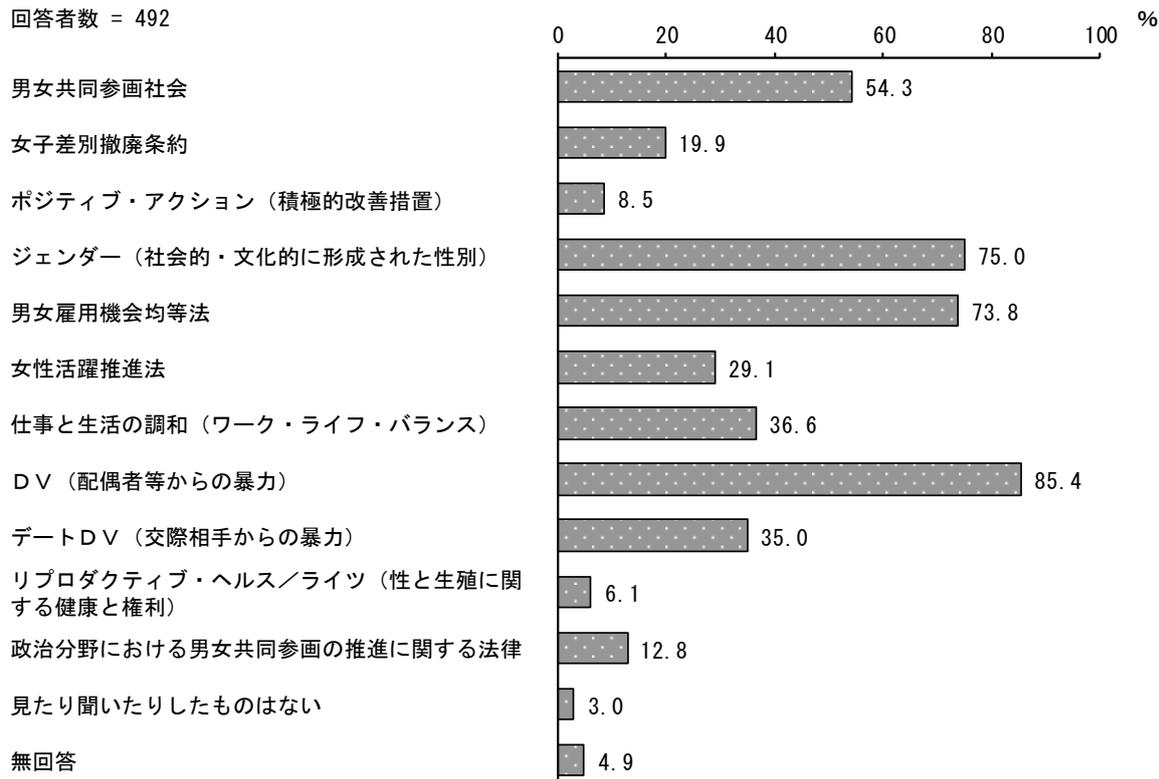
区分	仕事の責任が大きい、仕事が出てきて当たり前と言われる	責任のある仕事を任せてもらえない、決定権のある役職に就けない	家事、育児が出てきて当たり前と言われる	女性はやさしくて、よく気がつき、従順であることを求められる	その他	無回答
全 体	6.1	3.5	18.1	15.0	5.7	51.0
18～19歳	—	—	—	—	—	100.0
20～29歳	2.4	2.4	19.0	14.3	14.3	42.9
30～39歳	9.8	2.9	16.7	12.7	4.9	46.1
40～49歳	5.8	1.9	20.4	14.6	5.8	49.5
50～59歳	4.0	4.0	16.8	17.8	8.9	53.5
60～69歳	8.2	4.1	19.2	17.8	1.4	53.4
70歳以上	4.8	4.8	15.9	11.1	1.6	60.3

(8) 男女共同参画の取組みについて

問 36 これらの言葉のうち、あなたが見たり聞いたりしたことがあるものを全てあげてください。(あてはまる番号すべてに○)

「DV（配偶者等からの暴力）」の割合が 85.4%と最も高く、次いで「ジェンダー（社会的・文化的に形成された性別）」の割合が 75.0%、「男女雇用機会均等法」の割合が 73.8%となっています。

回答者数 = 492



【性別・経年比較】

平成30年度調査と比較すると、男性で「女子差別撤廃条約」「ジェンダー（社会的・文化的に形成された性別）」「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」「デートDV（交際相手からの暴力）」の割合が増加しています。また、女性で「ジェンダー（社会的・文化的に形成された性別）」「男女雇用機会均等法」「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」の割合が増加しています。

単位：％

区分	回答者数（件）	男女共同参画社会	女子差別撤廃条約	ポジティブ・アクション（積極的改善措置）	ジェンダー（社会的・文化的に形成された性別）	男女雇用機会均等法	女性活躍推進法
全 体	492	54.3	19.9	8.5	75.0	73.8	29.1
男性 令和4年度調査	181	56.9	25.4	12.7	75.7	79.0	30.9
平成30年度調査	156	52.6	19.2	7.1	53.8	82.1	25.0
女性 令和4年度調査	297	53.2	17.2	6.1	74.4	71.0	28.6
平成30年度調査	256	51.2	19.1	7.4	57.0	82.0	21.9

区分	仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）	DV（配偶者等からの暴力）	デートDV（交際相手からの暴力）	リプロダクティブ・ヘルス/ライツ（性と生殖に関する健康と権利）	政治分野における男女共同参画の推進に関する法律※	見たり聞いたりしたものは無い	無回答
全 体	36.6	85.4	35.0	6.1	12.8	3.0	4.9
男性 令和4年度調査	39.8	84.0	34.3	6.6	17.7	3.3	2.8
平成30年度調査	28.2	86.5	23.1	3.2	20.5	3.2	3.8
女性 令和4年度調査	34.7	86.5	35.0	5.7	10.1	3.0	6.1
平成30年度調査	28.5	86.3	35.2	2.0	8.2	5.1	2.7

【性別】

性別にみると、男性で「女子差別撤廃条約」「男女雇用機会均等法」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	男女共同参画社会	女子差別撤廃条約	ポジティブ・アクション (積極的改善措置)	ジェンダー(社会的・文 化的に形成された性別)	男女雇用機会均等法	女性活躍推進法
全 体	492	54.3	19.9	8.5	75.0	73.8	29.1
男性	181	56.9	25.4	12.7	75.7	79.0	30.9
女性	297	53.2	17.2	6.1	74.4	71.0	28.6
性別を答えることに抵抗を感じる	10	50.0	10.0	10.0	90.0	70.0	20.0

区分	仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)	DV(配偶者等からの暴力)	デートDV(交際相手からの暴力)	リプロダクティブ・ヘルス/ライツ(性と生殖に関する健康と権利)	政治分野における男女共同参画の推進に関する法律※	見たり聞いたりしたものはない	無回答
全 体	36.6	85.4	35.0	6.1	12.8	3.0	4.9
男性	39.8	84.0	34.3	6.6	17.7	3.3	2.8
女性	34.7	86.5	35.0	5.7	10.1	3.0	6.1
性別を答えることに抵抗を感じる	50.0	80.0	40.0	10.0	10.0	-	-

※(衆参両院や地方議会の選挙で候補を擁立する政党や政治団体に、男女の候補者数を「できる限り均等」とするよう求める法律)

【年代別】

年代別にみると、他に比べ、20～29歳で「デートDV（交際相手からの暴力）」「男女共同参画社会」「女子差別撤廃条約」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	男女共同参画社会	女子差別撤廃条約	ポジティブ・アクション（積極的改善措置）	ジェンダー（社会的・文化的に形成された性別）	男女雇用機会均等法	女性活躍推進法
全体	492	54.3	19.9	8.5	75.0	73.8	29.1
18～19歳	2	50.0	—	—	50.0	50.0	—
20～29歳	42	73.8	38.1	11.9	88.1	73.8	38.1
30～39歳	102	60.8	12.7	8.8	79.4	64.7	28.4
40～49歳	103	61.2	22.3	10.7	77.7	78.6	40.8
50～59歳	101	40.6	21.8	6.9	79.2	83.2	27.7
60～69歳	73	53.4	23.3	4.1	76.7	75.3	27.4
70歳以上	63	42.9	9.5	11.1	47.6	65.1	11.1

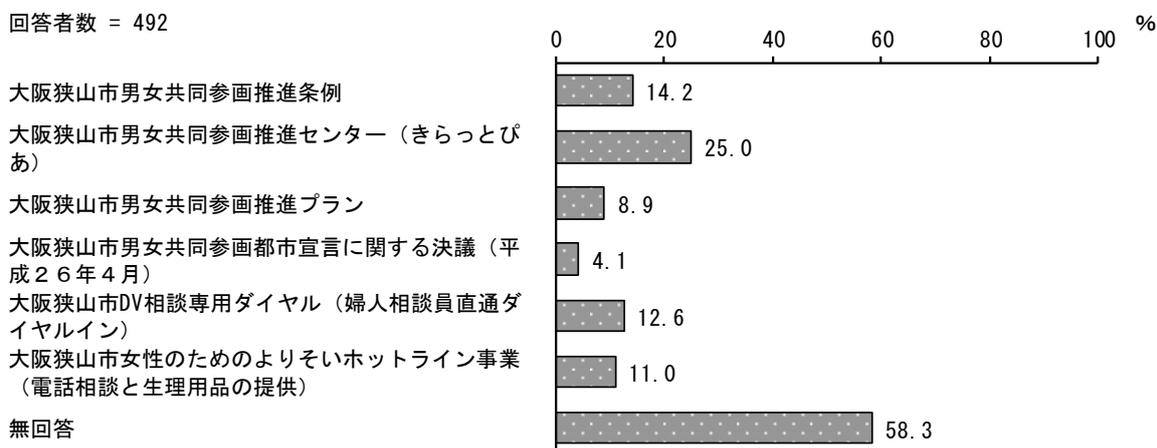
区分	仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）	DV（配偶者等からの暴力）	デートDV（交際相手からの暴力）	リップログクティブ・ヘルス／ライツ（性と生殖に関する健康と権利）	政治分野における男女共同参画の推進に関する法律※	見たり聞いたりしたものは無い	無回答
全体	36.6	85.4	35.0	6.1	12.8	3.0	4.9
18～19歳	—	50.0	50.0	—	—	50.0	—
20～29歳	54.8	90.5	54.8	11.9	11.9	2.4	2.4
30～39歳	37.3	90.2	41.2	6.9	12.7	2.9	1.0
40～49歳	45.6	87.4	36.9	9.7	11.7	3.9	1.9
50～59歳	38.6	88.1	29.7	4.0	10.9	3.0	3.0
60～69歳	28.8	82.2	30.1	4.1	15.1	2.7	8.2
70歳以上	17.5	71.4	20.6	—	15.9	1.6	15.9

※（衆参両院や地方議会の選挙で候補を擁立する政党や政治団体に、男女の候補者数を「できる限り均等」とするよう求める法律）

問 36-1 大阪狭山市の男女共同参画推進に関する施策についてあなたが見たり聞いた
りしたことがあるものを全てあげてください。(あてはまる番号すべてに○)

「大阪狭山市男女共同参画推進センター（きらっとぴあ）」の割合が 25.0%と最も高く、次いで「大阪狭山市男女共同参画推進条例」の割合が 14.2%、「大阪狭山市 DV 相談専用ダイヤル（婦人相談員直通ダイヤルイン）」の割合が 12.6%となっています。

回答者数 = 492



【性別】

性別にみると、他に比べ、男性で「大阪狭山市男女共同参画推進条例」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数（件）	大阪狭山市男女共同参画推進条例	大阪狭山市男女共同参画推進センター（きらっとぴあ）	大阪狭山市男女共同参画推進プラン	大阪狭山市男女共同参画都市宣言に関する決議（平成26年4月）	大阪狭山市DV相談専用ダイヤル（婦人相談員直通ダイヤルイン）	大阪狭山市女性のためのよりそいホットライン事業（電話相談と生理用品の提供）	無回答
全体	492	14.2	25.0	8.9	4.1	12.6	11.0	58.3
男性	181	22.1	22.1	14.4	7.2	7.7	3.3	60.8
女性	297	9.8	26.9	5.7	2.0	15.5	15.8	56.6
性別を答えることに抵抗を感じる	10	10.0	20.0	10.0	10.0	20.0	10.0	60.0

【年代別】

年代別にみると、他に比べ、40～49歳で「大阪狭山市男女共同参画推進センター（きらっとぴあ）」の割合が高くなっています。

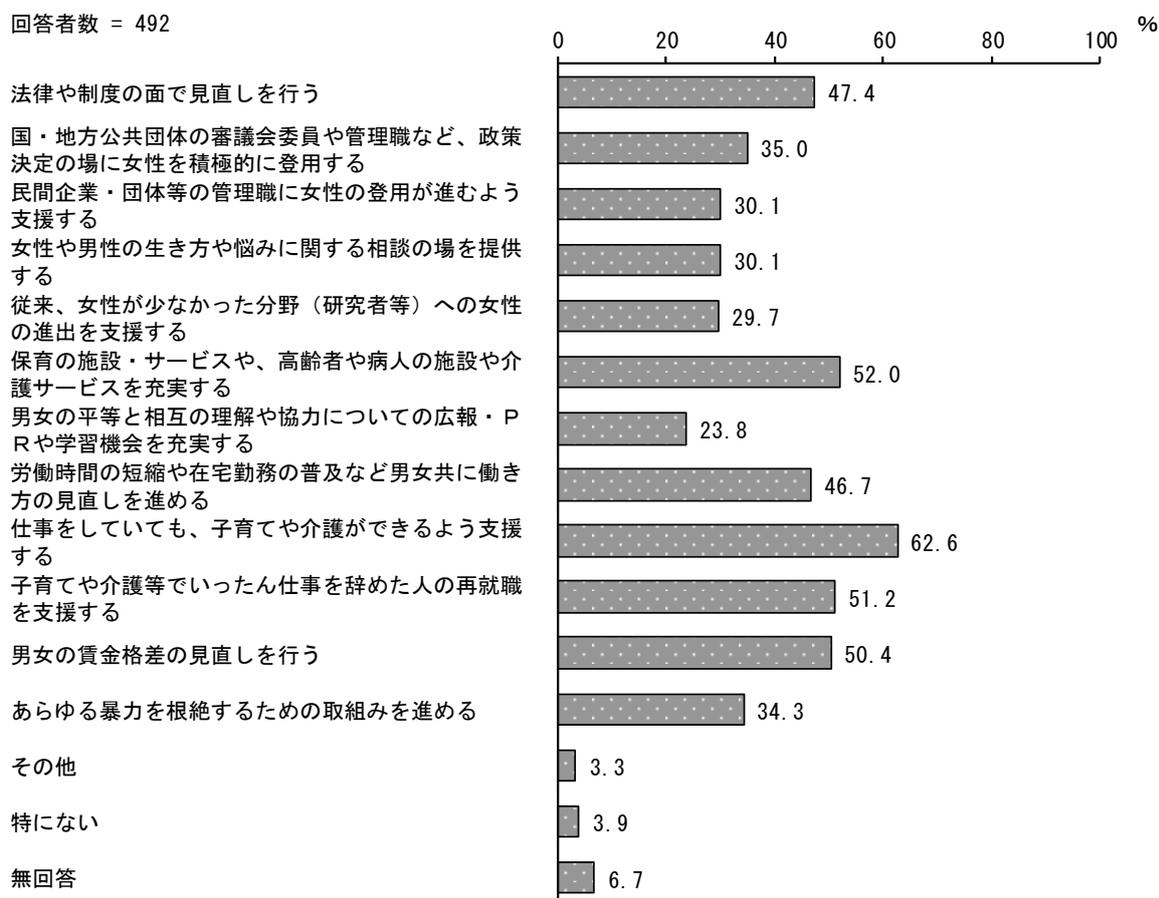
単位：%

区分	回答者数(件)	大阪狭山市男女共同参画推進 条例	大阪狭山市男女共同参画推進 センター(きらっとぴあ)	大阪狭山市男女共同参画推進 プラン	大阪狭山市男女共同参画都市 宣言に関する決議(平成26 年4月)	大阪狭山市DV相談専用ダイ ヤル(婦人相談員直通ダイヤ ルイン)	大阪狭山市女性のためのより そいホットライン事業(電話 相談と生理用品の提供)	無回答
全 体	492	14.2	25.0	8.9	4.1	12.6	11.0	58.3
18～19歳	2	—	50.0	—	—	—	—	50.0
20～29歳	42	16.7	23.8	14.3	9.5	7.1	14.3	59.5
30～39歳	102	9.8	22.5	4.9	4.9	16.7	11.8	58.8
40～49歳	103	18.4	30.1	10.7	2.9	15.5	8.7	53.4
50～59歳	101	13.9	22.8	6.9	3.0	15.8	12.9	60.4
60～69歳	73	16.4	21.9	12.3	1.4	5.5	6.8	58.9
70歳以上	63	11.1	25.4	6.3	4.8	7.9	12.7	61.9

問 37 「男女共同参画社会」を実現するために、今後、行政はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。（あてはまる番号すべてに○）

「仕事をしていても、子育てや介護ができるよう支援する」の割合が62.6%と最も高く、次いで「保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する」の割合が52.0%、「子育てや介護等でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」の割合が51.2%となっています。

回答者数 = 492



【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。

単位：%

区分	回答者数(件)	法律や制度の面で見直しを行う	国・地方公共団体の審議会委員や管理職など、政策決定の場に女性を積極的に登用する	民間企業・団体等の管理職に女性の登用が進むよう支援する	女性や男性の生き方や悩みに関する相談の場を提供する	従来、女性が少なかった分野(研究者等)への女性の進出を支援する	保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する	男女の平等と相互の理解や協力についての広報・PRや学習機会を充実する
全体	492	47.4	35.0	30.1	30.1	29.7	52.0	23.8
男性	181	49.2	32.6	31.5	34.8	24.9	47.0	26.0
女性	297	46.8	36.0	29.0	26.9	32.3	54.9	23.2
性別を答えることに抵抗を感じる	10	40.0	50.0	50.0	20.0	40.0	60.0	10.0

区分	労働時間の短縮や在宅勤務の普及など男女共に働き方の見直しを進める	仕事をしたいも、子育てや介護ができるよう支援する	子育てや介護等でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する	男女の賃金格差の見直しを行う	あらゆる暴力を根絶するため取り組みを進める	その他	特になし	無回答
全体	46.7	62.6	51.2	50.4	34.3	3.3	3.9	6.7
男性	43.1	58.6	50.8	46.4	35.9	4.4	5.0	3.9
女性	48.1	65.7	51.2	52.9	33.0	2.4	3.0	8.4
性別を答えることに抵抗を感じる	60.0	50.0	60.0	50.0	40.0	10.0	10.0	-

【年代別】

年代別にみると、他に比べ、60～69歳で「保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する」「あらゆる暴力を根絶するための取組みを進める」の割合が、20～29歳で「法律や制度の面で見直しを行う」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	法律や制度の面で見直しを行う	国・地方公共団体の審議会委員や管理職など、政策決定の場に女性を積極的に登用する	民間企業・団体等の管理職に女性の登用が進むよう支援する	女性や男性の生き方や悩みに関する相談の場を提供する	従来、女性が少なかった分野(研究者等)への女性の進出を支援する	保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する	男女の平等と相互の理解や協力についての広報・PRや学習機会を充実する
全体	492	47.4	35.0	30.1	30.1	29.7	52.0	23.8
18～19歳	2	100.0	—	—	50.0	—	50.0	—
20～29歳	42	57.1	38.1	19.0	38.1	31.0	54.8	28.6
30～39歳	102	43.1	36.3	32.4	31.4	30.4	51.0	22.5
40～49歳	103	54.4	34.0	32.0	34.0	28.2	42.7	22.3
50～59歳	101	47.5	37.6	34.7	32.7	30.7	51.5	25.7
60～69歳	73	50.7	42.5	34.2	17.8	32.9	63.0	26.0
70歳以上	63	30.2	20.6	20.6	22.2	25.4	55.6	20.6

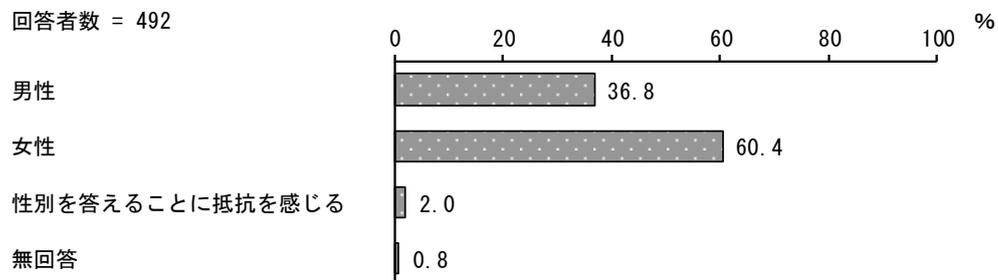
区分	直しを進める	仕事をしていても、子育てや介護ができるよう支援する	子育てや介護等でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する	男女の賃金格差の見直しを行う	あらゆる暴力を根絶するための取組みを進める	その他	特になし	無回答
全体	46.7	62.6	51.2	50.4	34.3	3.3	3.9	6.7
18～19歳	50.0	50.0	—	—	50.0	—	—	—
20～29歳	54.8	66.7	52.4	57.1	38.1	2.4	4.8	4.8
30～39歳	47.1	65.7	55.9	52.9	33.3	3.9	2.9	5.9
40～49歳	53.4	63.1	51.5	49.5	28.2	4.9	1.9	2.9
50～59歳	46.5	62.4	53.5	47.5	34.7	5.0	4.0	4.0
60～69歳	41.1	64.4	47.9	53.4	42.5	1.4	4.1	8.2
70歳以上	33.3	52.4	42.9	44.4	31.7	—	7.9	17.5

(9) あなた自身について

問 38 あなたの性別についてお答えください。(1つだけ○)

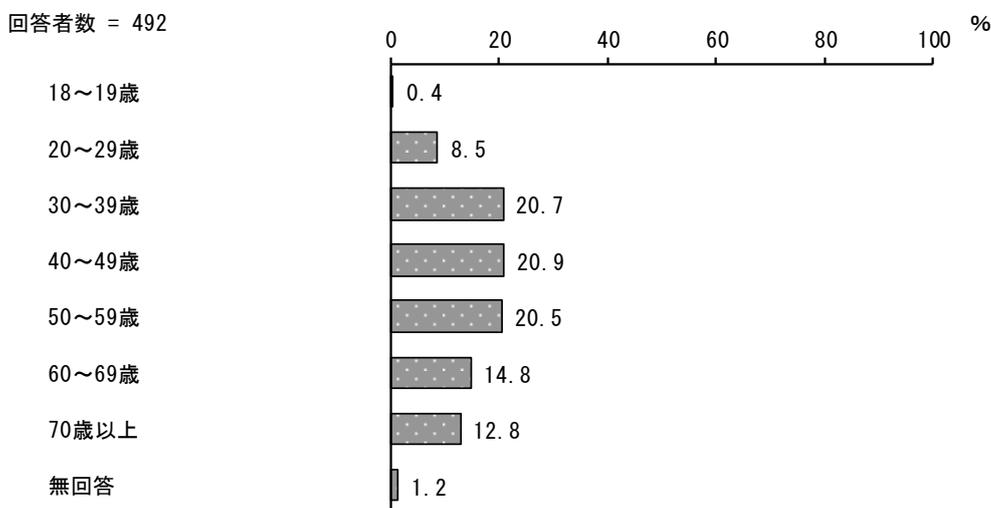
「女性」の割合が60.4%と最も高く、次いで「男性」の割合が36.8%となっています。

回答者数 = 492



問 39 あなたの年齢についてお答えください。(記入日時点)

「40～49歳」の割合が20.9%と最も高く、次いで「30～39歳」の割合が20.7%、「50～59歳」の割合が20.5%となっています。



【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。

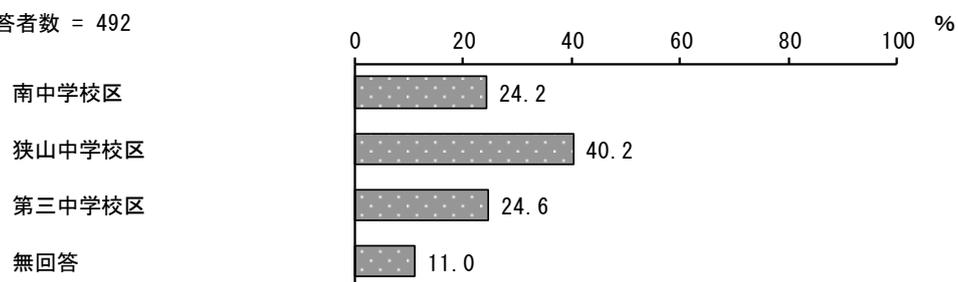
単位：%

区分	回答者数 (件)	18 ～ 19 歳	20 ～ 29 歳	30 ～ 39 歳	40 ～ 49 歳	50 ～ 59 歳	60 ～ 69 歳	70 歳 以上	無 回 答
全 体	492	0.4	8.5	20.7	20.9	20.5	14.8	12.8	1.2
男性	181	0.6	8.8	16.6	22.1	21.0	16.6	13.8	0.6
女性	297	0.3	8.4	23.2	20.5	20.5	14.1	12.1	0.7
性別を答えることに抵抗を感じる	10	—	10.0	30.0	20.0	20.0	—	20.0	—

問 40 あなたはどちらにお住まいですか。(1つだけ○)

「狭山中学校区」の割合が40.2%と最も高く、次いで「第三中学校区」の割合が24.6%、「南中学校区」の割合が24.2%となっています。

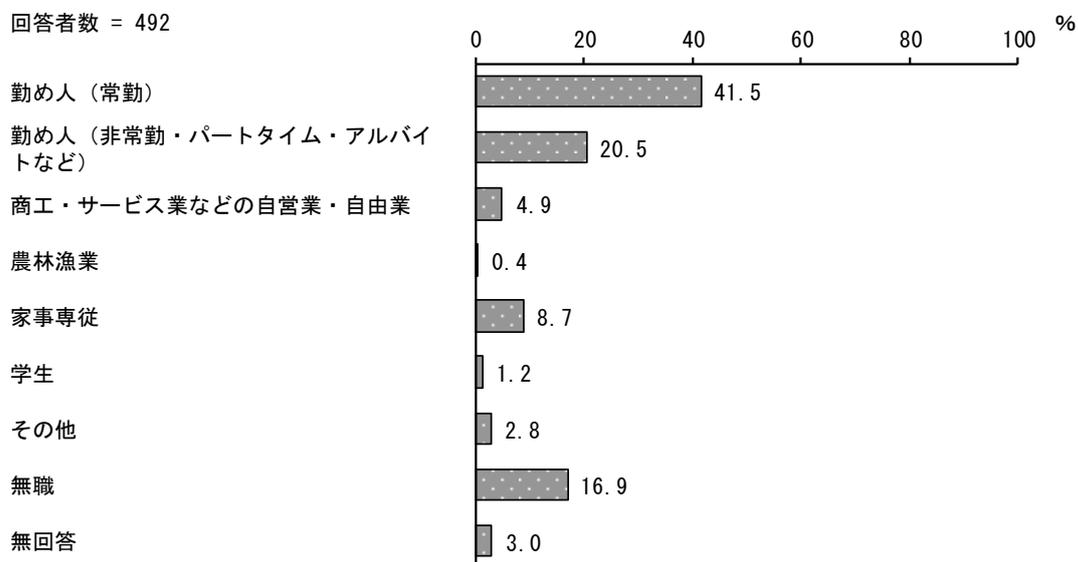
回答者数 = 492



問 41 あなたとあなたの配偶者・パートナーのご職業についてお答えください。
(それぞれ1つだけ○)

<ご自身の職業(1つだけ○)>

「勤め人(常勤)」の割合が41.5%と最も高く、次いで「勤め人(非常勤・パートタイム・アルバイトなど)」の割合が20.5%、「無職」の割合が16.9%となっています。



【性別】

性別にみると、男性で「勤め人(常勤)」の割合が、女性で「勤め人(非常勤・パートタイム・アルバイトなど)」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	勤め人(常勤)	勤め人(非常勤・パートタイム・アルバイトなど)	商工・サービス業などの自営業・自由業	農林漁業	家事専従	学生	その他	無職	無回答
全体	492	41.5	20.5	4.9	0.4	8.7	1.2	2.8	16.9	3.0
男性	181	60.8	9.9	5.5	0.6	—	1.1	2.2	17.7	2.2
女性	297	30.3	26.9	4.4	0.3	14.5	1.3	3.0	16.8	2.4
性別を答えることに抵抗を感じる	10	40.0	30.0	10.0	—	—	—	10.0	10.0	—

【年代別】

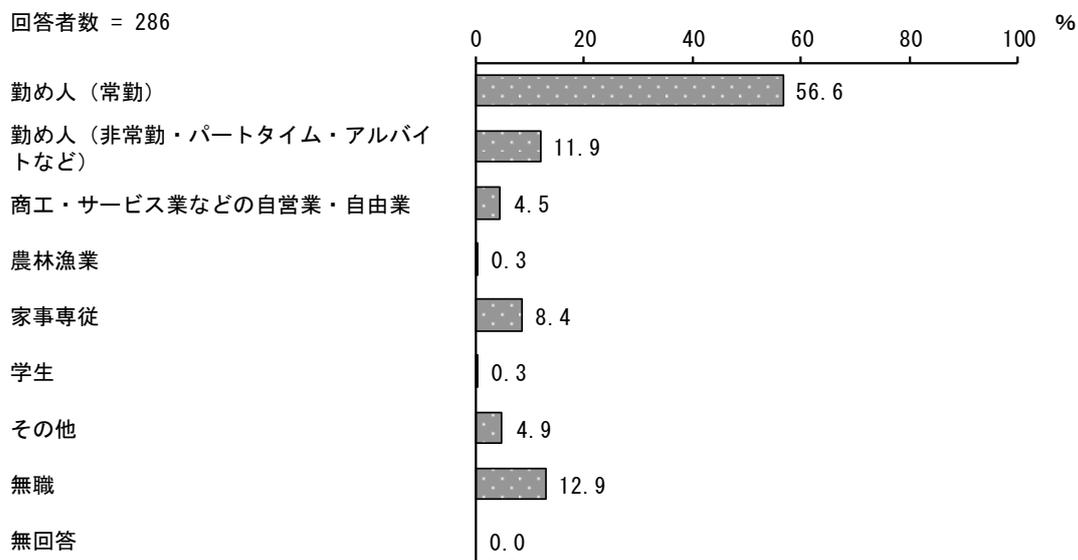
年代別にみると、他に比べ、60歳以上で「無職」の割合が、20～29歳で「勤め人（常勤）」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	勤め人 (常勤)	勤め人(非常勤・パート タイム・アルバイトなど)	商工・サービス業などの 自営業・自由業	農林漁業	家事専従	学生	その他	無職	無回答
全 体	492	41.5	20.5	4.9	0.4	8.7	1.2	2.8	16.9	3.0
18～19歳	2	—	50.0	—	—	—	50.0	—	—	—
20～29歳	42	57.1	9.5	—	—	9.5	11.9	4.8	4.8	2.4
30～39歳	102	55.9	21.6	2.9	—	11.8	—	5.9	2.0	—
40～49歳	103	55.3	23.3	4.9	1.0	8.7	—	1.0	4.9	1.0
50～59歳	101	44.6	28.7	5.9	—	5.0	—	4.0	8.9	3.0
60～69歳	73	24.7	15.1	11.0	—	9.6	—	—	34.2	5.5
70歳以上	63	3.2	12.7	3.2	1.6	9.5	—	1.6	63.5	4.8

<配偶者・パートナーの職業（1つだけ〇）>

「勤め人（常勤）」の割合が56.6%と最も高く、次いで「無職」の割合が12.9%、「勤め人（非常勤・パートタイム・アルバイトなど）」の割合が11.9%となっています。



【性別】

性別にみると、他に比べ、女性で「勤め人（常勤）」の割合が、男性で「勤め人（非常勤・パートタイム・アルバイトなど）」「無職」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数（件）	勤め人（常勤）	勤め人（非常勤・パートタイム・アルバイトなど）	商工・サービス業などの自営業・自由業	農林漁業	家事専従	学生	その他	無職	無回答
全体	286	56.6	11.9	4.5	0.3	8.4	0.3	4.9	12.9	—
男性	117	25.6	23.9	2.6	0.9	20.5	—	5.1	21.4	—
女性	162	78.4	3.7	6.2	—	—	0.6	4.3	6.8	—
性別を答えることに抵抗を感じる	7	71.4	—	—	—	—	—	14.3	14.3	—

【年代別】

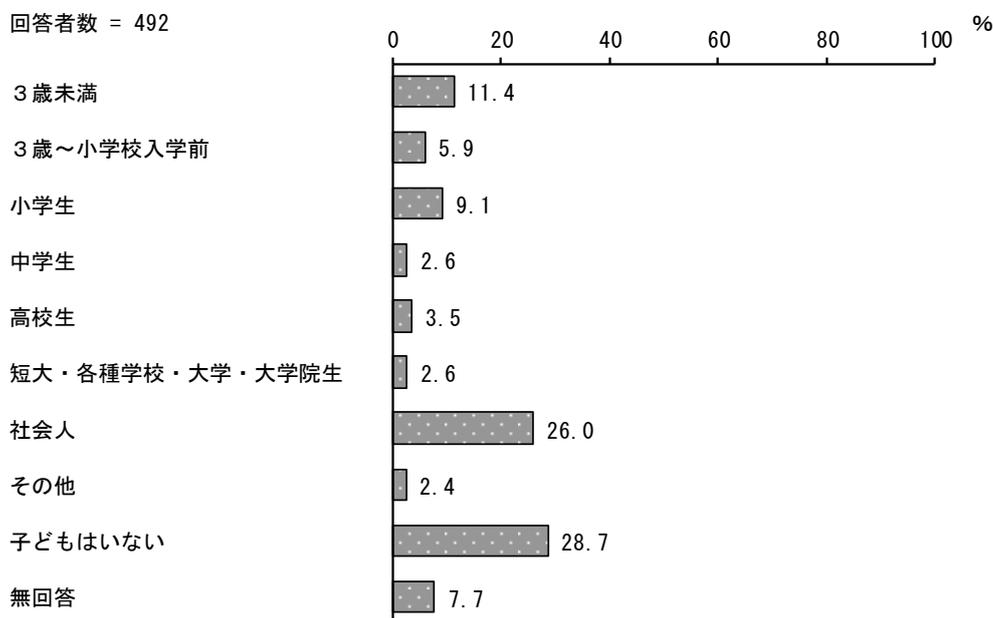
年代別にみると、他に比べ、70歳以上で「無職」の割合が、20～39歳で「勤め人（常勤）」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	勤め人 (常勤)	勤め人(非常勤・パート タイム・アルバイトなど)	商工・サービス業などの 自営業・自由業	農林漁業	家事専従	学生	その他	無職	無回答
全 体	286	56.6	11.9	4.5	0.3	8.4	0.3	4.9	12.9	—
18～19歳	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
20～29歳	24	79.2	4.2	—	—	—	4.2	4.2	8.3	—
30～39歳	71	73.2	9.9	4.2	—	7.0	—	5.6	—	—
40～49歳	71	66.2	9.9	5.6	1.4	7.0	—	4.2	5.6	—
50～59歳	53	56.6	9.4	7.5	—	13.2	—	3.8	9.4	—
60～69歳	38	28.9	23.7	5.3	—	13.2	—	7.9	21.1	—
70歳以上	28	7.1	17.9	—	—	7.1	—	3.6	64.3	—

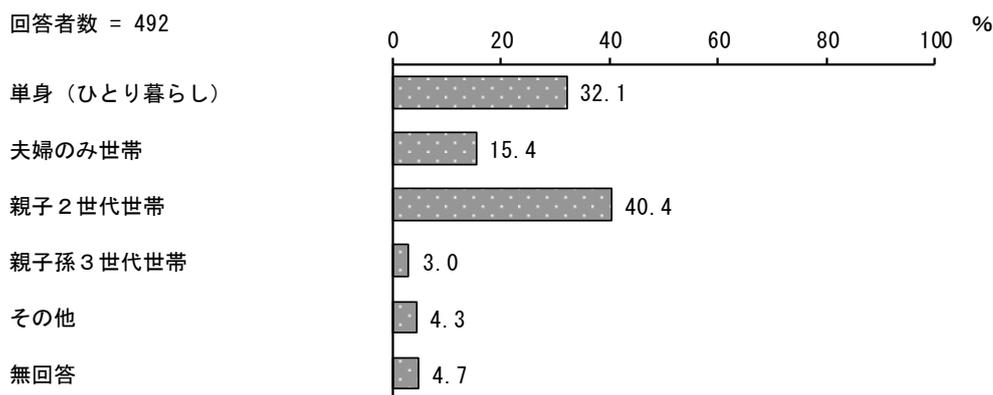
問 42 あなたの一番年少の子どもは、次のうちどれにあたりますか。(1つだけ○)

「子どもはいない」の割合が28.7%と最も高く、次いで「社会人」の割合が26.0%、「3歳未満」の割合が11.4%となっています。



問 43 あなたの家族構成についてお答えください。(1つだけ○)

「親子2世代世帯」の割合が40.4%と最も高く、次いで「単身(ひとり暮らし)」の割合が32.1%、「夫婦のみ世帯」の割合が15.4%となっています。



自由意見

◆男女共同参画社会の実現にあたってご意見・ご感想がありましたら、ご自由にお書きください。

①就業・社会進出について

意見	性別	年齢
退職後に出産した場合の再就職の困難さを感じます。乳幼児家庭への保育料等の経済的支援を実現することが一つの解決策だと思います。	女性	40歳代
管理職に一定数女性を雇用するとか、採用に一定数女性を採るなど、女性の雇用率（昇進率）をあげることは簡単に思うが逆差別になりかねないし、組織のパフォーマンスが落ちることもあると思う。能力主義になるよう工夫しなければならない。	女性	30歳代
健康な社会を目指して公助の面から個々人の希望に合った衣食住のなかで生活できるよう助けて下さい。個人は自動で資格、職を得て、配偶者、子を得て頑張りますから、周りは気持ち応援団で足を引っ張らず「健康」に過ごしましょう（WHOの定義）	男性	70歳以上
長年パートで働いていますが社員と同じ仕事をしているのにも関わらず女性はパートのまま社員になれないです。企業側の意識も変えて欲しいと思う事がよくあります。	女性	50歳代
女性は妊娠、育児というイベントが人生にある方が多い中で育児休業中から復帰に向けてまた同じように（役職等）働ける周りの理解を受け、男の従業員から陰で悪口を言われないように会社（特に中小）の風土を変えていけるように国や市がサポートしてほしいと思います。	女性	30歳代
「男、女」のみならず、「マジョリティ、マイノリティ」、職業、収入、年齢（世代）などの隔たり無く協力できる大阪狭山市になれば良いと思います。今よりもっと住みやすい町になりますよう。	女性	50歳代
狭山はひとり親に厳しく、収入を得て生活しようとするれば子どもに負担がいき、子どもを優先しようとするれば生活に負担が行く状況です。まずは児童扶養手当の上限額を大幅アップすることを望みます。今世間は賃上げムードですが、賃上げになると手当がなくなるひとり親もたくさんいるはず。こどもがすくすくと笑顔で育てられるよう、それなりの生活ができるようサポートしてもらいたいです。もっと家庭、仕事どちらも優先できるような社会になってほしいです。	女性	40歳代
男女平等とは言っても力仕事は男性の方が効率的だし、出産、授乳は女性しかできません。役割を理解しつつ労働時間の平等や賃金格差は無くしていきましょう。時間短縮や休暇をおぎなう人材配置や確保も必要。子育てばかりに支援が行われるのではなく、それを支える人にも配慮ある世の中になりますように。	女性	60歳代
保育園はあいていない。女性は育児がメインで、仕事を行う（キャリアを続けていくため）のに限界があると思う。私の母は専業主婦が長かったので非雇用でくいつないでいる。また仕事なくなるのかと思うと不安しかない。女性も働きやすい様に保育園を充実してほしい。子供が病気になった時に頼れるサービスを増やしてほしい。	女性	20歳代

男だから、女だからとかそういう視点で見るのではなく、能力ある人たちがそれに応じた地位や職位に付き、力を発揮できる社会であればいいと思う。	男性	60 歳代
もっと女性が意見できる場所が市内に合ったらいいと思う。先日市議会議員による小学生へのわいせつ行為とか本当気持ち悪いし許せないしそんな人が働いているのに周りは本当に気付いてなかったのか疑問。きちんと説明してほしいし今後は女性はそういう場に率先して行ってほしい。	女性	40 歳代
国や自治体の政策決定の場に女性を多くした方が良くと思う。女性の立場で考えられるのは女性であり、男性が考えるのでは限界があるように思う。	男性	40 歳代
男性有利、女性有利とどちらか一方が有利になるような仕組み、制度がなされてはいけません。少子化、少母子化、独身世帯の増加により異性とはどのような存在か知り得難くなったこの世の中、一社会の実現のために個々の意識改革ができるようにした方がいいと思います。	男性	30 歳代

②意識改革について

意見	性別	年齢
男女が平等になるのは良いが本来の男であること、女であることやそれらしさというのを忘れてはならないと思う。	男性	50 歳代
私自身が女性として負担感や不平等を感じることもありますが、反対に女性ゆえ、優遇されていると感じることもあります。(ex. 力仕事や自治会の役員から逃れること) 男性女性とも、意識の改革が必要だとも思います。又そのためには長い時間がかかるとも思います。ひとり親家庭として苦勞しました。とくにシングルマザーに対する支援の強化も男女共同参画社会実現の大きな課題であると考えます。	女性	60 歳代
昭和時代の生活から令和の現代機械しかり、スマホ、考える機会が少なくなり人とのコミュニケーションが少なくなったように思います。男女共同といいながらもなかなか共同とは？と思ったりしています。80 歳ですこれから若い人たちの生活が良くなりますように。	女性	70 歳以上
日本はまだまだ男性社会で政治の場でも権利にしがみついている年寄り男性が多すぎる！！国会議員のせめて 1/3 以上は女性であるように。	男性	40 歳代
男性、女性にかかわらず、機会の平等（結果ではなく）が保障されていることが大事だとも思います。(なんでも女性の数を増やせばいいというのではないと思います) また、欧米 or 国連の価値観が常に進んでいて正しいとは限らないとも思います。LGBTQ、日本は昔から同性愛に寛容な国であったとも思います（宗教的禁忌でもなかったのでは？）メディアや一部の人達が言うような差別のひどい国でしょうか？	女性	40 歳代

<p>出産、妊娠は女性にしかできないので、キャリアがストップしてしまうのは仕方ない。でも、それをネガティブにとらえず、もっと子どもといたいから専業主婦になりたい。でも1馬力では不安なので、泣く泣く社会復帰してる人が多い。希望としては1馬力で安定して生活が送れ、共働きでもっと豊かになれるくらい賃金も増えるといいと思う。そして社会人が心のゆとりをもてるように、労働時間の減少、休日の増加を望みます。日本人は働きすぎです。女性にやさしい世の中にはなってきたが、逆差別も気になる。</p>	女性	30歳代
<p>まず、情報提供の上、国民の意識啓発を行う必要があると思います。</p>	女性	50歳代
<p>男女共同参画社会 初めて聞きました。もっと色々勉強しないといけないと思いました。</p>	女性	40歳代
<p>性に関連する偏見を減らすような社会全体の意識改革や取組は個々の生活のしやすさ、生きやすさの助けとなると思います。異性の考え方、気持ちを知ること、理解し、配慮することは大切なことであると思います。どのようなことも無理強いや強要をすることをしないように意思の疎通ができるようになること、性の尊厳を守ることの大切さや必要性についても考えるべきだと思います。</p>	女性	50歳代
<p>子育て、介護をパートナーや周囲の人々と協力して行える社会になってほしいです。</p>	女性	50歳代
<p>いい時代になったと思います。男性の意識変化は、なかなか進んでいない気もしているが若い世代が、素晴らしいと思う。→社会的な取組で変わって来ていると好ましく思う。</p>	女性	70歳以上
<p>私は夫婦で働いているが、子どもが病気になった時に手伝ってくれたのは義母であった。その為私は常勤で仕事ができたが、周りの常勤で働いている人などは、子どもが保育園に行くとすぐ等病気がちでフルでは働きづらくなりパートなどになっていく人を何人も見てきた。50歳~60歳代の人たちの男女に対する理解が特に低い気がする。その為再生産されている。</p>	女性	30歳代

③教育について

意見	性別	年齢
<p>男女の差別なく”人としてお互いを尊重する教育”を幼少から行う必要性を感じる。性犯罪を防ぐためにも。</p>	女性	—
<p>今後子どもが産まれて働くにあたって、もう少し働きやすい環境ができればいいなと思います。仕事に復帰しても病気などで長期間休まざるをえない状況もあり、夫婦2人では厳しいと思います。色々制度や保育施設の充実を願っています。</p>	女性	30歳代
<p>離婚して大阪狭山市へ来たのですが、昔の考え方の男性に対しての講習会などを開いて何が悪いのかおしえることができれば私のような障害を持つ女性が減ってくると思う。自分のことは自分ですることを子ども（大人になった人）におしえてほしい。</p>	女性	50歳代

④個人の尊重・相互理解について

意見	性別	年齢
宗教の違いによる考え方の違う人へはどうするのでしょうか？具体的にイスラム教の厳しい戒律をもつ文化圏の人達も実際居ます。男女共同参画という根本的な考え方が違う事はすぐわかるはずです。	女性	30歳代
不平や不満、楽をすること、苦勞すること、そういうことを含めて、人は人の世を生きているのだと思います。どこか一部の人の意見や主張を通そうとする目的のために数を頼んだり、歴史も文化も異なる他国を引き合いに出してくるなどは、正しくないのではないかと考えます。人それぞれが自身の本来のあり処を見極めた上での意見、議論であるならば、それはそれで意義のあることのように思います。	男性	60歳代
男には男として持って生まれた特質があり、女性にも特質が（動物学的に）ある限り「男女共同参画社会」の完全なる実現は無理だと思う。少子化などを無視してダブルインカム、ノーキッズなら可能（子どもを産まない社会なら子育て問題は起きない）	女性	50歳代
男性の育休義務化、産前の父親教室など育児の大切さ、大変さを夫婦ともに感じて助け合えるような環境が必要。LGBTの方が使えるトイレの設置など、公共施設から始めて行ってほしい（学校含め）	女性	40歳代
男女の平等について、なかなか社会の理解が無いように思います。すべての人々が能力を生かして自由に責任ある社会を望む。	女性	70歳以上

⑤アンケートについて

意見	性別	年齢
このアンケートを見る限り女性優位のアンケートと思える。男女共同参画社会の根本は男性も女性も平等であることが大切だと考えるのでもう少し配慮された方が良いと思う。	男性	60歳代
難しいです。内容がもう少し答えやすいというかシンプルだったら。読んで理解するのがなかなか難しいです。	女性	50歳代
過去のこととはいえ、性暴力について問われるのはどうかと思います。とてもデリケートな部分ですし、思い出したくない部分です。今後このようなアンケートをとる場合はもっと内容を配慮して下さい。	女性	60歳代
制度に関するアンケート実施は色々勉強になるし意識づけにもなるので今後も実施してほしいです。	男性	40歳代
いまさらながらこんなアンケートを取らなければいけない行政にあきれ。誰が見てもわかっている事ばかり。これを考えた方は時代遅れの石頭か、ネットをみれば、費用の無駄遣い。	女性	60歳代
こんなズレた内容のアンケートを作っている時点で、実現はむずかしいと思います。	女性	40歳代

これからも住み良い町づくりをよろしくお願いします。	男性	60 歳代
福岡から大阪狭山市に引っ越してきて2年弱なので、私の生活に直接関係のない市役所の活動については、今まで関心がありませんでした。これを機に広報等を良く読むことにします！！	女性	70 歳以上
今まで全く関心がなかったのでよくわかりませんでした。	女性	70 歳以上
文字が多すぎて見にくい。こんなのだめです。回答がしにくい。	—	60 歳代
大阪狭山市の住みやすさくしよ計画、男女問題、今と昔とは変わってきています。市民に寄り添うアンケート素晴らしいと思います。泉ヶ丘駅、金鋼駅の最寄り駅が遠すぎ、また、坂ばかりで歩道が狭くご年配の方や母子には大変危ない道が多すぎると思っています。(車が沢山走っているの)	女性	30 歳代

⑥その他

意見	性別	年齢
日本を応援しています。	男性	40 歳代
ガラスの天井。	男性	70 歳以上
まず今抱えている大阪狭山市の問題をしっかりと解決して下さい。このままでは人が減ります。大阪狭山市に住みたいと思える市に向かってください。現実を見てしっかり迅速に対応をお願いします。今の段階では大阪狭山市に住んでいる人は恥ずかしいことになります。	男性	40 歳代
私は女性を尊重したいと思います、値する女性が少ないです。私も人間としてのモラルもレベルもかなり低いと感じています。独身ですが、肉体関係のある女性は常に3人以上います。彼女たちは20代です。常に金銭的に苦しんでいます。こんな世の中でいいと思いますか？	男性	50 歳代
介護保険とは関係はないが病院に行く介護車は往復の料金が高すぎます。高齢なので外に出ることはなく病院だけは月3回位行っているが狭山市では通院バスが無いので身体障害をもっているのタクシしかありません。どうか狭山市だけに安くいける様お願いしたいと思います。市長様へ	女性	70 歳以上
こういった取り組みを真面目にされている方がいるなか、先日女兒に強制わいせつをした容疑をかけられた市議会議員がいる市に住んでいることがすごく残念でなりません。子育てしやすい、男女共同参画社会の実現とうたっているのであれば、まず組織の毒抜きを徹底的にお願いします。懲役が終わっても絶対に市にたずさわる仕事には戻さないでください。お願いします。	女性	30 歳代

大阪狭山市
男女共同参画に関する市民意識調査
結果報告書

令和5年3月

発行：市民生活部 市民相談・人権啓発グループ
〒589-8501 大阪狭山市狭山一丁目2384番地の1
TEL 072-366-0011
FAX 072-366-0051